

教室年報 2020



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2020

巖刀会(外科学講座同門会)



岩手山と為内の一本桜(八幡平市)

外科学講座の歴史

本学は昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹、そして昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和31年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和61年に東北大学第2外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年に斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成27年8月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で高質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでいます。



こちらのQRコードを読み取って
ホームページにアクセスできます

外科学講座の 広報活動

当科では我々がやっている医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解をいただくために、ホームページの充実を図っております。最新医療をトピックスとして提供するとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもご理解していただくことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内も随時更新しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報 (2020年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

2020年を振り返って…………… 外科学講座教授 佐々木 章

教室の今年1年

教授に就任して…………… 外科学講座教授 新田 浩幸

2020年を振り返って…………… 外科学講座准教授 大塚 幸喜

1年をふりかえって…………… 外科学講座准教授 岩谷 岳

准教授を拝命して…………… 外科学講座准教授 秋山 有史

着任のご挨拶…………… 外科学講座准教授 鈴木 信

014 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

019 チーム紹介

上部消化管チーム／下部消化管チーム／肝胆膵・内分泌代謝外科チーム／
乳腺チーム／小児外科チーム／リサーチチーム《分子治療研究室》／
高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

031 寄稿

国内留学レポート…………… 平田勇一郎

032 表彰の栄誉

日本肝胆膵外科学会2020年度 2-years citation award as of 2018受賞
…………… 高原 武志

2020年度蔵刀会学術賞受賞…………… 二階 春香

034 2020年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／
関連病院発表業績件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／
日本消化器外科学会専門医制度認定施設

036 新教室員紹介

平田勇一郎／岩崎 崇文／岩佐 友寛／大塚 観喜／口田 脩太

038 新聞記事紹介

042 2020年アルバム紹介

044 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・
盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・北上済生会病院・
岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・
八戸赤十字病院・かづの厚生病院

054 外科紹介医療機関

059 研究業績

068 スタッフ名簿

070 協賛広告



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

2020年を振り返って

教室における2020年の振り返りと2021年の抱負を述べさせていただきます。

2020年は、「コロナで始まり、コロナで終わる1年」でした。2019年9月21日に開院した岩手医科大学新附属病院の通勤・生活環境にもようやく慣れ、外科学講座の診療活動も右上がりに回復する予定を考えていました。しかし、世界では、2020年1月からCOVID-19感染の流行が始まり、3月にはWHOがパンデミック宣言、4月には東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫と福岡の7都道府県を対象に1回目の緊急事態宣言が発令されました。この時の東京の新規感染者数は100名未満でしたが、未知な感染症の恐怖から、東京でも街は閑散とし、通勤電車もガラガラの映像がテレビで放映されていました。COVID-19の危機に直面し、われわれもオンライン教育、診療体制や生活様式などを見直さ

なければならない「new normal」に直面しています。

日本消化器外科学会は、2020年3・4月のCOVID-19感染に伴う消化器がん手術制限に関するアンケート調査を行っています。477/887認定施設からの回答では、2020年4月から手術制限があると回答した施設は254施設(53.3%)で、その理由は市中感染の蔓延に備えてが、71.3%と最も多い結果でした。2020年1月を基準として、4月の手術全体(消化器がんを含む)の実施率は、変化なし23.5%、10%減17.6%、20%減19.3%、30%減12.2%、40%減6.1%、50%減7.8%と報告され、全国では深刻な状況となりました。一方で、岩手県は7月下旬までは「感染確認ゼロ県」でありましたが、クラスターが多発後は、「死亡率ワーストワンの県」ともなりました。しかし、当院では院内感染例が認められなかったことより、外科では

k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

手術制限なしの状態を維持できました。この状況の中で、2020 年における外科の診療実績は、総入院数は2019年の1,696名から1,931名に増加、総手術件数は、2019年の994件(全麻918件、局麻69件)から1,048件(全麻964件、局麻74件)に増加しました。2020年の稼働額(月平均)は、入院では192,092,178円(2016～2019年の4年間における最大稼働額は186,726,718円)、外来では95,807,565円(2016～2019年95,616,504円)でした。附属病院移転とCOVID-19感染という不利な診療状況下でも、現在のところ目標値を達成できているのは、教室員一同の努力が継続している結果と思います。

もう一つの嬉しい出来事は、低迷していた医師国家試験合格率に改善の兆しが見られたことです。2019年度から3年間の任期で教務委員長を担当していますが、第114回が最初の担当年で様々な学修支援と適正な進級試験を行いました。本学の合格率は、第113回(2019年)は全体126/170名(74.1%)・新卒108/133名(81.2%)で80大学中79位から、第114回(2020年)は全体141/154名(91.6.1%)・新卒105/110名(95.5%)となりました。第115回(2021年)の国試受験者数は、新卒142名・既卒13名で、新卒が多くなりましたが、新卒合格率90%以上を祈っています。

外科の人事では、2020年4月1日付で新田浩幸君(平成5年卒)が講座内教授に、岩谷 岳君(平成5年卒)が准教授に昇任しました。また肝胆膵・移植チームを支えてくれた長谷川康君と高原武志君が退職となりました。長谷川康君は、2010年10月に慶應義塾大学との大学病院連携型高度医療人育成コースで当科へ赴任し10年と

なりましたが、4月1日付で慶應義塾大学外科学(一般・消化器)の肝移植責任者として移動となりました。高原武志君は、2007年7月に公立福生病院から当院での肝移植立ち上げのために赴任し13年となりましたが、9月1日付で藤田医科大学総合消化器外科准教授に就任しました。お二人は、肝移植、腹腔鏡下肝切除や肝胆膵高難度手術領域で多くの業績を残され、教室の教育、研究と診療にご尽力いただきました。教室にとって、お二人と一緒に仕事をできたことは大変良い刺激となり、教室員の意識変容になったと確信しています。長い間、本当にありがとうございました。

研究では、競争的研究資金として、2020年度の科研費補助金の交付件数は4件(基盤研究C3件、独立基盤研究支援1件)・継続研究5件(基盤研究C)、奨学寄付研究9件を獲得しました。今後も更なる競争的研究資金などの獲得を目指して、独創的で先駆的な基礎・臨床研究を立案していきたいと思います。

今後も継続すると思われるCOVID-19感染の対応、「挫折から回復し、変化にうまく対応し、逆風に直面しても前進し続ける能力(resilience)」が必要で、このためには身体が一番大切と考えます。ある報告によると、肥満では呼吸不全が2倍、ICU入室率が5倍、BMIが35以上では死亡率が12倍高いという衝撃的な数字が報告されています。コロナ禍では太らないように注意し、2022年は笑顔で桜が眺められることを願います。

巖刀会、そして関連病院の皆様方には、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

医局長 **新田 浩幸**

Hiroyuki Nitta, M.D., Ph.D.
Professor

教授に就任して

2020年5月1日付けで講座内教授を拝命しました。昨年末、ニュースレターというかたちで同門の先生にはご挨拶させて頂きましたので、内容が重複する部分もありますが、あらためて教授就任のご挨拶をさせていただきます。

私は1993年に岩手医科大学を卒業して第一外科（斎藤和好教授）に入局し、八戸赤十字病院、県立福岡病院（二戸病院）、函館五稜郭病院などへの短期・長期出張により、多くの先輩から外科の基本技術を学びました。自分が入局した当時は、開腹から腹腔鏡へ、generalistからspecialistへなど、様々な場面で移行期であったと思いますが、その両者を経験できたことはその後の自分にとって大きな財産となりました。また、腹部だけではなく甲状腺や乳腺の手術も多く経験させていただき、整容性に対する意識はこのときに勉強させてもらったと今になって思います。現在は肝胆膵・移植分野を専門として診療を担当しておりますが、大学だけではなく短期・長期出張先でも肝胆膵手術の指導を受ける機会にも恵まれ、その経験は自分の手術手技の根幹となっております。

1999年から肝胆膵疾患を中心に診療を行っており、これまで約2,500件の肝胆膵手術（ラパ胆を除く）を経験しました。腹腔鏡下肝切除術は1997年に佐々木章教授が導入し、その後自分が引き継ぐかたちで現在も積極的に行っております。これまでの大学における腹腔鏡下肝切除術の手術件数も800となり、関連施設などでの症例を含め

r o y u k i N i t t a

M.D., Ph.D. Professor

ると自身の経験は1000を超えました。最近の腹腔鏡下で行う肝切除の割合は約85%であり、我々の中では特別な手術ではなくなったことから、通常の肝切除として若手医師に行ってもらうことも増えてきました。腹腔鏡下手術は肝切除以外にも膵体尾部切除術、膵頭十二指腸切除術、胆管切除術などを積極的に行っておりますが、より安全で安定した手技の確立を目指していきたいと考えております。

我々は肝胆膵領域を臓器でわけることなく一つのチームで行っています。開腹、腹腔鏡に関しても同様です。日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医、日本内視鏡外科学会の技術認定医の両者を取得するよう、偏りなく若手医師には経験を積んでもらう方針にしています。また、集学的治療を必要とする進行癌においても、外科治療の役割・タイミングを逃さないよう手術の力を伝えていきたいと考えております。

生体肝移植は2007年から行われ、現在は生体と脳死を合わせて130件を超えました。各診療科、メディカルスタッフの協力のもとに良好な成績を得ることができ、2011年には脳死肝移植施設としても認定されております。肝胆膵外科領域では高度進行癌に対する手術も多く、動門脈や肝静脈など血管の合切再建も必要となりますが、肝移植の経験から安全に行うことができます。肝移植はチーム医療の最たるものであり、今後も各部署のご協力を頂きながら安全にすすめていきたいと考えています。

高侵襲で高難度手術である臓器移植から低侵襲手術である腹腔鏡下手術までを安全かつ安定して行っている施設はごく一部であり、我々の特色でもあります。患者に高度な医療を提供するとともに、当院の手術・治療患者から得られた新しいエビデンスを国内外に発信したいと考えております。また、微力ながら岩手県の医療の発展に貢献していきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

教室の今年1年



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

大塚 幸喜

Koki Otsuka, M.D., Ph.D.
Associate Professor

2020年を振り返って

コロナで始まりコロナで終わった2020年は、われわれの生活に大きな負担と制限を与えた年でした。そのような中でも本年報誌をご覧の通り、外科医局員たちは日常診療、教育、研究において必死に頑張り、例年以上に成果を出した1年だったと思います。

一方、個人的には対面式での学会・研究会や講演会、外科医局としてのイベントもほとんどなかった影響で、2020年を振り返ってみても本稿で報告するような思い出が見つかりません。特に、同門会事務局である立場としては、6月の巖刀会総会、12月の巖刀会忘年会が中止となり、同門の先生方には大変寂しい思いをさせてしまったことを非常に残念に思っております。2021年こそは、直接同門の先生方と笑顔でお会いできることを心から願っております。

さて、病院移転から1年5カ月経過しました。いまだ矢巾新病院に足を踏み入れたことのない先生方に現状を報告いたします。

通勤に関しては、移転前に最も不安だった問題でしたが、盛岡市内に住んでいる私は朝6時50分に家を出れば、4号線を通りほとんど渋滞なく20〜25分ほどで大学に到着しますので、早起きすれば解消できています。数年ぶりに豪雪となった今年は、仕事終わりの車上に積もった雪下ろしに苦戦

しております。

外来診療は、少し狭いブースですが新しく快適です。さらに最近は、医療クラークが付いてくれますので私自身も楽になりましたが、何よりも患者さんを長時間待たせずにスムーズに診療が行えるようになったと思います。私は、月曜日にAM内丸（大腸新患）、PM矢巾（大腸フォローアップ）の診療のため自家用車で移動していますが、これも30分間の息抜きと思えば苦痛ではありません。新病院になって最近感じていることは、矢巾以南の地域からの患者さんの紹介が増え、盛岡市内の紹介患者さんが明らかに減少しました。予想していたこととはいえ、病院としても今後の大きな課題です。内丸外来では新患患者さんを受け入れ、できる限りご負担のないように術前検査を行っておりますので、盛岡市内でご開業の先生方には今後ともどうかよろしくお願いいたします。

手術に関しては、広い手術室内にたくさんのクオリティーの高いモニターが揃っているため、大腸癌の約90%を腹腔鏡（ロボット含め）で行っている我々にとってはストレスなく行えております。昨年はコロナの影響で他施設からの手術見学者は制限されておりましたが、この現状が収束した暁には最先端の

K o k i O T S U K A

M.D., Ph.D. Associate Professor

手術室機能を駆使し、全国から多くの外科医を招いて岩手医科大学外科をさらにアピールしていきたいと思います。

教育に関しては、下部消化管チームとして大学院生の学位指導をはじめ、若手外科医への手術教育をこれまで以上に積極的に行い、2名が予定通り学位論文を仕上げ、2名が内視鏡外科技術認定医（大腸分野）を取得できました。特に大学院生の二人に関しては、忙しい日常臨床をしながらの研究であるため大変だったと思います。3月の学位授与式が楽しみです。一方、学生教育に関しては大きな課題があります。内丸時代は医局のすぐ隣に学生が待機していた環境でしたが、現在は学生待機室が医局と離れているため学生と一緒に行動する機会が明らかに少なくなりました。そして、コロナの影響が拍車をかけてさらに外科の魅力を伝えづらくなってしまいましたが、一人でも多くの学生に入局してもらうためにも、情熱ある教育と計画的な勧誘で外科の魅力を医局員が一致団結して伝えていきたいと思います。

以上、移転後の現状についてとりとめなく書きましたが、同門の先生方におかれましては、病院に対して何かお気づきの点、ご意見がございましたらご指摘いただけますと幸いです。どうかよろしくお願いいたします。

最後にとても残念なお知らせです。昨年12月25日、私を岩手医科大学外科に導いてくれた飯島仁先生（享年78歳）との悲しいお別れがありました。飯島先生には、私が大学一年時からラグビー部の監督としてご指導していただきました。お忙しい仕事の合間を縫って練習や試合に来ていただき、緑が丘グラウンドで鋭い眼光と言葉少なに指導していただいた姿が思い出されます。私が大学6年の時のことです。心臓血管外科（当時第三外科）と小児科で迷っていた私に、「お前のような人間が外科をやるんだ。俺の言うことを聞け」。スナックのカウンターで、いつも以上に鋭い眼光で見つめられ説得された29年前のことを今でも鮮明に覚えています。今では、外科勧誘の際の私の決め台詞となっています。外科医になってからは、飯島先生が退職直前の盛岡赤十字病院で一緒にできました。手術中はグラウンド上での厳しい表情と一緒にでしたが、病棟回診の患者さんの前では今まで見たことのないようなくしゃくしゃな笑顔と冗談まで飛び出す会話に驚いたことを覚えています。飯島医院

を開業されてからも、年に2回は必ず同門会でお会いしお酒をご一緒させていただき、常に笑顔で激励してくれました。そして、同門会では長年幹事をお努めいただき、常に総会をはじめ学術集談会にも参加し我々を盛り上げていただきました。特に、7年前の医局が緊急事態の際の幹事会では、体を張って我々医局員、外科教室を守ってくれた行動は一生忘れることができません。

2020年12月28日、飯島先生と最後のお別れをしてきました。その時にいただいた、喪主である飯島信先生（平成10年巖刀会入会、飯島医院院長）の言葉を紹介させていただきます。飯島仁先生の人となりが集約されております。

「お疲れ様でした」ねぎらいの思いを込めて

口数の少ない父でしたが、外科医として働く姿を知る方々からは厳しい人だったと聞いています。たくさんの患者様と真摯に向き合ってきた幾歳月…。今できることは何かと最善を尽くし、努力を惜しまず歩んできたのでしょう。体調を崩す直前まで働き続けていたのは、“生きる”という尊さを心に刻み、一人でも多くの人を救いたいという思いの表れだったのかもしれない。

日々の癒しは晩酌のひとつきで、大好きな酒を楽しめば緊張の糸もほぐれたようです。またラグビーに夢中だったことも忘れられず、岩手医科大学では監督として指導に情熱を注ぎ、県のラグビーフットボール協会においても任された役を全うしておりました…。

盆栽の手入れにも一生懸命で、仕事と趣味に没頭し日々を輝かせてきた父ですが、三年ほど前に母を失ってから寂しかったはずですが、向かう先で再開を喜ぶ姿を思い描き、今は「お疲れ様」と伝えます。

令和二年十二月二十五日、父 飯島仁は、享年七十八歳にて生涯を閉じました。

お世話になった皆様へ、深く感謝申し上げます。

飯島仁先生、本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

岩谷 岳

Takeshi Iwaya, M.D., Ph.D.
Associate Professor

1年をふりかえって

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、学会や研究会での海外・国内出張がなくなってしまったばかりか外食にも出られない状況が続き、病院と自宅の往復だけの1年でした。さまざまな行事も中止となってしまいましたが、早く感染が収束しまた皆様とお会いできる時を心待ちにしております。

この1年ふりかえって何が大変だったかというと、やはり1月より拝命した医局長の仕事です。毎日のように病院・大学からさまざまな指示がきますが、いずれも「講座内で意見をまとめて返答せよ」というもので、なかなかやっかいです。外科学講座は複数の診療グループからなりますが、ご存じのようにグループにより大きく診療内容が異なります。各グループから意見を聞くと全く相反する意見がそれぞれのグループから出る場言も多々ありますが、それら

をまとめながらなおかつその後の医局員の仕事が増えないように、また少しでも働きやすい環境になればと頭を悩ませながら返答を考えています。そして医局長業務でも大変だったのはやはり人事です。しょっちゅう夢にも出てくるので、相当頭の中の多くを占めているのかもしれません。2020年から今年4月にかけては大学・関連病院を含め多くの先生が退職され新しい職場へ移られました。大学では医局員減少の中、矢巾病院と内丸メディカルセンターの両方の診療に人手をさかれることもあり、関連病院の先生方にも大変なご迷惑とご苦勞をおかけしております。常勤医を減員とさせていただいた施設もございますが、外来・手術・当直などの診療応援という形で対応させていただければと思います。最近では学生との接触の時間も制限されており十分な勧誘ができておりませんが、新入局者を増やせるよう工夫していきたいと思っています。

keshi / WAYA

M.D., Ph.D. Associate Professor

全国的な外科医の減少の中、働き方改革（大学の働き方改革プロジェクトチームにも選任されてしまいました）も強く言われるようになり、今後は医局の診療グループや関連病院を含めた体制についても新しい考え方が必要になってくるのかもしれません。

2020年の私のもう一つ大きな出来事は論文発表となります。医療開発部門の西塚哲教授、外科学講座の佐々木章教授、遠藤史隆助教をはじめ、多くの先生方の協力のもと、長年続けてきた研究成果をGastroenterology誌に論文発表することができました。今回の発表ではその過程でもいろいろ学びました。論文投稿では、論文の準備に多くの時間を要しますが、投稿後もレビュープロセスに時間がかかることも多く、リバイスでの追加検証などであつという間に半年、1年が過ぎてしまいます。研究成果が世に出るのに時間がかかりすぎるということで、最近では査読の過程を経ずに素早く論文を公開できるプレプリントサーバーを利用するのが一般的だそうです。物理学分野では30年前からこの仕組み「arXiv（アーカイブ）」があり、正式発表前の論文について議論がかわされていたそうです。バイオ研究分野では2013年に「bioRxiv（バイオアーカイブ）」が公開され、ここ数年の学会でbioRxivに公開済と示す発表も多く見かけていました。2019年6月には医学分野のプレプリントサーバー「medRxiv（メドアーカイブ）」が立ち上げられ、今回の論文はこちらに投稿しました。プレプリントサーバーでの公開は「発表」と見なされないため、同内容を改良しながら論文投稿が可能になります。この時点では正式な論文発表とはなりませんが、いち早く研究成果を公開できたという安心感はえられました。今回のGastroenterology

誌での発表は初回登校時の図表の総数が50個以上とデータの多い（まとまりのない？）ものでした。レビューでは難しいコメントはありませんでしたが、編集部より短い速報のBrief Communicationとして投稿しろとの指示がありました。アクセプトが近いとはいえ、力を入れて作成した7,000語の文章・50個の図表から1,000語・3図表にしぼるのは多少がっかり感を覚えました。しかし、編集部を確認したところ、プレプリントサーバーに掲載中のものもreferenceとしての引用を認める、ということですすべてのデータを論文を通して公開可能となりました。プレプリントはこのような利点もあるのだとあらためて認識しました。査読を経ていないため当然誤情報などもあり得ますが、今後より新しい情報や詳細な情報を得るためにはプレプリント論文のチェックも必要となりそうです。また、論文発表後はメディアへのプレスリリースも行い、大塚記念講堂での記者会見も行いました。コロナ禍ということで記者の方々もあまり来られないかと思いましたが、十社以上の出席があり皆記事にいただきました。できるだけ平易にわかりやすい説明を心がけたつもりでしたが、あとで記事を見るとこんな風に伝わったのかと思うところも多々ありました。思い返せば学会発表でもあまりうまく伝えられていないかなと思うことが多かったので、プレゼンの仕方をもっと学ばなければと思います。

最後になりますが、よい研究、発表が続けられるように今後も教室員とともにがんばっていきたいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

秋山 有史

Yuji Akiyama, M.D., Ph.D.
Associate Professor

准教授を拝命して

この度、2021年1月より准教授を拝命いたしましたので、ご挨拶をさせていただきます。

私は1999年（H11年）に岩手医大を卒業し、斎藤和好教授が主宰する当時の外科学第一講座に入局いたしました。5年次の臨床実習で食道班を回り、そのダイナミックな手術もさることながら、術後に集中治療室で呼吸や循環管理を含めた全身管理を行う外科の先生方の背中に憧れました。石田薫先生、佐藤信博先生、池田健一郎先生など、当時中心となり活躍されておられた先生方と自分が同じような指導的立場になってしまったことを思うと、身震いする思いがいたします。入局後は3か月ごとに大学病院と関連病院を行き来しながら、一般外科および消化器、乳腺・内分泌外科領域の経験を積みました。卒後3年目の2001年に当時の病理学第二講座で研究員として消化器癌の分子生物学的研究に従事させていた

できました。増田友之教授、前沢千早先生（現医歯薬総合研究所・腫瘍生物学研究部門教授）にご指導いただき、胃癌の発生に関わる研究で学位をいただきました。一年半ではございましたが、臨床を離れて一日中研究のことを考える毎日は刺激的で、かけがえのない貴重な経験をさせていただいたことを深く感謝しております。5年目から能代の山本組合病院でご指導いただき、消化器外科専門医申請に必要な症例をすべて経験させていただきました。7年目からは新たに大塚幸喜先生がチーフになられた大学の下部消化管チームに帰局いたしました。日本で新規導入されたFOLFOX、FOLFIRIなどの外来化学療法の院内での立ち上げを試行錯誤しながら取り組ませていただき、現在の腫瘍外科医としての土台となる多くの経験をさせていただきました。腹腔鏡下手術のトレーニングも積ませていただき、大塚先生のご指導の下、2007年に日本内視

j i A K I Y A M A

M.D., Ph.D. Associate Professor

鏡外科学会の技術認定医を所得いたしました。当時は全国でも最少卒年での技術認定の所得でしたので、いかに恵まれた環境で教育を受ける機会をいただけたかを痛感しております。諸先輩方には感謝の念につきません。その後4年間、函館五稜郭病院で言葉では言い尽くせないほどの臨床経験、手術経験を積ませていただきました。武道でいう「守破離」の「破」の時期に相当する、自分なりの手術哲学と手技が形作られた有意義な時期であったと思います。自分にとってはこの充実した時間が永遠に続くと思っていた2011年3月、大学の食道チームの木村祐輔先生にお声がけいただき、食道チームのスタッフとして帰任いたしました。くしくも、震災前後で自分の人生もがらりと大きく変わることとなりました。以来、無我夢中で大学外科医としての仕事と格闘し、気づけばあっという間の10年です。2017年から食道チームのチーフを、2018年からは胃チームと合併した上部消化管チームのチーフを拝命し、肥田圭介先生と岩谷岳先生にご助力をいただきながら、合併後のチームの再建に尽力してまいりました。

長々と些末な卒後の経歴を述べさせていただきましたが、私がお伝えしなかったことは一つで、いかに自分が先輩方に機会をいただき、現在まで成長させていただいたか、ということです。自分がチーフの立場になってからは、どうすれば自分がしていたように、後輩たちが活躍できる多くの機会を与えることができるか、成長につなげられるか、を常に心がけるようにしてまいりました。現在チームの若手メンバーもそれぞれ経験を積み、治療に習熟し、少数精鋭で専門的治療にあたっております。いつ自分がコロナ感染で自宅待機を余儀なくされても、診療に支障をきたさない体制になりました。2019年に函館五稜郭病院の高金明典先生にご指導いただき再開したロボット支援下腹腔鏡下胃切除術の件数は

40例を超えて定型化がすすみ、良好な短期治療成績を得ております。食道癌に対しても、2019年にロボット支援下食道切除術を導入し、現在20例に達するところです。安全な導入が一段落いたしましたので、今後は後輩たちの指導につなげていけたらと思っております。

近年は専門の細分化が進んでおり、自分は幅広々様々な分野の教育を受けることができた最後の世代になるのかもしれませんが、しかし、今もなお外科医は手術だけに習熟すればよいわけではございません。適切な病期診断は当然のこと、患者病態の把握、術前・術後の栄養管理、適切な周術期管理、合併症対策、化学療法を含めた薬物治療の豊富な知識、さらには患者の家庭環境や生活背景に合わせた医療提供、終末期医療など、外科医には広範かつ全人的な知識と経験が求められます。大学と地方の中核病院では求められる専門的医療に程度の差はございますが、外科医に必要な根本的な適正と知識に変わりはないと思っております。微力ながらこれまでの経験を将来地域の医療を担う若手外科医に伝え、幅広い視野を持った全人的な外科医の育成に尽力する所存です。若い先生方には是非一度、同門の大森英俊先生（S54卒）が上梓された、「過疎医療はおもしろい！」（現代書林）を読んでいただきたいと思います。私の郷里の茨城で「最先端医療」である過疎医療に従事され、2017年に第5回日本医師会の赤ひげ大賞を受賞された大森先生が、我々外科医に共通する必要な素質について、やさしく教えてくださいの一冊です。私も感銘を受け、目からうろこが落ちました。

最後になりますが、先輩方が築かれた第一外科から続くよい伝統を後輩に伝えていけるよう、残りの外科医人生を精進してまいります。先生方におかれましては、今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

鈴木 信

Makoto Suzuki, M.D., Ph.D.
Associate Professor

着任のご挨拶

私は、2021（令和3）年1月1日付けで岩手医科大学外科学講座准教授を拝命し、同日着任いたしました鈴木信（まこと）と申します。この度は、巖刀会教室年報でこのようなご挨拶の機会をいただきまして、講座主任の佐々木章教授をはじめとした岩手医科大学外科学講座の皆様および会員の先生方に、心より御礼申し上げます。この原稿の依頼があり書いているのは2月中旬ですので、岩手での生活も約1ヶ月半が経過したところです。赴任当初は、年末の大寒波で大雪に見舞われ、矢巾の病院に辿り着くのも儘ならない状態に加え、病院内では右往左往する状態でしたが、外科学講座の皆さまの温かいご支援・ご協力のおかげで、ようやく盛岡での生活やさまざまな業務にも慣れて参りました。

自己紹介させていただきますが、私は茨

城県日立市生まれで、平成5年に水戸第一高等学校を卒業し、同年の4月に群馬大学医学部に進学し、平成12年に群馬大学を卒業しました。卒前より小児外科医になることを志し、群馬で唯一小児外科部門を有していた桑野博行教授が率いる群馬大学第一外科の門をたたき、入局することを許され、外科医としての研修をスタートし、以来20年にわたり小児外科診療を継続しております。群馬大学医学部附属病院で2年間の一般外科研修の後に、群馬県立小児医療センター外科に出向し、年間600例前後の入院患者、年間400～500例の小児外科手術に関わり、多くの小児外科疾患の管理や治療を経験しました。その間、社会人大学院生として夜間診療がない時間を使って主に小児さんと消化管運動に関する基礎研究を行いました。4年間の小児病院での修練を終え、

k o t o S U Z U K I

M.D., Ph.D. Associate Professor

2006年に大学院での研究をまとめるために1年間帰局した後、2007年より獨協医科大学越谷病院（現・埼玉医療センター）小児外科に赴任し、年間600例に及ぶ手術に携わってきました。救急の患児が多い施設であったことから、多くの救急対応も経験し、同時にその頃より積極的に低侵襲手術の導入を始め、多くの領域に鏡視下手術を導入しました。その後、本邦において普及が遅れていた小児鏡視下手術の更なるトレーニングを行うために、欧州で最も鏡視下手術症例数を有する指導者であるProf. van der Zeeの主宰するオランダ・ユトレヒト大学ウィルヘルミナ小児病院と小児鏡視下手術界のパイオニアでありトップリーダーであるProf. Rothenbergの率いる米国・ロッキーマウンテン小児病院へ2011年4月から各々半年間の臨床留学を経験し、特に多くの新生児鏡視下手術症例を学ばせていただきました。2013年からは小児鏡視下手術体制の再構築を託され、群馬大学に講師として着任、2015年からは診療科長および診療教授として、年間110例程度の少ない症例数の施設ではありますが、低侵襲手術を遂行しつつ、後身の指導および円滑な小児外科の外来・病棟運営・大学院運営に携わってまいりました。

私はこれまで全身（頭頸部、呼吸器、消化管、肝胆膵、泌尿生殖器等）の全疾患および手術時体重400gの超低出生体重児からAYA世代に至る全年代を対象とし、究極のGeneral Surgeonを目指し診療を行って参りました。また、専門施設が少ない地域性もあり小

児医療最後の砦としての機能を果たすべく、「患者を断らない」診療を実践してきました。一方、地方においても世界基準の治療を提供すべく、これまで習得してきた国際基準の技術を中心に患者医療に還元する事も実践して参りました。現在では体重2000g以上の新生児疾患に対しては積極的に鏡視下手術を適応とし、また、泌尿生殖器疾患に対する鏡視下手術（特に膀胱尿管逆流症に対する気膀胱下膀胱内手術）は全国に先駆けて導入し、国内有数の実績を積んでおります。

私にとっては全く知らない土地での任務の開始となり、久しぶりの単身赴任生活に少々慣れが必要ですが、快く送り出してくれた家族および群馬大学小児外科スタッフの恩に報いるためにも、まだまだ人員も乏しい状態での診療ではございますが、これまでと同様、全ての子供達に対して常に医療安全に気を配りつつ、患児の発達・発育を考慮した「体だけでなく心にも傷を残さない」医療とともに「患者を断らない」医療に心掛け、北東北地域だけでなく他地域からも治療に来ていただけるような信頼される医療を提供するために微力を尽くして参りたいと思います。最後になりますが、薄学菲才の身ではございますが、臨床・研究・教育に誠心誠意努力したいと存じますので、岩手医科大学外科学講座および巖刀会会員の皆さまにおかれましては、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

教 授



昭和63年卒
佐々木 章



平成5年卒
新田 浩幸

准教授



平成5年卒
大塚 幸喜



平成7年卒
岩谷 岳



平成11年卒
秋山 有史



平成12年卒
鈴木 信

講 師



平成14年卒
木村 聡元



平成16年卒
片桐 弘勝

助 教



平成16年卒
菅野 将史



平成16年卒
小松 英明



平成16年卒
馬場 誠朗



平成17年卒
梅邑 晃



平成17年卒
石田 和茂



平成18年卒
遠藤 史隆



平成19年卒
小林 めぐみ



平成20年卒
武田 大樹



平成21年卒
八重樫 瑞典



平成21年卒
眞壁 健二



平成23年卒
二階 春香

専門研修医



平成27年卒
平田 勇一郎

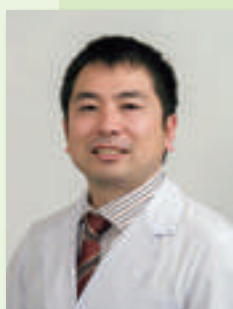


平成27年卒
棚橋 洋太



平成29年卒
川上 亜紀子

大学院生



平成22年卒
高清水 清治



平成24年卒
有吉 佑



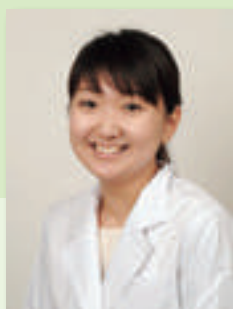
平成24年卒
佐々木 教之



平成28年卒
田金 恵



平成28年卒
中村 侑哉



平成28年卒
橋元 麻生



平成29年卒
伊藤 浩平



平成29年卒
木村 拓



平成29年卒
高橋 真人



平成29年卒
藤澤 良介



平成29年卒
屋成 信吾



平成29年卒
菊地 晃司



平成30年卒
小泉 優香



平成30年卒
高橋 智子

病棟風景



東10階緩和ケア病棟ラウンジ



西8階一般入院病棟ラウンジ

■東側眺望サイン



■西側眺望サイン



チーム紹介

上部消化管チーム

下部消化管チーム

肝胆膵・内分泌代謝外科チーム

乳腺チーム

小児外科チーム

リサーチチーム《分子治療研究室》

高度救命救急センター

《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

上部消化管チーム

STAFF: 秋山有史、馬場誠朗、遠藤史隆、二階春香

専門外来

木曜
8時30分～17時
(矢巾新病院)



上部消化管チームでは、食道癌・胃癌を中心に、食道・胃疾患の治療を担当しています。毎週木曜日の専門外来では、新患患者さんの診察をはじめ、治療後の定期フォローアップや外来化学療法を担当しております。外来化学療法室や放射線科と連携し、癌の集学的治療を行っております。手術予定患者様には入退院サポートセンターの多職種が介入し、治療の安全性や周術期医療の質の向上に努めております。矢巾新病院での入院は、化学療法と手術治療を中心に、当科が中心となり消化管・肝臓内科や放射線科と連携して集学的な治療にあたっております。手術に際しては、定型的な手術に対してはより低侵襲な手術を追求しております。高齢者にも安全に定型的な根治手術を受けていただけるよう、リハビリや栄養などに関して周術期の取り組みを行い、術後の機能温存を重視した手術を心掛けております。大学病院特有の困難症例や高度進行癌に対する高難度手術に対しては、根治を目指してこれまでの経験や専門性を発揮して治療にあたっております。食道癌に対して胸腔鏡下手術に加えてロボット支援下食道切除術を、胃癌に対しては腹腔鏡下手術に加えてロボット支援下胃切除術を行っております。それぞれの患者さんに適した治療をともに考え、化学療法、放射線療法、手術を組み合わせる集学的治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。胃癌と食道癌は日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。治療に関する事はいつでもご相談をお受けいたしておりますので、是非お気軽にご連絡下さい。2020年の食道癌に対する胸腔鏡手術（ロボット支援手術含む）の割合は100%、胃癌に対する腹腔鏡手術（ロボット支援手術含む）の割合は73.0%でした。

2020年のニュース

- 3月▶二階春香医師、大学院博士課程修了。名実ともにチームの中心メンバーに
- 4月▶遠藤史隆医師、念願のマイホーム所得
- 10月▶馬場誠朗医師、リハビリや栄養スタッフとサルコペニア対策チームを結成し、自らもトレーニングの実践開始
- 12月▶二階春香医師、同門会学術賞受賞

2020年 診療・研究状況報告

- 上部チーム入院数：602名
- 上部チーム手術数：193名

- 食道癌新規入院数：56名
- 食道癌手術：12名

(胸腔鏡下・ロボット支援食道切除術:12例)

疾患	術式	症例数
食道癌	ロボット支援胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	9例
	胸腔鏡下食道切除術	3例
	左開胸開腹食道切除術	0例
	経裂孔の下部食道切除術	0例
他疾患	緊急手術、遊離空腸等	64例

《年次手術数推移》

	2018年	2019年	2020年
食道癌	24	18	12
胸腔鏡下	10	5	2
ロボット支援下		10	10

- 新規胃疾患入院数：146名
- 胃疾患手術数：117名

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	23例
	左開胸開腹下部食道胃切除術	4例
	腹腔鏡下胃切除術	45例
	ロボット支援下胃切除術	28例
GIST	切除術	5例
その他	審査腹腔鏡、バイパス等	12例

《年次手術数推移》

	2018年	2019年	2020年
胃癌	93	89	100
GIST	10	1	5
計(悪性腫瘍切除数)	103	90	105

● 2020年研究報告

《教室内》

- ・「早期胃癌に対する体内吻合による完全腹腔鏡下幽門

- ・「輪温存胃切除術の安全性」 *World J Surg Oncol*, 2020
- ・「食道切除術における術前強化リハビリテーションの安全性と有用性」 *Esophagus*, 2020
- ・「Nivolumabを含む集学的治療が奏功した食道悪性黒色腫の一例」 *Int J Surg Case Rep*, 2020
- ・「肉腫成分が脱落した食道癌肉腫の一例」 *Int J Surg Case Rep*, 2020
- ・「肺切除を施行した手術後7年後に再発した食道癌肺転移の一例」 *Int J Surg Case Rep*, 2020
- ・切除不能・再発食道癌に対する biweekly-DCF 療法の安全性評価（データ集積中）
- ・食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング（症例集積中）
- ・血漿中遊離変異 DNA 定量による食道癌モニタリングシステムの開発（解析中）
- ・食道癌治療抵抗性と NFE2L2 遺伝子変異に関する検討（解析中）
- ・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析（解析中）
- ・消化器癌の予後に関連する non-coding RNA *FTX* に関する検討（解析中）
- ・高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討（株ツムラとの共同臨床試験、データ集積中）
- ・血漿中遊離変異 DNA 定量による胃癌モニタリングによる転移・再発の検証（症例集積中）
- ・食道癌化学療法中のサルコペニアの検討（データ集積中）
- 《臨床試験》
- ・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌（T4 を除く）に対する術前 CF 療法/術前 DCF 療法/術前 CF-RT 療法の第 III 相比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1213「消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象としたエトポシド/シスプラチン（EP）療法とイリノテカン/シスプラチン（IP）療法のランダム化比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有する HER2 陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前 trastuzumab 併用化学療法の意義に関するランダム化第 II 相試験」症例登録中
- ・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対する CF（シスプラチン+5-FU）療法と bDCF（biweekly ドセタキセル+CF）療法のランダム化第 III 相比較試験」症例登録中
- ・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道癌（T4 を除く）に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1507「病理学的 Stage II/III で“vulnerable”な 80 歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量した S-1 術後補助化学療法に関するランダム化比較第 III 相試験」症例登録中

- ・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1510「切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入 Docetaxel+CDDP+5-FU 療法後の Conversion Surgery を比較するランダム化第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1704「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前 Docetaxel+Oxaliplatin+S-1 の第 II 相試験」症例登録中
- ・JCOG1711「漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1904「Clinical-T1bN0M0 食道癌に対する総線量低減と予防照射の意義を検証するランダム化比較試験」症例登録中
- ・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化 II/III 相比較試験」症例登録終了、追跡中
- 《治験》
- ・胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法として MK-3475 及び化学療法（XP 又は FP）とプラセボ及び化学療法（XP 又は FP）を比較する二重盲検無作為化第 III 相試験（MSD 株式会社）：追跡中
- ・胃がんに対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験（小野薬品工業株式会社）：追跡中
- ・進行性又は転移性固形がんを対象とした ONO-4578 単剤投与及び ONO-4578 と ONO-4538 の併用投与における非盲検非対照用量漸増及び拡大試験（小野薬品工業株式会社）：登録中
- 《科研費獲得》
- ・「高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム」文部科学省科学研究費 基盤研究 C（研究代表者 馬場誠朗）
- ・「Circulating tumor DNA 検査の臨床導入における課題の克服」文部科学省科学研究費 基盤研究 C（研究代表者 遠藤史隆）

●今後の研究課題

- ・切除不能進行食道癌症例に対する Salvage 手術、conversion 手術の増加。
- ・高齢者に対する食道切除術のさらなる低侵襲化の探求。
- ・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発。
- ・高度進行胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除の有用性の検証。
- ・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医の育成。
- ・胃癌化学療法に関する基礎的研究の推進。

下部消化管チーム

STAFF:大塚幸喜、八重樫瑞典
高清水清治、有吉 佑
平田勇一郎

付属病院（矢巾）

術後外来：月曜8時30分～16時
新患外来（院内の紹介）：火曜8時30分～12時
外来化学療法：月曜・水曜・金曜8時30分～12時
ストーマ外来：千葉励子（WOCN）、高橋咲子（WOCN）、小笠原久美子（WOCN）
月曜8時30分～16時、水曜8時30分～12時

内丸メディカル

新患外来（他院の紹介）：月曜8時30分～12時



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2020年12月までに2627例となりました。ここ数年の特徴としては、2018年4月に国内で保険適応となったロボット支援下直腸癌手術を同年5月から開始し、2020年12月までに60例経験しました。昨年は、直腸癌症例の約40%に対してロボット手術が行われましたが、今後適応を拡大し、さらなる根治性、低侵襲性を患者さんに提供していきたいと思ひます。局所進行直腸癌症例に対し、術前化学療法を行い腹腔鏡・ロボット手術による拡大視効果を最大限に生かした根治性、そして機能・肛門温存手術を積極的に行っております。さらに、低侵襲性を生かし、高齢者や全身状態不良な患者さんに対しても、麻酔科とタッグを組んで積極的に行っております。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っております。また、化学療法治療中に切除可能になった場合には積極的に手術を行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子、小笠原久美子 WOCナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）3名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。

潰瘍性大腸炎や Crohn 病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんの QOL を重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

教育面に関しては、若手外科医に対する腹腔鏡手術の指導を積極的に行っており、2020年までに12名（初回合格率80%）の内視鏡外科技術認定医合格者（大腸分野）を輩出してきました。また全国各地からの国内留学者（これまで10名）に対しても指導を行っております。2020年は新型コロナの影響で他施設からの手術見学が制限された中でも、webを使用した手術ビデオ配信やビデオクリニックなど全国への発信も継続的行っております。

2020年のニュース

- 4月 ▶ 平田勇一郎先生（沖縄協同病院）が国内留学でチームの一員となる
- 5月 ▶ 藤井仁志先生（現在県立久慈病院）、佐藤慧先生（現在函館五稜郭病院）が日本内視鏡技術認定医試験をともに一発合格
- 11月 ▶ 八重樫瑞典先生が International Society of University Colon Rectal Surgeons (ISUCRS) 2020国際学会シンポジストとして発表
- 11月 ▶ 木村聡元先生がロボット支援下直腸手術の指導医（プロクター）となる
- 12月 ▶ 松尾鉄平先生が開業準備のため退職し、東京（東京山手メディカルセンター）へ

2020年 診療・研究状況報告

●手術数（全麻）：296例

※そのうち大腸癌手術（切除）は206例（再発手術7例含む）

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌（125例）	開腹	17例
	腹腔鏡	108例
直腸癌（74例）	開腹	8例
	腹腔鏡	33例
	ロボット支援下	29例
	経肛門	4例
大腸癌再発（7例）	開腹	3例
	腹腔鏡	4例

Crohn 病（6例）	開腹	2例
	腹腔鏡	4例
潰瘍性大腸炎（1例）	開腹	0例
	腹腔鏡下大腸全摘	1例
他全麻手術（ストーマ造設・閉鎖、良性手術、他科手術応援など）		83例

《大腸癌の年次手術数推移》

	2018年	2019年	2020年
結腸癌全手術数	108	119	125
直腸癌全手術数	83	73	74
計	191	192	199
腹腔鏡下大腸癌手術（ロボット手術含む）	170 (89%)	170 (89%)	170 (85%)

●2020年研究報告

《教室内》

- ・「肥満大腸癌患者に対する腹腔鏡手術成績の検証」：腹腔鏡手術予定の肥満大腸癌患者を対象に、手術難易度の軽減化と周術期合併症を予防するために、計画的な術前減量の効果を明らかにすることを目的とする。岩手医学会雑誌に投稿済み。(大学院4年 高清水清治)
- ・「腹腔鏡補助下及びロボット支援下直腸切除術のlearning curve 形成期における難易度因子の検討」：腹腔鏡手術とロボット手術の手術難易度予測因子を解析し、learning curve 形成期に経験すべき症例を明らかにすることを目的とする。岩手医学会雑誌に投稿済み。(大学院4年 中村侑哉)
- ・「自律神経温存手術を目的とした術中神経組織可視化の試み」：解析中(大学院3年 有吉佑)
- ・「ctDNA モニタリングによる大腸癌術後サーベイランスへの応用」：解析中(大学院2年 高橋智子)
- ・「ctDNA モニタリングにおける大腸癌治療効果判定基準の検証」：症例集積中。(八重樫瑞典)
- ・「Frequent post-operative monitoring of colorectal cancer using individualized ctDNA validated by multi-regional molecular profiling」：British Journal of Cancer (BJC) 掲載予定。(八重樫瑞典)
- ・「Laparoscopic colectomy for persistent descending mesocolon in sigmoid colon cancer」：International Journal of Surgery Case Reports (IJSCR) 掲載予定。(松尾鉄平)

- ・「Colorectal perforation in cytomegalovirus colitis during chemotherapy for recurrent colorectal cancer」：投稿中。(八重樫瑞典)
- ・「Laparoscopic low ligation without splenic flexure mobilization for lower rectal cancer」：投稿中。(大塚 幸喜)

《他施設共同》

- ・JCOG1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第III相試験(ENCORE Trial)」：症例集積終了
- ・JCOG1805試験「再発リスク因子を有するStage II大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関するランダム化第III相比較試験」：症例集積中
- ・「内視鏡外科手術動画のデータベース構築」：症例集積中
- ・腹腔鏡下大腸切除研究会 LANDMARC Study 「腹腔鏡下直腸癌術後性機能障害に関する多施設前向き観察研究」：症例集積中

●今後の課題

▶臨床面

- ・ロボット支援下直腸癌手術の適応拡大と後進の指導

▶教育面

- ・内視鏡外科学会技術認定医のさらなる育成
- ・Web下での腹腔鏡手術の技術指導法の探索

▶研究面

- ・海外ジャーナルへの研究成果報告(一人一編)
- ・大学院生への研究・学位指導

肝胆膵 内分泌代謝外科チーム

STAFF: 佐々木章、新田浩幸、片桐弘勝
菅野将史、梅邑 晃、武田大樹
眞壁健二、屋成信吾

内丸メディカルセンター
木曜/8時30分～12時30分
(新田教授、眞壁助教)
金曜/8時30分～12時30分 (菅野助教)
矢巾
火曜/10時30分～12時30分
(新田教授、菅野助教、梅邑助教)
木曜/8時30分～12時30分 (片桐講師)
金曜/8時30分～12時30分 (武田助教)



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡手術、化学療法、肝移植（生体・脳死）など幅広い治療選択肢をもつて、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。2016年4月からは腹腔鏡下膵頭十二指腸切除も保険収載されたことより、腹腔鏡下膵切除も積極的に行っております。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて100例を超えました。生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。2011年9月に脳死肝移植施設として認定されました。

胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。このことより長期成績も向上しております。

2020年 診療・研究状況報告

●手術数：218例

●腹腔鏡下手術の割合

肝切除（肝門部胆管癌、胆嚢癌を除く）84%、膵切除12%

●2020年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	38例
転移性肝癌	32例
肝内胆管癌	6例
胆管癌	25例 (肝門部6例、肝外19例)
胆嚢癌	5例
乳頭部癌	5例
膵癌 (IPMC 含む)	33例

▶良性

生体肝移植ドナー、pNET、IPMNなど	45例
----------------------	-----

▶その他

副腎腫瘍など	27例
--------	-----

《術式別》

脳死肝移植	2例
生体肝移植	8例
肝切除	90例
PpPD	50例
膵体尾部切除	12例
膵全摘	5例
胆管切除	3例
胆石、胆嚢良性疾患手術	10例
バイパス (胆管、消化管)	7例
脾摘	1例
肝嚢胞天蓋切除	1例
副腎摘出	7例
後腹膜腫瘍摘出	6例
非切除	6例
その他	8例

《年次推移》

	2018	2019	2020
肝細胞癌	33	34	38
肝内胆管癌	4	3	6
転移性肝癌	30	34	32
胆管癌	30	20	25
胆嚢癌	5	3	5
乳頭部癌	8	2	5
膵癌	38	24	33
脳死肝移植	4	2	2
生体肝移植	10	8	8

●2020年研究報告

▶腹腔鏡下肝切除術

- ・腹腔鏡下肝切除術の保険適応が2016年に拡大されたが、拡大された術式に対する安全性を検討し報告した。また、新規術式であるため安全な普及が重要と考え、ハイボリュームセンターである当院で難易度予測モデルを構築し報告した。
- ・肝細胞癌、転移性肝癌に対して再肝切除術を行うことは比較的多い。そこで、再肝切除例における腹腔鏡下肝切除の有用性を検討し報告した。
- ・患者の高齢化が進んでいる中で、80歳以上の超高齢患者に対する腹腔鏡下肝切除術の安全性について検討し報告した。

▶腹腔鏡下ドナー肝切除術

- ・腹腔鏡下ドナー肝切除術は新しい術式である。当院では腹腔鏡補助下から導入し、完全腹腔鏡に移行した。その成績を検討し報告した。
- ・腹腔鏡下ドナー肝切除術は胆道造影の手技が煩雑である。その問題を解決する手段としてICG蛍光イメージングを用いた方法を考案し報告した。
- ・腹腔鏡下手術の動作制限を克服するために、グリソン一括処理法および肝実質切離後に動門脈を確保する手術手技を確立し報告した。

▶肝移植

- ・当院では2007年から生体肝移植を、2012年から脳死肝移植を導入し、合計129例を経験した。当院での肝移植の現況について検討し報告した。
- ▶腹腔鏡下肝切除術における糖質コルチコイド投与の有用性に関する第3相試験
- ・腹腔鏡下肝切除術で肝流入血遮断をした際に糖質

コルチコイドを投与するかしないかで術後成績に差が出るのか検討した。術後2病日で血清総ビリルビン値の低下およびプロトロンビン時間の延長抑制効果を認めた。合併症に関しては有意差を認めなかった。これらの結果を報告した。合併症に関しては有意差を認めなかった。これらの結果を報告した。

内分泌代謝外科

専門外来 水曜 8時30分～12時

臨床では、内分泌代謝疾患（高度肥満症、副腎、甲状腺）、一般外科・消化器外科疾患（脾臓、ヘルニア）に対する内視鏡外科を担当しています。研究では、2型糖尿病、非アルコール性脂肪性肝炎、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と改善機序の解明が主体となりました。当チームにおける全手術に対する腹腔鏡下手術の割合は100%で、特にreduced port surgeryを中心とした手術を行っています。

2020年のニュース

- 3月 ▶ 日本人肥満2型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する日本肥満症治療学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会3学会合同委員会委員長に選出(佐々木章)
- 3月 ▶ Surgery Today 編集委員会編集委員 (Associate Editor)に就任(佐々木章)
- 9月 ▶ 日本肥満症治療学会 川村賞受賞(佐々木章)
- 12月 ▶ 巖刀会 学術賞受賞(二階春香)
- 12月 ▶ 日本外科学会指導医・日本消化器病学会指導医取得(梅邑 晃)

2020年 診療・研究状況報告

●入院数：148例

●手術数：82例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	16例
胃粘膜下腫瘍	2孔式腹腔鏡下胃部分切除術	3例
	腹腔鏡・内視鏡合同手術	1例
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	9例
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺全摘術	2例
	内視鏡下甲状腺片葉切除術	2例
脾臓良性疾患・脾腫瘍	腹腔鏡下脾臓摘出術	1例
鼠径ヘルニア	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	28例 (両側2例)
	鼠経ヘルニア修復術	5例
腹壁癒着ヘルニア	腹腔鏡下腹壁癒着ヘルニア手術	10例
その他	頸部切開甲状腺全摘術	4例
	腹腔鏡下Nissen手術	1例

《年次手術数推移》

	2018年	2019年	2020年
高度肥満症	6	6	16
副腎疾患	3	4	9
甲状腺疾患	5	6	9

●2020年研究報告

《教室内》

- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：データ解析中
- ・閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果：データ解析中

- ・非アルコール性脂肪性肝炎に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果：データ解析中
- ・日本人高度肥満症患者におけるNASH肝線維化の予測スコアリングシステム：論文印刷中

《全国規模》

▶獲得研究費

- ・高度肥満者の内臓脂肪組織における調節機構破綻のメカニズムの解明(2018-2020年度科研費基盤研究C)：データ解析中
- ・高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム(2019-2021年度 科研費基盤研究C)：症例集積中
- ・高度肥満症に伴う非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と外科治療後の改善機序(2020-2022年度 科研費基盤研究C)：症例集積中
- ・高度肥満症患者におけるメタボローム解析(2020年度 岩手県地域医療研究事業)：データ解析中
- ・2型糖尿病に対するメタボリックサージェリーの治療効果に関する研究(2020年度 ノボノルディスクファーマ株式会社奨学寄附金研究)：データ解析中
- ・マルチオミクス解析によるメタボリックサージェリーの効果に関する研究(2020年度 帝人ファーマ株式会社奨学寄附金研究)：データ解析中
- ・肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する外科治療後の肝線維化改善機序と代謝ネットワーク解析(2020年度 武田薬品工業奨学寄附金研究)：データ解析中
- ・メタボローム解析を用いた高度肥満症の病態解明(2020年度 大鵬薬品奨学寄附金研究)：データ解析中

乳腺チーム

STAFF: 小松英明、石田和茂、川岸涼子(関連病院出向中)
松井雄介(関連病院出向中)、天野 総(関連病院出向中)
橋元麻生(大学院生)

矢巾専門外来
火・水曜
8時30分～17時
(再来のみ)
内丸専門外来
木曜 8時30分～12時
(紹介、新患のみ)



乳腺チームは現在、小松、石田の二名の常勤スタッフと、若手医師のローテーター1名による3名体制で診療に当たっております。乳腺診療は多岐に渡るため、他科、他職種との連携が欠かせません。病棟カンファランス、外来化学療法カンファランス、形成外科カンファランス、HBOCカンファランス等、積極的に連携を図っております。順天堂大学乳腺科の齊藤光江教授の御高配のもと、順天堂大学、順天堂大学浦安病院、順天堂大学静岡病院、順天堂練馬病院、鳥取大学、亀田総合病院とICTをつないで症例検討会も継続中です。HBOCについてはJOHBOC（日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構）認定の「遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設」となったことにより、岩手県のみならず、他県からも、婦人科との連携によるサーベイランス、予防切除術（RRM, CRRM）への問い合わせが増えてまいりました。今後も東北地方の診療をリードするべく、関係各科との連携をさらに強化してまいります。

研究面ではJCOG、JBCRG、CSPORといった日本を代表する臨床試験グループ、また米国の臨床試験グループのNRG Oncology、さらには開発治験にも積極的に参加し、患者さんに最新、最良の医療を提供するよう、日々精進しております。同門の先生方には一層の御支援、御指導、御鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

2020年のニュース

- 3月 ▶ 第16回日本乳癌学会東北地方会web発表(小松、石田、橋元)
- 8月 ▶ 第120回日本外科学会総会web発表(小松、石田)
Breast cancer誌にて、論文発表(石田：Breast Cancer 28, 161-167 (2021))
- 9月 ▶ 岩手日報において乳癌診療(特にHBOC)の紙上解説
- 10月 ▶ 第28回日本乳癌学会学術総会web発表(小松、石田、橋元)
第58回日本癌治療学会web発表(小松)
- 11月 ▶ IBCラジオにおいて、乳癌検診啓発番組出演(小松)

2020年 診療・研究状況報告

● 総手術数：116例

《内訳》

疾患	術式	症例数
原発性乳癌	乳房部分切除術	48例
	胸筋温存乳房切除術	52例
	胸筋温存乳房切除術 + 組織拡張器留置	5例
	乳頭乳輪温存乳腺全摘術 + 組織拡張器留置	11例
計		116例
その他（良性、追加切除等）		6例
合計		121例

● 2020年研究報告

《全国規模》

- ・ Cinderella研究会：手術可能乳癌患者を対象としたフローゼングローブ、弾性ストッキングのnab-paclitaxelによる末梢神経障害予防効果の検討(Phase II, SPOT trial)
- ・ 日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1017 (PRIM-BC)「薬物療法非抵抗性Stage IV乳癌に対する原発巣の意義（原発巣切除なしvsあり）に関するランダム化比較試験」

- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1204 (INSPIRE) 「再発高リスク乳癌患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローの比較第III相試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1505 (LORETTA trial) 「エストロゲン受容体陽性・低リスク非浸潤性乳癌に対する非切除＋内分泌療法の有用性に関する単群検証的試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1607 (HERB TEA study) 「高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツズマブ＋トラスツズマブ＋ドセタキセル療法のランダム化比較第III相試験」
- ・日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1806 (AMATERAS-BC) 「薬物療法により臨床的完全奏効がえられたHR陰性HER2陽性原発乳癌に対する非切除療法の有用性に関する単群検証的私見」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業 (CSPOR) 「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験 (N-SAS BC 06)」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業 (CSPOR) 「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツズマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験 (N-SAS BC 07)」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-C05 (B-SHARE) 「HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたベバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M04 (BOOSTER) 「ホルモン陽性HER2進行再発乳癌に対する、ホルモン療法による維持療法を利用したベバシズマブ＋パクリタキセル療法の治療最適化研究－多施設共同無作為化比較第III相臨床試験」
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：

JBCRG-20 (Neo-Peaks) 医師主導治験「HER2陽性乳癌におけるペルツズマブとトラスツズマブエムタンシンを用いた術前療法の検討 (ランダム化第II相試験)」

- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group)：JBCRG-M05 (PRECIOUS) 「HER2陽性の進行・再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第III総臨床研究－ペルツズマブ再投与試験－」
- ・OlympiA 試験「十分な局所性治療及び術前補助療法又は術後補助療法を終了した高リスク生殖細胞系BRCA1/2変異陽性HER2陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為化二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第III相試験」
- ・「HER2陽性の進行性／再発性の局所進行乳癌又はT-DM1とペルツズマブのプラセボ (ペルツズマブに対し盲検) の併用の有効性及び安全性をトラスツズマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際他使節共同第III相ランダム化3群比較試験 (MARIANNE 試験)」
- ・「手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後補助療法としての化学療法＋トラスツズマブ＋プラセボと化学療法＋トラスツズマブ＋ペルツズマブの2群比較第III相ランダム化試験 (APHINITY 試験)」
- ・NRG Oncology：NSABP B-51/RTOG 1304「ネオアジュバント化学療法前の腋窩リンパ節陽性がネオアジュバント化学療法後に病理学的陰性に転じた患者を対象として、乳房切除後胸壁及び所属リンパ節の外部放射線治療、並びに腫瘍切除後所属リンパ節放射線治療を評価する第III相無作為化臨床試験」

●今後の研究課題

- ・マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定
- ・転移再発乳癌の化学療法における高密度ctDNAモニタリングによる逐次評価
- ・新たな乳腺外科医育成

小児外科チーム

STAFF: 小林めぐみ、鈴木 信(2021年1月～)
田金 恵(大学院生)、藤村 匠(非常勤)
平井みさ子(非常勤)、矢内俊裕(非常勤)

一般小児外科外来
水曜午前・午後
専門外来
小児ストーマ、スキンケア外来
第3水曜午後
気道疾患外来(平井)
最終水曜午後



2020年は昨年同様、肝胆膵・小児外科合同チームとして診療を行い、マンパワー不足を補って頂きました。また、引き続き茨城県立こども病院の矢内俊裕先生に診療応援を頂き、小児外科全般は勿論のこと、小児泌尿器疾患や鏡視下手術についてもご相談の上、直接手術指導を頂き、7月からは平成19年岩手医大卒の藤村匠先生にも外来および手術とお手伝いいただきました。また、気道疾患外来として、昨年に引き続き平井みさ子先生に主に外来診療をして頂きました。12月からは群馬大学の鈴木が手術応援を開始し、2021年1月から准教授として着任し、小児外科指導医不在の状況は解消されております。

外来診療は、矢内附属病院の一階小児科外来と同様の場所で外来診療を行っており、小児科と密な協力体制が構築されております。これまではマンパワー不足から、外来診療を水曜日に集約させて頂いておりましたが、今後、患者さまの利便性を考慮し、複数日での外来診療を開始する予定です。また、小児における外科診療の最後の砦として「救急患児等は一切断ることをしない」をモットーに24時間365日対応できる体制づくりを行います。対象疾患は、新生児から16歳未満の呼吸器（気管・肺など）・消化器（食道から肛門までの消化管・肝胆膵）・その他腹部臓器（腎臓・副腎・脾臓など）・皮膚軟部組織（皮膚・皮下組織・筋肉など）・泌尿生殖器（腎臓・尿管・膀胱・外陰部など）の疾患で、AYA世代の移行期医療にも対応しています。新生児も含め超緊急手術以外の待機的手術の多くは鏡視下（特に単孔式手術もしくはReduced Port Surgery）で行い、整容性を重視した治療に取り組んでいます。

すべての患者さんとそのご家族に信頼される質の高い小児外科診療を提供できるよう、日々診療、研究、教育に励んでいます。関連の先生方には尚一層のご指導、ご鞭撻、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。（文責：鈴木 信）

2020年のニュース

- 7月 ▶ 藤村 匠先生(NHO埼玉病院、平19年岩手医大卒)が非常勤医師で診療応援開始
- 12月 ▶ 小林めぐみ先生御出産、鈴木 信(群馬大学、平12年群馬大卒)が非常勤医師で診療応援開始

2020年 診療・研究状況報告

- 手術数：205例(うち内視鏡手術43件)

《内訳》 重複あり

疾患	症例数(例)
新生児疾患	23
悪性腫瘍(生検を含む)	3
鼠径ヘルニア類縁疾患	57
消化器・肝胆膵疾患	50
呼吸器疾患	29
泌尿生殖器疾患	38

《年次手術数推移》

	2017年	2018年	2019年	2020年
新生児	20	14	11	23
非新生児	232	191	155	182
計	252	205	166	205

- 2020年研究報告

- ・ JNSBG 日本神経芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験
- ・ JPLT3 日本小児肝臓スタディグループ
- ・ JWITS3 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ
- ・ JCCG 日本小児がん研究グループ

リサーチチーム《分子治療研究室》

STAFF: 岩谷 岳、藤澤良介、高橋智子

研究進捗会
月曜18時30分～
(医療開発部門と合同)
抄読会
木曜18時30分～
(医療開発部門と合同)



外科研究室では現在、医歯薬総合研究所医療開発研究部門の西塚哲教授と共同でがんゲノム解析や血液検体からの癌の病勢診断（リキッドバイオプシー）に関する研究を中心に行っております。当院独自の腫瘍細胞由来DNA（ctDNA）のモニタリング法について検討を重ね、食道癌（岩谷、*Gastroenterology*）、大腸癌（八重樫先生、*British Journal of Cancer*）、胃癌（佐々木教之、*PLoS One*）についての報告をすることができました。現在、ctDNA検査を実際にどのように臨床現場で活用できるか検討を進めております。また昨年10月から大学院生の高橋智子先生が研究室常駐となり積極的に研究を行っています。今後メンバーの増加とともに研究の幅を広げていく予定です。

2020年のニュース

- 7月 ▶ 3年生研究室配属（3名）研究開始
- 8月 ▶ 日本外科学会にて発表（佐々木教之、岩谷）
- 10月 ▶ 高橋智子先生、リサーチグループに配属
食道癌のctDNA研究に関しプレスリリース
「食道がん再発を早期に検出する方法を開発」（岩谷）
- 12月 ▶ 3年生研究室配属：「がんの遺伝子変異検出と変異DNAの定量解析」に関し研究発表

2020年 診療・研究状況報告

● 2020年研究報告

- ・ 血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発（岩谷）
- ・ 大腸癌・胃癌の原発巣 heterogeneity がctDNA 診断に及ぼす影響（八重樫、佐々木教之、千葉）
- ・ ctDNA の早期変動を用いた食道癌化学療法の効果予測（藤澤）
- ・ 食道癌治療抵抗性と NFE2L2 遺伝子変異に関する検討（佐々木教之、秋山、岩谷）
- ・ 食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析（佐々木教之）
- ・ ctDNA を用いた大腸癌術後サーベイランス法の開発（大塚、高橋智子）
- ・ 肝芽腫発生に関わる遺伝子異常の解析（有末）

● 今後の研究課題

各臓器グループのctDNA研究で早期再発・増悪予測、正確な治療効果判定、無再発状態の確認などで臨床的有用性を発揮する可能性を報告しました。今後は前向き研究により臨床現場でのctDNA検査の有用性を示していきたいと思います。また、がんゲノム医療による遺伝子パネル検査が臨床導入され約2年となりますが、患者に推奨治療を提示できることはまれな状態です。変異情報の有効利用についてまだ工夫が必要で、今後リサーチグループの役割が重要になってくると考えられます。

高度救命救急センター 《救急・災害・総合医学講座》 《救急医学分野》

STAFF：小鹿雅博、石田 馨、佐藤寿穂、田金 恵

専門外来

24時間体制



専門外来：高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2020年当グループにおける全手術に対する腹腔鏡手術を第一選択とした割合は12%でした。

2020年 診療・研究状況報告

●入院数：116例

●手術数：97例

《内訳》

疾患（内因性）	術式	症例数(例)
上部消化管穿孔	鏡視下術：開腹	1：1
絞扼性腸閉塞	鏡視下術：開腹	5：3
下部消化管穿孔	鏡視下術：開腹	0：6
虫垂炎	鏡視下術	1
急性虚血性疾患	鏡視下術：開腹	1：3
嵌頓ヘルニア	開腹	1
その他	鏡視下術：開腹	1：3

疾患（外因性）	術式	症例数(例)
管腔臓器損傷	開腹	5
その他	開腹	4

	症例
気管切開術	9

《Management》

	症例
Non Operative Management（外因）	20
Open Abdominal Management（外因：内因）	14：37

●2020年研究報告

《グループ内》

- ・ Open Abdominal Management の検討（継続）
- ・ 絞扼性腸閉塞に対する治療と管理（継続）
- ・ 虫垂炎の治療選択と管理（継続）
- ・ 培養検査と感染マーカーの整合性と関連性についての検証（継続）

国内留学レポート

平田 勇一郎（沖縄協同病院）

2020年の4月から国内留学で岩手医科大学付属病院外科学講座にてお世話になっております。このような貴重な経験をさせていただき、またこころよく受け入れて下さり、佐々木章教授、大塚幸喜先生はじめ医局員の方々に深謝申し上げます。岩手の美しい四季と共にあっという間に1年が経とうとしていますが、非常に充実した日々を過ごさせていただいております。国内留学先として岩手医大を選んだことを心から良かったと感じています。

私は、鹿児島県出身で平成27年に琉球大学を卒業し、沖縄協同病院で研修した後に同院で3年間外科生活を送りました。外科1年目の12月に上級医と共に大塚先生の手術を見学させていただき人生で初めて岩手に来ましたが、手術はもちろんのこと、大塚先生とその下で働く熱い情熱をもつ先生方の作る暖かい雰囲気、今までなかなか経験したことのない岩手の12月の寒さの中にあって余計に際立ち沖縄に戻っても心の中に残っていました。その後もご縁があって学会や勉強会、アニマルラボ等で度々大塚先生にお会いし学ばせていただく中で、ぜひ岩手医大の外科で研修させていただきたいと思い今回国内留学をさせていただくこととなりました。

今年1年は大腸グループで学ばせていただきました。8月まではカメラ持ちを行いながら岩手医大での手術のしきたりを学びました。9月からは執刀もさせていただき、有

難さとともに身の引き締まる思いです。定期的に行われる勉強会や大塚先生のwebセミナー等にも参加させていただき非常に勉強になっています。今は定型化された手術手技を習得することで必死ですが、ひとつひとつの手術手技が定型化されるに至った過程をよく考え、さらなるステップアップをしていきたいと思っています。

またカンファや医局、病棟での診療を通し大腸グループだけではなく他グループの先生方の日常にも触れ、勉強になるとともに刺激をうける毎日です。また、皆様グループの垣根なく気さくに接して下さり感謝の念に絶えません。

3年間学ばせていただく予定ですが、長いようであつという間だと思しますので、1日1日、1例1例を大切に日々精進していきたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。



外科学講座の高原 武志 講師が日本肝胆膵外科学会において、2020年度 2-years citation award as of 2018 を受賞しました

高原 武志

この度、日本肝胆膵外科学会から2020年度2-years citation award as of 2018という大変名誉ある賞を以下の論文で受賞しました。

Takeshi Takahara

(Department of Surgery, Iwate Medical University)

Comparison of laparoscopic major hepatectomy with propensity score matched open cases

from the National Clinical Database in Japan

Volume 23, Issue 11, January 2016, Pages: 721-734

本賞は、2017年度日本肝胆膵外科学会学術集会より、本学会誌掲載のOriginal Articleの中で、引用数が多い論文にBest citation award（高田賞）として、授与される賞です。2016年～2017年に掲載されたOriginal Articleの中で、2018年の引用数が最も多い論文として認められました。岩手医科大学外科の特徴の一つである腹腔鏡下肝切除と関連して、日本のNational Clinical DatabaseからPropensity

score matchingという統計手法を用いて、高難度腹腔鏡下肝切除を開腹肝切除と比較解析した内容です。腹腔鏡下肝切除の領域で岩手医科大学外科のプレゼンスを十分に示せたと確信しています。この領域で岩手医科大学外科がさらなる発展を遂げていくことを期待するとともに、このような貴重な機会を与えて下さった、若林剛前教授、佐々木章教授、新田浩幸教授に心より感謝申し上げます。



2020年度巖刀会学術賞を受賞して

二階 春香

この度は、2020年度の巖刀会学術賞を賜りましたこと、選考委員の皆様にお礼申し上げます。大学院博士課程の学位論文である「Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on non-alcoholic steatohepatitis and liver fibrosis in Japanese patients with severe obesity」は、Obesity Surgery (IF 3.412)に掲載されました。本論文では、非アルコール性脂肪性肝炎 (non-alcoholic steatohepatitis, NASH) に対する減量・代謝改善手術の臨床成績、術後の肝組織学的変化とNASHの肝線維化改善の予測因子を検討しました。2008年6月から2019年3月までの期間に当院で腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 (laparoscopic sleeve gastrectomy, LSG) を施行した高度肥満症79名のうち術中肝生検を施行した68名を対象とし、NASHと診断された患者に対して術後6・12か月に超音波下肝生検を施行しました。肝線維化の病理学的評価では、中心静脈周囲線維化



を範囲からscore 0～3に分類したpericellular fibrosis scoreを用いました。

結果として、術中肝生検で68名中43名（63%）がNASH

と診断されました。また、10名は脂肪化のみが消失し線維化は残存しているという特徴的な病理像を示し、これらは良好な術前減量により肝脂肪化が消失したと考えられ、初診時にはNASHであったと推測されました。術後12か月でNASHの89%が改善し、NASHの診断基準を満たしませんでした。肝病理組織学的評価では、脂肪化・炎症・風船様変性からなるNASH activity scoreは術後6か月から有意な改善を認めましたが、肝線維化はそれに続き、術後12か月から有意な改善を認めました。肝脂肪化と比較し、肝線維化の改善には時間を要することが明らかとなりました。

多変量解析では、HbA1cのみが独立した線維化改善の術前予測因子であり (p=0.004, odds 比0.440, 95%CI 0.229-0.842)、カットオフ値はHbA1c 8.1%でした。

日本人高度肥満症患者において、LSGはNASH、肝線維化に対しても有効な治療選択肢となる可能性を示すことができた意義のある論文と考えています。

本論文に関しまして、佐々木章教授、梅邑晃助教をはじめ、ご指導ご支援いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。今後とも教育・研究・診療に邁進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

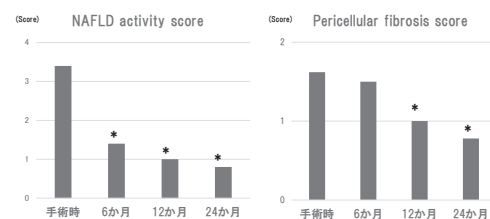
研究結果

術前の患者背景

	全体 (n=68)	NASH群 (n=43)	非NASH群 (n=25)	P value
年齢(歳)	44.7±12.4	44.2±13.5	45.5±10.5	0.622
性別(例)				0.104
男性	37	20	17	
女性	31	23	8	
体重(kg)	118.7±22.1	114.2±22.2	126.3±20.1	0.0214
BMI (kg/m ²)	43.0±6.2	41.8±5.2	44.9±7.3	0.0970
術前体重減少(kg)	11.9±8.2	9.2±5.5	16.5±10.0	<0.001
術前BMI減少(kg/m ²)	4.3±3.0	3.4±2.0	5.9±3.8	<0.001
肥満関連健康障害, 例(%)				
T2DM	46 (67.6%)	34 (79.0%)	12 (48.0%)	0.010
脂質異常症	49 (72.0%)	30 (69.7%)	19 (76.0%)	0.541
高血圧	59 (86.7%)	34 (79.0%)	25 (100%)	0.012
睡眠時無呼吸	67 (98.5%)	42 (97.6%)	25 (100%)	0.437

平均値±標準偏差

LSG後における肝組織学的所見の変化



LSG後の臨床成績

	NASH群 初診時 (n=43)	LSG後12か月 (n=32)	非NASH群 初診時 (n=25)	LSG後12か月 (n=22)
体重減少(kg)	114.7±22.2	84.7±19.6*	126.3±20.1	87.2±15.1*
総体重減少率(%)	-	26.4±7.1	-	31.4±8.5
BMI(kg/m ²)	41.9±5.2	31.1±4.6*	45.0±7.3	31.1±5.6*
内臓脂肪量(cm ²)	265.1±87.2	144.5±64.6*	283.7±90.6	134.0±64.7*
肝容積(mL)	2243.9±593.9	1517.5±277.7*	2281.7±533.6	1750.8±294.2*

平均値±標準偏差
* p<0.05

肝線維化改善の術前予測因子 多変量解析(ロジスティック回帰分析)

	Odds ratio (95%CI)	P value
体重減少(kg)	0.953 (0.904-1.004)	0.0751
空腹時インスリン(μU/mL)	0.897 (0.803-1.002)	0.0548
HbA1c(%)	0.440 (0.229-0.842)	0.0040



AUC 0.751
カットオフ値 HbA1c 8.1%

LSG後の検査成績

	NASH		Non-NASH	
	初診時(n=43)	12か月(n=32)	初診時(n=25)	12か月(n=22)
血糖インスリン(μU/mL)	22.1±18.0	8.2±4.3*	14.2±7.8	5.1±3.1*
HbA1c(%)	7.4±1.6	5.7±0.7*	6.7±1.8	5.5±1.7*
HOMA-IR	7.1±7.2	2.0±1.2*	3.8±2.0	1.1±0.7*
AST(U/L)	50.7±34.3	20.4±13.9*	26.6±15.9	17.0±5.8*
ALT(U/L)	73.3±52.6	18.3±12.0*	37.0±34.4	17.5±7.6*
中性脂肪(mg/dL)	162.6±115.9	88.6±53.8*	138.3±60.1	77.9±34.8*
ヒアルロン酸(ng/mL)	35.3±27.4	32.1±21.7	26.9±15.3	44.1±38.1
4型コラーゲン-78(ng/mL)	4.8±1.2	4.5±1.2	4.3±0.9	4.8±0.7
L/S ratio	0.7±0.27	1.3±0.2*	0.9±0.2	1.3±0.1*

平均値±標準偏差 * p<0.05

◆入院患者分類

疾 患		例 数
顔面・頸部		10
甲状腺・上皮小体	良性	8
	悪性	8
乳 腺	良性	4
	悪性	148
食 道	良性	3
	悪性	273
胃・十二指腸	良性	5
	悪性	286
大腸・肛門	良性	38
	悪性	287
肝・胆・膵・脾	良性	174
	悪性	353
イレウス		28
虫垂炎		10
ヘルニア・腹壁・腹膜		116
副 腎		11
病的肥満		77
その他		92
入院者合計		1931

◆手術件数

	件 数
全麻数	964
局麻数	74
その他	10
全手術数	1048

◆関連病院手術件数

	全手術 数	全身麻酔 手術数	急患 手術数	腹腔鏡	甲状腺 癌	乳癌	肺癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1092	1058	157	554	6	176	0	20	70	28	25	215
盛岡市立病院	748	676	93	500	3	6	1	0	34	19	7	136
盛岡赤十字病院	644	514	84	359	1	25	1	0	28	9	10	85
能代厚生医療センター	417	379	67	297	1	13	0	0	35	6	12	57
八戸赤十字病院	383	332	46	119	2	32	0	0	24	2	2	83
県立久慈病院	376	309	73	145	1	9	0	0	16	15	6	56
県立二戸病院	358	309	50	145	4	29	0	0	13	5	3	55
県立宮古病院	323	265	50	136	3	22	0	0	23	0	0	79
県立釜石病院	252	195	19	90	5	11	0	0	7	0	0	52
かつの厚生病院	234	174	14	136	3	5	0	0	12	0	2	43
県立千厩病院	169	151	20	89	0	12	0	0	11	1	0	24
北上済生会病院	139	121	5	86	4	0	0	0	6	1	0	22
県立江刺病院	109	66	7	47	1	6	0	0	1	0	0	12

◆関連病院発表業績件数

	英 文	和 文	国際学会	全国学会	全国研究会	地方会
盛岡市立病院	5	1	0	0	0	0
県立千厩病院	0	2	0	0	0	1
県立宮古病院	0	1	0	0	0	0
函館五稜郭病院	0	0	0	7	1	1
県立久慈病院	0	0	0	4	0	1
県立二戸病院	0	0	0	4	0	0
盛岡赤十字病院	0	0	0	2	0	1
県立釜石病院	0	0	0	1	0	1
能代厚生医療センター	0	0	0	1	0	0
八戸赤十字病院	0	0	0	0	0	0
かつの厚生病院	0	0	0	0	0	0
北上済生会病院	0	0	0	0	0	0
県立江刺病院	0	0	0	0	0	0

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2023. 12	指定	岩手県立久慈病院	～ 2023. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2023. 12	指定	岩手県立釜石病院	～ 2021. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2023. 12	指定	能代厚生医療センター	～ 2022. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2021. 12	関連	八戸赤十字病院	～ 2021. 12
指定	岩手県立中部病院	～ 2023. 12	関連	かづの厚生病院	～ 2021. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2022. 12	関連	岩手県立千厩病院	～ 2021. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2021. 12	関連	岩手県立江刺病院	～ 2021. 12

◆ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名		指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2021	指定	岩手県立中部病院	～ 2021
指定	函館五稜郭病院	～ 2021	指定	盛岡市立病院	～ 2021
指定	盛岡赤十字病院	～ 2021	指定	岩手県立宮古病院	～ 2022
指定	岩手県立久慈病院	～ 2021			

外科学講座

平田 勇一郎



出身大学：琉球大学 大学卒業年：2015年

出身地：鹿児島県 座右の銘：不退転

岩手医科大学外科に入った理由：

上級医と共に大塚先生の手術見学に来させていただいたことがご縁で武者修行に参りました。宜しくお願いいたします。

外科学講座

岩崎 崇文



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2018年

出身地：大阪府 座右の銘：一意専心

岩手医科大学外科に入った理由：

私は大学を卒業する段階ではまだ入局する科を決めておらず、岩手医科大学附属病院での初期研修中も終盤まで入局先を迷っておりました。その中で外科での手術・全身管理、患者様への真摯な姿勢などを学ばせていただき外科への入局を決めました。

若輩者ではありますが、一人でも多くの患者様のお役に立てるよう日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど頂けたら幸いです。

外科学講座

岩佐 友寛



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2020年

出身地：岐阜県 座右の銘：己の欲せざるところは人に施すなかれ

岩手医科大学外科に入った理由：

外科を選んだ理由：父の手術している姿を見ているうちに手術に興味を持ち、外科系に進もうと考えていました。その中でも消化器外科に興味をもったきっかけは5年生のときのポリクリでした。先生方は忙しい中でも熱心にご教授してくださり、とても有意義な時間を過ごしたことを覚えています。また、手術は美しく、そんな先生方の姿に憧れを抱くようになりました。

これからいろいろとご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

大塚 観喜



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2020年

出身地：岩手県 座右の銘：人に優しく

岩手医科大学外科に入った理由：

私は幼少期より、自らの手で直接人の命を救うことができる外科医に強い憧れを抱いておりました。学生時代の病院実習では、患者様と真摯に向き合う先生方の姿勢と、手術に対する決して妥協しないプロフェッショナリズムに心を打たれ、いつか先生方のような外科医になりたいと思い、入局させていただきました。

何かと未熟でお手数をおかけすることと存じますが、ご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

口田 脩太



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2020年

出身地：北海道 座右の銘：雨垂石を穿つ

岩手医科大学外科に入った理由：

私は学生時代、手術というものに興味がありました。臨床実習で外科をローテートした際にダイナミックさと繊細さを兼ね備える外科分野の手術に惹かれました。また手術以外にも患者様に真摯に対応される先生方の姿勢に感銘を受け、入局を決意しました。

現在、函館五稜郭病院で初期臨床研修医として研修させていただいております。まだまだ未熟者ではありますが、こつこつと研鑽を重ね、岩手県に貢献できる外科医になれるよう努力してまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

模擬手術通じがん理解

高校生
セミナー

た。

矢巾

岩手医大
（小川彰理事

を見ながら、電子メスなど
を操作して胆のうを摘出し

盛岡三二の平賀柚稀さ
んは「内視鏡の操作が想像
以上に難しかったが、将来

は医師になりたい」と夢を
膨らませ、花巻北二の藤
原史織さんは「がんの治療
方法を具体的に知ることが
できた」と医療現場に関心
を高めた。

長は11日、矢巾町医大通の
同大災害時地域医療支援教
育センターで、高校生キャ
ンサーセミナーを開いた。
生徒たちは専門医の講義や
手術の模擬体験などを通
じ、がんへの理解を深めた。
県内の高校1、2年生40
人が参加。がん患者の現状
や治療法について講義を受
け、専門医の指導で人体模
型を使った全身麻酔や内視
鏡手術シミュレーターなど
を体験した。



医師の指導で内視鏡手術シミュレーターを体験する生徒（左）

岩手日報 2020年2月12日掲載

県立釜石病院 建て替えを 地域医療体制検討会 市に提言書提出

野田武則市長に地域包括ケア体制に関する提言書を手渡す小泉嘉明会長（右）

釜石 釜石地域医療体制検討会（小泉嘉明会長）は28日、地域包括ケア体制に関する提言書を釜石市に提出した。住民の安心安全を守る医療体制の維持へ官民一体の取り組みの必要性を強調。老朽化が著しい県立釜石病院の建て替えを県に強く要望するよう求めた。

小泉会長が市役所を訪れ、野田武則市長に提言書を手渡した。提言は同病院の建て替えに関する要望のほか、関係機関と行政との連携による取り組みの推進

釜石地域医療体制検討会への配慮、医療従事者確保の県への要望―など。

釜石保健医療圏の基幹病院である県立釜石病院は1977年12月の移転新築から40年以上が経過。県は劣化調査の結果・内容を精査し、建て替えが大幅な修繕かの検討を進めている。

同検討会は「修繕」の場合、将来的に大きな不安要素となるとし、県が建て替えを早期に明言することを要望。小泉会長は「地域医療を守る観点から一緒に、野田市長は「喫緊の課題だ。市としても県に訴えていく」と述べた。

同検討会は釜石医師会、

岩手日報 2020年7月29日掲載

医療従事者 激励の菓子

坂下伸夫院長に菓子を手渡す佐藤悦子特別顧問（左）と佐々木和広工場長（中央）

釜石 横浜市・震災雇用支援機構 本県被災地で活動している公益社団法人東日本大震災雇用・教育・健康支援機構（横浜市、田中潤理事長）は8日、釜石市の県立釜石病院（坂下伸夫院長）の医療従事者のために菓子を贈

呈した。

同機構の佐藤悦子特別顧問（78）と同機構が運営する大槌町のパン店「モーモーハウス大槌」の佐々木和広工場長（58）が同病院を訪れ、「お菓子を食べて一息ついてほしい」と激励。坂下院長（59）に同店で作るラスクとフレンチせんべい計約350点を贈った。

新型コロナウイルス感染症の流行後、同病院がこうした支援を受けるのは初めてで、坂下院長は「気に掛けてもらって非常にありがたい。改めて地元の方のために力を尽くしたい」と話した。同機構はこれまでに同市、大槌町、宮古市の4病院にも菓子を届けた。

同検討会は釜石医師会、

釜石歯科医師会、県看護協会釜石支部など17団体の代表らで構成する。

岩手日報 2020年9月9日掲載

食道がん再発採血で判定

岩手医大 体の負担なく早期発見



食道がんの再発を早期に検出する方法を説明する岩谷准教授（左）と西塚特任教授（12日、矢巾町の岩手医大で）

岩手医大の研究グループなどが、食道がんの再発を早期に知る方法を開発したと発表した。超高度の検査で血液に含まれるがん由来のDNA（デオキシリボ核酸）を検出するもので、従来の方法よりも早く再発の有無を確認できるうえ、患者の体に負担をかけない利点がある。研究成果は米国消化器病学会雑誌「ガストロエントロロジー」電子版に掲載された。

食道がんの再発の診断は、CT（コンピューター断層撮影法）検査で血液中のたんぱく質などからがん

を見つける「腫瘍マーカー」が主流だ。だが、CT検査は放射線被曝などによる体への負担が大きく、腫瘍マーカーは腫瘍量の増減を正確に反映できない場合もある。

同大は、血液中に漏れ出したがん細胞のDNA「腫瘍細胞由来血中循環遊離DNA（ctDNA）」に着目。札幌医大、国立がん研究センターと共同で、検査時間が短く安価で済む「デジタルPCR」と呼ばれる方法でctDNAを検出する研究を行い、再発リスクのある食道がん患者の検査に有

効かどうかを検証した。

その結果、再発が見られた患者は、CT検査よりも約6か月早くctDNAの値の上昇が確認され、早期の再発を発見できた。手術や放射線治療などに合わせてctDNAの値が増減することも確認でき、治療効果を正確に判定できた。

また、ctDNAが陰性の状態が続くと、再発がないことも確認された。

12日に矢巾町の岩手医大で開かれた記者会見で、同大の岩谷准教授は「ctDNAの検査は採血のみで判定でき、体への負担が少なく、日常的な臨床検査になる可能性がある」と述べ、同大医歯薬総合研究所の西塚特任教授は「今後、食道がん以外への応用も可能となるだろう」と話した。

March

3

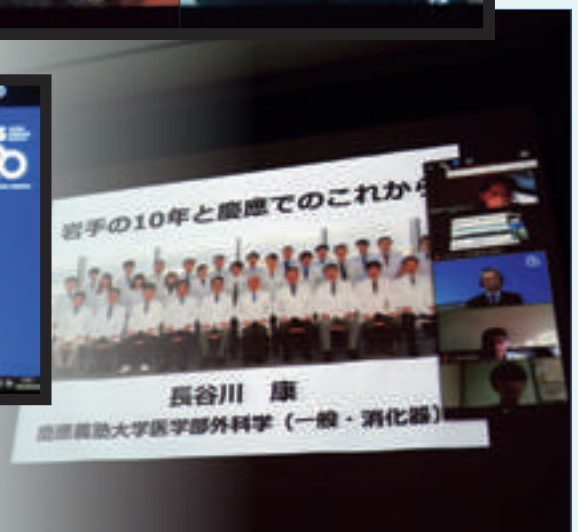
長谷川 康 特任講師 送別 (2020.3.18)

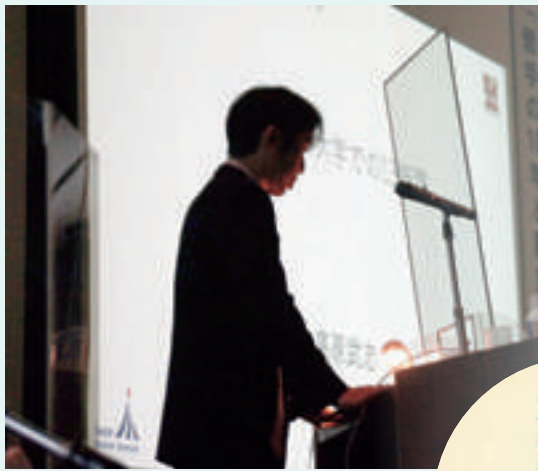


August

8

岩手医科大学
高原 武志 講師 長谷川 康 特任講師 退職記念講演会
(2020.8.29. 盛岡グランドホテル)





Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

巖刀会の先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。2020年度の岩手県立二戸病院の近況をご報告申し上げます。2020年4月に川村英伸先生が県立久慈病院へ異動され、私、御供が着任致しました。他のスタッフは前年度と変わらず、石橋正久先生、松井雄介先生、瀬川武紀先生の4人体制で診療にあたっております。

外来診療には、毎週月曜日に遠藤史隆先生、毎週木曜日に山田裕彦先生（高度救命センター准教授）、毎週金曜日に新田浩幸教授、第3月曜日に小松英明先生（乳腺外来）、小児外科外来は第1火曜日に小林めぐみ先生に来ていただいておりますが、今年2月からは第1金曜日に鈴木信准教授にお手伝いいただく予定です。緩和ケアの診療応援には毎週金曜日に木村祐輔教授、手術応援には、毎週火曜日に武田大樹先生に来ていただいております。また昨年4月までは災害・総合医学講座の下沖収教授にも隔週木曜日の手術応援に来ていただいております。このように大学医局からたくさんの派遣をいただき医局の先生方には大変感謝しております。この場を借りて深謝申し上げます。

2020年の手術件数は全手術数358件でした（前年度402件）。全身麻酔手術数309件（341）、鏡視下手術数145件（166）、緊急手術数は50件（64）でした。昨年度の手術症例が例年より多かったため、昨年度と比較しますと全体的に減少傾向にはありますが、例年と比べますとそれほど変動はないかと思われます。

麻酔に関しましては、月曜日から木曜日までは被災地復興支援のために岩手にきていただいている関西医科大学滝井病院麻酔科教授の村尾浩平先生、金曜日、休日は岩手医科大学麻酔科の応援をいただいておりますが、今年6月に村尾先生が関西へお戻りになるため、それ以降はまだ未定



ではありますが、岩手医科大学麻酔科へ常勤あるいは応援体制をお願いすることになると思われます。

当科のトピックスとしては、川村先生が県立久慈病院の院長へ栄転されたことです。さぞかしご多忙な毎日を過ごされていることと思います。そして、七夕の日に松井先生に第2子が誕生しました。松井先生似？のかわいい女の子でいっそう賑やかで楽しいご家庭になることと思います。病院としては、地域包括ケア病棟が新設されて1年になろうとしていますが、入院患者数、入院収益は安定してきており軌道に乗り始めているようです。また、2021年1～3月には、すでに外科入局が決まっている研修医1年目の岩佐友寛先生が外科研修にきており、毎日外科診療に勤しんでおります。

2020年は新型コロナウイルス一色に覆われた激動の年でした。いまだ全く見通しがつかない状況ではありますが、こういう時だからこそ皆が協力していかなければと思っております。1日でも早く以前のような環境に戻ってくれることを切に願っております。集合写真は、数年経って見たときにあの頃はコロナで大変だったよねと思い出話にできるよう、あえて全員マスク着用で撮影しました。

大変な状況下ではありますが、引き続き二戸市、一戸市、軽米町、九戸村、旧浄法寺町から成る「カシオペア連邦」、他に葛巻町、青森県三戸町、田子町までを含む広い医療圏の外科診療に貢献していきたいと思っております。

今後ともご指導、ご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。（文責：御供真吾）

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

医局の皆様、新年あけましておめでとうございます。

令和3年となりましたが、この一年のあいだ世界中を席卷している「コロナ禍」が収束してほしいと思っている皆様は多いでしょう。

コロナの嫌なところは、院内感染はもちろんのこと、風評被害も付いてきますし、濃厚接触者の確認など沢山の人の迷惑をかけてしまう部分ですね。早くワクチン接種ができ、タミフルのような薬が開発されて、インフルエンザ類似の扱いになってほしいものです（ワクチンまわってくるのはいつかしら？）。

そんな中でも当院への応援を継続していただき、誠にあ

りがとうございます（菊池先生、中村先生、木村先生、伊藤先生、真壁先生、清水先生、八重樫先生、早野先生、有吉先生など）。本当に皆さんのおかげで助かっております。

今回紹介する写真は、リニューアルした病院ホームページの「病院紹介欄」です。というのも、2月に四回目の「病院機能評価」を受けることになっており、事務方や看護師さんたちはマニュアルやホームページの整備など、沢山の仕事をこなしているからです。本当に「病院機能評価」受審は、パラメディカルの方々の頑張りによって成り立ちますね。ホームページも充実しましたので、お時間あるときにのぞいていただくと幸いです。

現在当院は一般病床・地域包括ケア病床・療養病床の3つのタイプの病床を併せ持っており、地元患者の救急医療



や、二戸・久慈圏域を含む県北の慢性期医療を支えることを方針としています。そして岩手医科大学の他、県立病院や東北大学などからも応援をいただきながら地域医療を担っています。ですので、外来の中での会話も「いわゆる病気」の話は少なめで、「家族構成はどうなっていて、誰と暮らしているか?」「介護力はあるだろうか?」「年金はいくら貰っていて、余裕はあるの

か?」など、保健師さんが聴きとるような会話が増えてきています。そして介護保険制度にスムーズに連携できるように、退院調整の看護師さんや施設のケアマネさんと相談することの方が増えております。

医局の皆さん！当院は皆様の生活関連病院として生き残るよう頑張りますので、今後共ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。（文責：葛西敏史）

Iwate Prefectural Kuji Hospital

岩手県立久慈病院

令和2年度の外科スタッフは川村英伸院長のほか、遠野千尋、伊藤千絵、藤井仁志、畑中智貴、救急医学講座/皆川幸洋救急センター長の6名でした。その他、2年次研修医、1年次研修医もローテーションをしてくれています。また、外科学講座医局からは小児外科外来を小林めぐみ先生、乳腺外来を小松英明先生に毎月1回の診療、また、佐々木章教授、肥田圭介教授、新田浩幸教授、大塚幸准教授、高原武志講師、片桐弘勝講師にも手術応援を頂き、最先端の手術術式を学ぶことができています。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

2020年の手術件数は376件（2019：425件、以下カッコ内は前年件数）で、全身麻酔手術件数は309件（337）、鏡視下手術は145件（166）でした。癌の手術においては多い順に大腸癌が56件（53）、胃癌が16件（18）、乳癌が9件（23）でした。緊急手術は73件（53）でした。全体で10%の減少でしたが、乳癌手術が60%の減少、大腸癌、胃癌は平年通り、緊急手術は40%の増加でした。新型コロナウイルス感染症による社会情勢から、受診控え、集団検診の中止、また、新型コロナウイルス感染症患者の入院による、病院全体の診療体制の縮小が影響しているものです。



沿岸の基幹県立病院においては受診患者、入院患者が10%弱の減少があり、当院もその傾向で、外科の手術件数は減少しています。しかし、久慈広域の救急車出動件数は年々増加しており、平成1年が1000件でしたが、30年後の令和1年は倍の2070件です。ドクターヘリ搬送は岩手医科大学高度救命救急センターが26件、八戸市民病院が15件でした。それらの85%が久慈病院に搬送、経由されています。久慈地域では65歳以上の人口は減少することがなく、2045年まであと25年間は1万人を維持する見込みであることが要因のひとつです。外科チームも手術のみならず、救急も診療活動の大きな部分を占めています。今後も医局のご指導、サポートを頂きながら、医師のみならず、医療スタッフとも一丸で、先端の外科学を実践しながら、地域外科医療に取り組みます。（文責：遠野千尋）

Morioka Japanese Red Cross Hospital

盛岡赤十字病院

2020年の当院のトピックスは、コロナ患者受け入れ病院として、感染対策チームを編成して入院患者の対応にあたりました。当院での院内感染などもあり、世間の風当たりを強く感じる時期もありましたが、その期間も我々は黙々と日常診療を行っておりました。感染患者の手術例も1例ありましたが、スタッフの適切な対応により大過なく終わることができました。

人事としては、4月からは岩崎崇文先生が赴任し、7月から中村聖華先生が市立病院へ転勤となっており、5人体制となっております。

手術件数は、コロナの影響で全麻件数601件と昨年比85.5%と現象しております。一方、鏡視下手術は359件で昨年比91.8%となっており、件数は減少したものの鏡視下手



術の比率は上昇しております。

2021年度もコロナとの格闘は続くと思いますが、皆でモチベーションを保ちつつ乗り切りたいと考えております。

今年在籍した常勤医

杉村好彦、大山健一、高橋正統、有末篤弘、中村聖華、岩崎崇文

Morioka Municipal Hospital

盛岡市立病院

令和2年度は、須藤隆之（昭和63年卒）、藤原久貴先生（平成10年卒）と令和2年4月より能代厚生医療センターより天野怜先生（平成26年卒）と岩手医大高次救急センターより棚橋洋太先生（平成27年卒）に1年間の長期出張で勤務頂いております。

昨年当科で最も嬉しい話題は、昨年の有吉佑先生に続いて天野先生が日本消化器外科専門医を現役合格されたことでした。また、令和3年4月より棚橋先生が岩手医大大学院に進学されることが決まりました。

昨年はなんといっても日本中がコロナ一色でした（今年もですが。。）。歓迎会、納涼会、忘年会、新年会など飲食を伴う全ての集会を自粛せざるを得ませんでした（たぶん送別会も。。）。しかし、そんなコロナ禍で手術規制にも拘らず、当科では全身麻酔手術件数が増加いたしました。令和2年の全身麻酔手術件数は676件と令和1年の625件と比べて51件の増加を見ております。今年は、全身麻酔手術件数700件越えを目標としております。令和2年の腹腔鏡下手術件数は、500件で腹腔鏡下手術率は74.0%（500/676件）でした。令和1年の腹腔鏡下手術件数は、488件で腹腔鏡下手術率78.1%（488/625件）でした。手術件数は増加しており

ましたが、腹腔鏡下手術率はほぼ同等でありました。

学術活動は、英文論文5編、和文原著論文1編が掲載されました。コロナ禍で学会、研究会の中止が相次ぎ学会発表は全く出来ませんでしたが、コロナに影響されない執筆活動は順調に行うことができました。今年も当科で行っている臨床試験結果を原著で順次掲載し、全国に当科の学術面もアピールしていきたいと思います。現在当科で行っている臨床試験は、ERAS（標準食 VS ERAS食）、In Body, SSI（イソジン VS オラネジン）、TAPP（RPS）、ラパ胆（RPS）の計5件であります。今後も当院に勤務頂く先生には、臨床のスキルアップはもちろんのこと、老若問わず活発な学術活動を継続して頂きたいと思っております。

当科の恒例行事でありましたキッズセミナーは、昨年13回目の予定でありましたがコロナの影響で中止せざるを得ませんでした。今年こそは、是非再開出来ればと思っております。

当科は、毎日4人で全身麻酔手術を午前中から3-4件と超多忙であり、術者の高齢化も相まって肩こり（主に藤原医師）、腰痛、テニス肘（主に須藤）に悩まされております。整形外科では、いわゆるテニス肘との診断でしたが、テニスはしないので反復する鉗子操作が原因の疲労性障害でしたので当科ではこの外傷をラパロ肘と呼んでいます。そこで福利厚生として、娯楽としての温泉ではなく、治療

の一環として症状が重く手術に支障をきたす際には、湯治を行なっております。日帰りでも短時間ではありますが秘湯の露天風呂で大自然に囲まれて心も体もリフレッシュし翌日からの手術、学術活動への英気を養っております(図1)。

令和3年の臨床での目標は、ダヴィンチ手術の導入であります。コロナの収束待ちですのでダヴィンチ購入は、令和4年にずれ込むかもしれません。

当科は、今後も中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院としての使命を果たしていく所存であります。紹介患者は、待機手術、緊急手術を問わず必ず直ぐに引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

最後に手術、乳腺検診、乳腺外来、当直などの診療応援を頂いた、佐々木章教授、新田浩幸教授、池田健一郎先生、

富澤勇貴先生、梅邑晃先生、石田和茂先生、八重樫瑞典先生、中村聖華先生、屋成信吾先生に深謝いたします。

(文責：須藤隆之)



Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

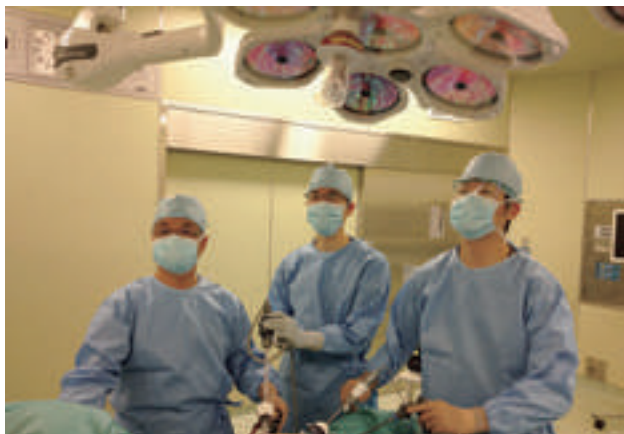
岩手県立釜石病院

令和2年度 岩手県立釜石病院の診療状況を報告させていただきます。

外科スタッフは、院長 坂下伸夫先生 副院長 石川徹先生、外科長 箱崎将規 救急医療科長 斎藤匠先生の常勤医4名中心で診療にあたりました。

外来診療は、一般診療は、2名体制で行い、専門外来は、毎週木曜日 甲状腺外来 小笠原聡先生、月1度の食道専門外来 岩谷岳先生、乳腺外来は県立中部病院から、診療応援をいただいております。

水曜日には県立大槌病院 院長 佐藤一先生に、診察、手



術指導いただき医局の先生方にも、月、火、金の午後の手術応援をいただいております。

週末の当直、救急対応も応援もいただき、若手常勤医が少ない中で大変助けられております。

また、専門疾患について、佐々木章教授をはじめ各グループの先生方に手術指導や診療方針のアドバイス等ご教示いただき当院での治療につなげております。

癌化学療法、人工肛門管理、創傷処置、緩和ケア、嚥下障害、放射線治療など、認定看護師スタッフとの協力も必要不可欠で、みんなで日常診療にあたっております。

医療クラークさんたちにも、外来診察時の業務や診断書などさまざまな面で協力いただいております。

手術においては、260件施行し、うち全身麻酔は200件でした。緊急手術20件、鏡視下手術90件でした。大腸、胃、乳房、胆嚢、ヘルニア、甲状腺手術が疾患の中心となっております。

2020年は、釜石病院としては、病院機能評価を受け、無事に認定を更新することができました。今後も地域医療に寄与していきたいと考えます。

今年度はコロナ禍の影響もありました。発熱外来を中心に、PCR検査の施行や、看護師も、県立病院間での派遣協力などを行っております。地域での感染拡大防止を第一に職員一丸となって取り組んでおります。今後も地域のニーズに答えられるように、診療に臨んでいきたいと思っております。

これからもよろしくお願い致します。(文責：箱崎将規)

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院

県立宮古病院外科と宮古地域の近況を報告します。

昨年からのコロナ禍のなか、諸先生方のご苦労は如何ほどかと案じております。当地でも、令和2年7月に岩手県内第2例目感染が宮古市で確認されました。しばらく落ち着いていましたが、11月になり宮古市内飲食店でのクラスターが発生し、あっという間に当院の感染者ベッドは満床となりました。その後は当院呼吸器内科や感染担当の先生方、院内関係スタッフ、他施設の関係部署の皆様のご尽力でどうにか乗り切ったという感じです。当院では今までの28名の感染患者が入院しました。まだまだ油断は禁物ですし、今後もワクチン接種の調整など問題が山積みですが、COVID-19の早期終息を願っております。

宮古盛岡横断道路も着々と工事が進んでいます。皆様は昨年12月5日に開通した新区界トンネルを通られましたか？全長4998m（5000m未満なのは道路法が関係します）で東北で3番目、岩手県内で1番長いトンネルだそうです。新区界トンネルを出るとすぐに、新梁川トンネル：1576mがあります。完成には5年7ヶ月以上を要したようですが無事に開通しました。令和2年度末には全線開通を予定しており県でもポスターなどで周知していますが、盛岡-宮古間が今までより30分は短縮されます。これにより大学病院や救急センターへの、悪天候でドクターヘリが飛べないときや夜間の救急搬送などで今まで以上に迅速な医療が提供可能となります。これからも復興道路が活躍してくれることでしょう。

診療体制では、昨年4月から新病院長として吉田徹先生をお迎えし外科はもとより宮古病院全体として地域医療充実に向けて邁進しています。また、外科医長として川島到真先生が赴任しました。いろいろな意味で、若いうちが良い



などあらためて感じる今日この頃です。阿部薫（副院長兼診療情報管理室長兼医師事務支援室長）、藤社勉（第1外科長兼緩和医療科長兼救急医療科長）、石黒保直（第2外科長兼医療研修科長兼感染管理室長）のメンバーは昨年度と同様に診療に励んでいます。

昨年は病院全体としてもCOVID-19による患者さんの受診控えや入院制限などの影響がでています。当院BCPフェーズの感染拡大期では、緊急性のない手術の延期や予定手術の延期をしました。この影響もあって令和2年の外科全手術件数は323件で前年度より実に118例の減少、全身麻酔件数は265件で90例の減少でした。緊急手術件数は前年より17件の減少でしたので、やはり予定手術件数の減少が目立ちました。癌の手術では大腸癌手術が前年より35例減少しており、これも病院への受診控えや手術控えの影響でしょうか。

診療応援では、火曜日午後の手術指導に不定期で細井信之先生、毎週火曜夜から水曜日午前外来は昨年1年間は藤澤良介先生、月一回の乳腺外来に小松英明先生の応援をお願いしています。また、今年から毎月第三金曜日の午後に岩手医大小児外科准教授の鈴木信先生にも診療応援を頂いています。

研修医の指導や学生実習など、例年近隣の先生方には非常にお世話になっております。今後とも引き続いての同門の先生方、医局の先生方のご指導・ご支援をお願いいたします。（文責：阿部 薫）

Kitakami Saiseikai Hospital

北上済生会病院

巖刀会の先生方に於かれましては、益々御健勝の事とお慶び申し上げます。

北上済生会病院2020年度のご報告をさせていただきます。

この度 北上済生会病院は昨年2020.11.24より新病院での診療開始と相成りました。

標榜診療科21科

病床数224床：

一般病棟114床（感染病床4床を含む）

小児周産期病棟50床（NICU 7床） 回復リハ病棟60床

5F構造 敷地面積18,953.24㎡ 患者用駐車場209台

電子カルテ（SSI）が導入され

ラウンジ コンビニエンスストア

保健予防センター（健診 人間ドック）が設置されました。



※写真は新病院の外観です。



手術室は3部屋で増室はありませんが室内が広くなり以前の様な閉塞感がなくまた各部屋に専用モニターが設置されています。是非一度ご覧ください。

当科は2018年10月より常勤外科医師1名体制で運営する事となり、手術・外来応援を複数の施設より多数頂いております。

外来応援には大塚先生、小松先生（乳腺外来）、小林めぐみ先生（月1回小児外科外来含む）、佐々木秀策先生、屋成先生に診療応援を頂いています。

手術応援には鴻巣先生、塩井先生、小林先生、佐々木先生、藤沢先生に執刀やお手伝い頂きました。

また昨年度は新田浩幸先生に脾臓癌症例を1例（脾頭十二指腸切除+門脈合併切除、再建術）をご執刀頂きご指導を賜りました。本当に有難うございます。

金曜日の病院当直に関しましても隔週で大学病院より派遣を頂き病院としても大変助かっています。

新病院開院後も手術を含めた診療内容の充実を図るべく、励んでいきたいと思っております。

本年度も医局・関連病院・市内外で開業されている先生方からのご支援、ご協力を賜ります様 何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責：細井信之）

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院

2020年4月から、当院の常勤医師数の定数は3→2となり、塩井（平成13卒）と石岡（平成27卒）の2名の常勤体制でスタートいたしました。6月から9月まで伊藤浩平先生が当院に派遣となり、手術に救急に活躍していただきました。

2020年の当院の全手術件数は、全身麻酔件数151件（昨年153件、1.3%減）、腹腔鏡下手術件数は89件（昨年91件、2.2%減）といずれも昨年とほぼ同数で終わりました。新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でしたが、外科症例については地道に継続して外来診療・手術ができ、皆さまにご協力いただきましたこと、深く感謝申し上げます。診療応援いただきました下沖収教授、西塚哲教授、西成尚人先生、小原眞先生、松谷英樹先生、藤井大和先生、大学院生の先生方には大変お世話になりました。

外来患者数は6779名（前年7093名、4.4%減）と前年より減少し、入院数については7608名（前年10132名、25.0%減）と前年より大きく減少いたしました。この患者数減少は、コロナ感染症の余波で当院の1病棟を縮小閉鎖したために、入院患者を最小限にしなければならなかったことがあげられます。

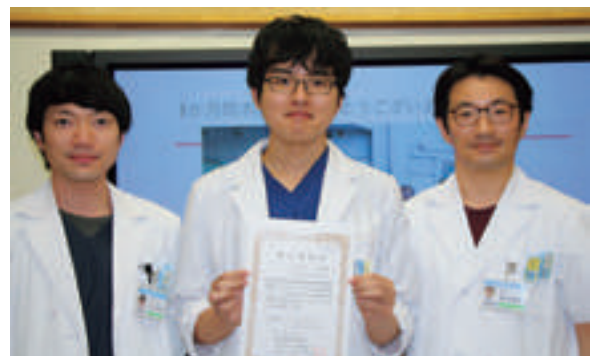
昨年まで当院では虫垂炎、ヘルニア、尿管管遺残症、胆石症、胆管結石、直腸脱、大腸癌、胃癌に対して腹腔鏡下

手術を行っておりました。2020年には肥田教授にご指導いただきまして、腹腔鏡下胃切除術（LADG、δ吻合）を導入できたことは大きな進歩でした。佐々木章教授には腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術を、新田浩幸教授にはPpPDを執刀していただき、大塚幸准教授には脾彎曲部の腹腔鏡下結腸切除術をご指導いただきました。

学術面では、石岡医師の論文が日本腹部救急医学会雑誌および日本大腸肛門病学会雑誌に、塩井の論文が日本内視鏡外科学会雑誌にAcceptされ、学術面でも前進できたことは成果でした。

2021年1月は、当院外科スタッフは塩井、石岡の2名体制が継続でスタートしますが、コロナ感染症に負けず、総合外科診療の質をより向上させ、東磐井郡の地域住民のために地域に根ざした診療を行っていく所存です。

（文責：塩井義裕）



※写真は、当院外科の地域医療研修を修了した岩手医科大学研修医の渡辺祥先生(中央)、塩井義裕(右)、石岡秀基(左)の3人です。

Iwate Prefectural Esashi Hospital

岩手県立江刺病院

巖刀会の先生方に於かれましては、ますますの御健勝のことお慶び申し上げます。また今年度はCOVID-19により診療体制の変更や対策など例年とは違う1年となり、先生方に於かれましても大変なご苦勞をされておられることと案じております。令和2年度の岩手県立江刺病院の御報告させていただきます。

今年度は川村院長と佐々木の2人体制で診療を行っております。また外来応援として水曜日に中部病院より伊藤達朗院長、金曜日に大学病院より肥田圭介教授に来て頂いております。また手術応援とし北上済生会病院より細井信之先生、当直業務・手術応援医に中村侑哉先生、伊藤浩平先生、木村拓先生、菊池晃司先生に来て頂いております。この場をお借りし多大な支援に感謝申し上げます。

手術業務についてはCOVID-19の影響もあり総手術件数は118件（前年184件）と減少しておりますが全身麻酔件数67件（前年61件）、腹腔鏡下手術48件（前年34件）と昨年と同等

の件数は維持できております。また北上済生会病院へ手術応援も行かせて頂いております。

一般業務として当院は地域密着型病院であり周辺の基幹病院との

連携のためリハビリ加療や廃用症候群など外科疾患以外の加療を行うことが大半となっております。今後も高齢化が進むなか今以上に地域のニーズに応えられるよう診療に臨ませて頂きます。

本年度も医局先生方、関連病院の先生方からの御支援・御協力を賜ります様何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責：佐々木秀策）



Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

お久しぶりです。今年は川岸が五稜郭病院の近況報告をさせていただきます。2018年度の船渡先生、2019年度の米澤先生の面白くながーい報告の後に書くのは、大変心苦しいのですが、どうぞ最後までお付き合いください。2020年といえば、やはりコロナでしょうか。函館市は11月頃まではコロナの発生数も少なく、わりとのんびりと過ごしていました。しかし、11月中頃から急激にコロナ患者が増加し、

クラスターも発生！五稜郭病院では、コロナ疑い患者対応病床の確保や、発熱患者・濃厚接触者へのコロナ検査（玄関前にでかいシェルターができました）



が開始されました。また、コロナ下で救急対応困難な病院もありますので、二次救急も積極的に受け入れて地域医療への貢献に努めています。今までの様に、外科メンバーで気軽に飲みに行けなくなったのが少々ストレスです。

2020年度のメンバーは、昨年度に引き続き、高金明典副院長、小林慎診療部長、船渡治科長、米澤仁志主任医長、千葉丈広主任医長、河野剛先生（札幌）、佐藤慧先生、吉田瑛司先生（札幌）、武田大樹先生との入れ替わりで赴任した及能拓郎先生（札幌）、そして川岸涼子の計10名です。年々、スリムな札幌の先生が増えていく中、毎朝のミーティングルームが年々狭く感じるのは、色々な意味でひと回りもふた回りも大きくなる同期のおかげでしょうか……。我々が親分・高金先生には胃痛を中心に御診療いただいております。開腹手術も腹腔鏡下手術も本当に手技が早くて綺麗で、見惚れてぼーっとしていると怒られます（笑）。また、千葉先生や佐藤慧先生を率いたda vinciチームで、da vinci手術にも積極的に取り組まれています。困ったときの小林先生には食道癌や甲状腺の症例の診療・手術、救急外来診療も御担当いただいております。小林先生からの電話は緊急手術になる症例が多く、救急当番日に電話が鳴る

と、冷やっとなります。キン肉マン・船渡先生は、武田先生が退任されてから、肝胆膵領域の症例を広く受け持っていたが、肝胆膵の手術症例を狙っている吉田先生の手術指導も行っていておられます。長時間の手術をこなしながら、プライベートでは体力？筋肉？づくりに励んでおられます。意外と子煩悩な米澤先生は、乳癌症例を担当いただいております。手術を御一緒することが多く、手術中の小話には美味しい居酒屋の情報が盛り沢山で、いつも楽しく聴かせてもらっております。御結婚されてから一緒に飲み歩くことは少なくなりましたが、家では奥さんの手料理がいっぱい出てくるそうで、幸せそうなお腹がいつか弾けてしまわないか心配です。優しい笑顔の千葉先生は、胃癌も大腸癌も様々な手術をご担当いただいております。いつも穏やかで、困ったときにもすぐに相談できるので、病棟の看護師さんたちにも人気があります。釣りとビールが大好きな河野先生は、どんな手術もさらっとやってのけてしまうオールラウンダーです。手術は早くて綺麗なのですが、料理はどうやら苦手な様で、外食自粛のコロナ下では大変そう……ビールでカロリーを摂取しており、いつか倒れてしまわないか心配です。同期の佐藤慧先生は、大腸癌を中心に診療しています。この度、日本内視鏡外科学会の技術認定医（大腸）を取得し、医師としてもひとまわり大きくなりました。2021年度から直腸癌でもda vinci手術を始めるぞ！！と、息巻いております。男は上腕二頭筋を鍛えるものだ！とか言っていますが、お腹はぷよぷよのまま……まずは腹筋じゃないのかな……。ジェントルマン及能先生は、大腸癌や良性疾患を中心に担当しています。函館出身（中学の同級生）・肛門科の跡取り息子、昔から真面目なイケメン少年でしたが、オヤジになった今も変わらず積極的に定期手術も緊急手術も取り組んでくれています。若きエース・吉田先生は、大腸癌や良性疾患だけでなく、胃癌や膵臓癌などの手術も積極的に執刀しています。手術所見もとても綺麗で詳細であり、まるで手術書を見ているようでびっくりします。これからもどんどん手術をこなしていって欲しいと思います。私、うっかりものの川岸は、乳癌を中

心に診療しています。たまに消化器系の緊急を引くこともありますが、以前の赴任時よりはどっしりと構えて緊急手術に臨める様になりました。年報を見返すと毎年、皆様にご心配いただいておりますが、今のところ浮いた話はなく……佐藤慧先生とのんびり独身生活を謳歌するしかありません（笑）。

今年度は岩手医大に入局を決めた大塚先生、口田先生2名が五稜郭病院に研修医として赴任しました。2人とも既に外科研修を終え、厳しい？指導のもとに腹腔鏡下虫垂切除術や胆嚢摘出術、人工肛門造設術などを執刀しました。そのほか、臨床外科学会でも発表を行い、全国学会デビューもしております。研修医1年目ながら、アメとムチの厳しい指導に耐えて一生懸命に頑張っており、今後が楽しみです！また、他にも外科に興味のありそうな研修医の女の子も1人おりますので乞うご期待！？です。

さて、そんな五稜郭病院ですが、新たに2つの施設認定を取得しました。2020年より日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設B、2021年1月より日本乳癌学会認定施設の認定を取得しました。ながらく大学や北美原クリニックの関連施設でしたが、今回、無事に認定施設を取得でき、正直、ホッとしております。早川先生、医局の先生方、ありがとうございました。2020年度の総手術件数は1092件、うち全身麻酔は1058件、急患症例は157件でした。うち、胃癌70件、大腸癌215件、肝胆膵53件、食道癌20件、乳癌176件でした。岩手医大からは大塚先生と木村先生、また、札幌医大からは竹政伊知郎教授にもお越しいただき、大腸癌の難渋症例に対し御指導いただきました。大塚先生、木村先生、いつもありがとうございます。昨年度と比較すると、総症例数が54件減っておりますが、コロナ下で手術枠が減ってしまったことも考えるとまずまずではないか……と思います。次年度は、コロナに負けず、手術件数を増やせる様に頑張りたいと思います。今年度に引き続き、研修医の指導や学生実習、若手外科医の育成に励んでいきたいと思うますので、今後とも、ご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。



Noshiro Kousei Medical Center

能代厚生医療センター

当院の2020年は全手術件数が417例、全身麻酔手術が379例、腹腔鏡手術が297例と腹部全身麻酔手術（326例）におけるその割合は91.1%と高い水準を維持しております。緊急手術に関しても積極的に腹腔鏡手術をおこなっており、急性虫垂炎、絞扼性イレウス、ヘルニア陥頓に対しても全例腹腔鏡手術をおこなっております。例年と比較し、新型コロナウイルスの影響もあり、手術件数は減少しました。

スタッフは加藤久仁之、西成悠、高橋真人の3人体制で診療をおこないました。高橋先生には、4月から12月までの9か月間に、100例の執刀をおこなっていただきました。成長が著しく、目を見張るものがあります。西成先生は今年、消化器外科学会専門医試験に合格しました。手術も腹腔鏡下胃切除、腹腔鏡下結腸および直腸切除と、メインとなる症例の執刀をおこなっております。名実ともに当院の外科診療の



中心として活躍しております。肝胆膵症例は18例で新田先生、片桐先生にお越しいただきました。秋田県内では対応困難な症例も執刀していただき、いずれの患者様も元気に社会復帰されております。

遠方の関連病院ではありますが、症例は豊富であり、若い先生方の修練施設としては充実している施設と考えます。ハイリスクな症例に対しても積極的に手術をおこなうチャレンジ精神を崩さずに今後も精進いたします。同門の先生方の御指導、御鞭撻の程、今後ともよろしくお願い致します。

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

八戸赤十字病院



八戸赤十字病院外科の近況を報告いたします。

今年度は2年振りに大きくスタッフの異動がありました。昨年度までご活躍いただいた御供真吾先生と川島到真先生が異動されました。当初は若い2名の新スタッフを迎え、現状維持の5名で新たに新年度をスタートしましたが、1名が残念ながら体調不良のため序盤で退職となってしまい、玉澤佳之、藤澤健太郎、野田宏伸、川上亜紀子の4人で業務を行いました。また、これまでと同様に近隣の先生

方と大学医局からの応援をいただきながら業務を行っています。青森県南部町で開業されている川守田究先生、普代村診療所の荒谷宗充先生より手術応援を、大学医局からは小松英明先生、片桐弘勝先生、武田大樹先生、高橋智子先生に外来および手術応援をいただいております。大学医局および応援いただいている先生方に変感謝申し上げます。

今年度は当院に限ったことではないことは当然ですが、やはり新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響が非常に大きかったというのが一番の印象です。総手術件数は例年より減少しました。検診や病院受診を控える方が多かったというのが原因であったことが考えられます。その裏付けとして、症状がだいぶ進行してから受診する方が増加したことにより治癒切除不能高度進行癌が例年よりも多かった印象があります。そのため、手術件数は減少しても化学療法適応となる症例は例年通り～増加傾向にあったと考えます。

スタッフ減員により一人当たりの負担が増えましたが、川上は卒後4年目という学年にしては先輩達の期待以上の働きをしてくれています。当院で初めて経験する手術も多数ありますが、順応しながら確実に成長しています。

新型コロナウイルス感染症に対して当院では16床の病床を確保しており、院内で診療チームを結成し診療にあたっております。藤澤と野田が診療チームに所属し、感染者の

診療業務を行っています。

外来診療・手術・後輩の指導・研修医の指導等の日常業務のほかに、副院長業務・病院経営・医局長業務・研修指導担当・化学療法・緩和チーム・NST・クリニカルパス等の病院全体の業務も外科スタッフが代表として担当してお

り、以前より一般業務以外の職務が増加したため、より責任感や広い視野を持ち仕事をする必要があるということを日々実感しております。

本年も大学医局および同門の先生方のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Kazuno Kosei Hospital

かつの厚生病院

秋田県のかつの厚生病院です。岩手県では新型コロナウイルス感染の流行阻止に尽力されて、全国的にも罹患者数は少数で推移していますが、ここ秋田県も同様の状況です。お陰様で紹介患者さまに関しては、鹿角から岩手医科大学附属病院へは全く問題なく受け入れていただいております。昨年度の手術件数は244件（前年230件）で、全身麻酔件数は166件（前年179件）でした。コロナ禍で通常外来、全麻件数ともに減少を来しましたが、救急搬送症例は増加している状況です。

診療体制ですが、小川雅彰の他は、昨年度の人事異動として3年間在籍いただいた眞壁健二先生が大学に帰局し、安藤太郎先生、天野総（すぶる）先生に来ていただきました。若い二人ですがとても頼もしい存在です。得意分野は、安藤先生は鏡視下手術全般、天野先生は乳腺疾患で、互いに補いつつ仲良くやっております。安藤先生は昨年、コロナ禍にも関わらず日本消化器外科学会専門医を取得致しました。天野先生は毎週金曜日に大学での手術研修を継続しており、乳腺疾患治療を主導してくれています。

診療応援では、月曜日には昨年まで常勤であった菊地晃司先生、そして早野恵先生、屋成信吾先生、有吉佑先生方に当直、救急診療業務まで含めて来ていただいております。木曜日には多忙な医局長業務の間を縫って岩谷岳准教授に来ていただいております誠に感謝申し上げます。（岩谷先生、倒れないで下さい。）吉報ですが、当院では、この春には例年になく多くの新卒看護スタッフが採用となる見込みです。いままで、都市に流出していた地域の新卒者がこのコロナ禍で地元での就職を決めてくれたようです。昨年は例年行っていた外科キッズセミナーは中止としましたが、その代わりに鹿角市・小坂町の要請で「医療職を志す児童・生徒のためのシンポジウム」を小・中・高校生50人を集めて開催しました。地元出身の若手医師、医学部生、看護学生らに来てもらい、やりがいや苦労話なども披露してもら

いました。会の終わりには、看護学生などは参加者に囲まれて質問攻めにあっていましたが、将来、ここ鹿角から一人でも多くの医療職を志す人材が生まれたらと期待しております。

先日、カーラジオで新規開店したお好み焼き屋さんの食レポを実況していました。開業に至る修行はどこでなされたのですか？の問いに、オーナーはYouTubeで勉強したとの事。いまやYouTubeを活用すれば、飲食店も開業できる時代ようです。音楽、スポーツに限らず「〇△□教室」に生徒として通わなければ得られなかった情報も、今ではその道のエキスパートが、自らの持つknow-howをネットに動画発信して再生回数を競っています。ある意味know-howのデフレーションとも呼ぶべき状況ではありますが、医学においても同様の事が起こっています。地方に居ながらも、インターネットで様々なknowledgeやknow-howを得られる時代となり、その流れはこのコロナ禍で大きく加速した様に思います。以前は10年掛かって得た知識も今では短期間で得られる一そんな時代が来た様です。空いた時間を使って熱心にネットで勉強する若い先生たちを見て、自分も良い刺激を受けています。大学医局や巖刀会の諸先生には、これからのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。各病院との自由な往来が回復する様に、コロナ禍の少しでも早い収束を祈っております。



安藤先生のお誕生日

2020年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

J

あ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
JCHO仙台病院	村 上 栄 一	981-8501	宮城県	仙台市	青葉区堤町3丁目16-1
JCHO四日市羽津医療センター	住 田 安 弘	510-0016	三重県	四日市市	羽津山町10-8
青森市民病院	遠 藤 正 章	030-0821	青森県	青森市	勝田1-14-20
青森労災病院	玉 澤 直 樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地
赤坂病院	赤 坂 俊 幸	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町29-2
秋田県立循環器・脳脊髄センター	石 川 達 哉	010-0874	秋田県	秋田市	千秋久保田町6-10
秋田厚生医療センター	遠 藤 和 彦	011-0948	秋田県	秋田市	飯島西袋1-1-1
秋田赤十字病院	小 棚 木 均	010-1495	秋田県	秋田市	上北手猿田字苗代沢222-1
秋田大学医学部附属病院	南 谷 佳 弘	010-8543	秋田県	秋田市	広面字蓮沼44-2
秋田労災病院	奥 山 幸一郎	018-5604	秋田県	大館市	軽井沢字下岱30
秋浜内科クリニック	秋 濱 玄	028-4132	岩手県	盛岡市	玉山区洪民字駅103番地
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ整形外科医院	阿 部 克 久	020-0611	岩手県	滝沢市	菓子1156-22
あべ内科消化器科クリニック	阿 部 礼 司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
飯島医院	飯 島 信	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼狐洞1-277
池田外科・消化器内科医院	池 田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
いしかわ内科クリニック	石 川 浩	024-0055	岩手県	北上市	大堤南1-1-25
一関病院	佐 藤 隆 次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
岩手医科大学附属病院（矢巾）	小笠原 邦 昭	028-3695	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通2丁目1番1号
岩手県対がん協会いわて健康管理センター	狩 野 敦	020-0864	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18
岩手県予防医学協会（含付属診療所）	田 巻 健 治	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42
岩手県立胆沢病院	勝 又 宇一郎	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立磐井病院	佐 藤 耕一郎	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立江刺病院	川 村 秀 司	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23
岩手県立大船渡病院	淵 向 透	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立釜石病院	坂 下 伸 夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立軽米病院	横 島 孝 雄	028-6302	岩手県	九戸郡軽米町	軽米2-54-5
岩手県立久慈病院	川 村 英 伸	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番
岩手県立千厩病院	宗 像 秀 樹	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立中央病院	宮 田 剛	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立中部病院	伊 藤 達 朗	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立東和病院	松 浦 和 博	028-0115	岩手県	花巻市	東和町安俣6区75-1
岩手県立二戸病院	佐 藤 昌 之	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立宮古病院	吉 田 徹	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶇ヶ崎1-11-26

あ

か

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所			
内丸病院	大 浪 優 二	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7	
内丸メディカルセンター	下 沖 収	020-8505	岩手県	盛岡市	内丸19-1	
エールクリニック八幡平	菊 地 大 輝	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭37-103-1	
おおうち消化器内科クリニック	大 内 健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8	
大澤クリニック	大 澤 宏 之	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑2丁目8-3	
大曲厚生医療センター	三 浦 雅 人	014-0027	秋田県	大仙市	大曲通町8-65	
大屋内科胃腸科クリニック	大 屋 敬一郎	020-0132	岩手県	盛岡市	西青山1-16-43	
雄勝中央病院（厚生連）	天 満 和 男	012-0827	秋田県	湯沢市	山田字勇ヶ岡25	
開運橋消化器内科クリニック	遠 藤 昌 樹	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3丁目9-3	
かさい睡眠呼吸器クリニック	笠 井 良 彦	024-0011	岩手県	北上市	堤ヶ丘1-9-32	
かづの厚生病院	吉 田 雄 樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18	
加藤胃腸科内科医院	加 藤 博 已	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字中田207	
かなざわ内科クリニック	金 澤 格	020-0125	岩手県	盛岡市	上堂1-18-24	
金子胃腸科内科	金 子 博 純	020-0403	岩手県	盛岡市	乙部13-135-3	
上原小児科医院	上 原 充 郎	020-0536	岩手県	岩手郡雫石町	八卦1-16	
川久保病院	田 村 茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1	
がん研有明病院	佐 野 武	135-8550	東京都	江東区	有明3-10-6	
北上済生会病院	一 戸 貞 文	024-8506	岩手県	北上市	九年橋3-15-33	
岐阜赤十字病院	林 昌 俊	502-8511	岐阜県	岐阜市	岩倉町3-36	
草津総合病院	柏 木 厚 典	525-8585	滋賀県	草津市	矢橋町1600	
栗原クリニック	土 井 秀 之	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4	
くわた脳神経外科クリニック	桑 田 知 之	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡1丁目2-68	
群馬県立がんセンター	鹿 沼 達 哉	373-8550	群馬県	太田市	高林西町617-1	
気仙沼市立病院	横 田 憲 一	988-0052	宮城県	気仙沼市	字田中184	
孝仁病院	西 成 尚 人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28	
孝仁病院PET画像診断センター	西 成 尚 人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28	
公立野辺地病院	小 堀 宏 康	039-3141	青森県	上北郡野辺地町	鳴沢9-12	
国保葛巻病院	遠 藤 秀 彦	028-5402	岩手県	岩手郡葛巻町	葛巻16-1-1	
国保五戸総合病院	安 藤 敏 典	039-1517	青森県	三戸郡五戸町	字沢向17-3	
国保田山診療所	望 月 泉	028-7604	岩手県	八幡平市	丑山口18-8	
国立成育医療研究センター	賀 藤 均	157-8535	東京都	世田谷区	大蔵2-10-1	
国立病院機構岩手病院	千 田 圭 二	021-0056	岩手県	一関市	山目字泥田山下48	
国立病院機構相模原病院	金 田 悟 郎	252-0392	神奈川県	相模原市	南区桜台18-1	
国立病院機構仙台医療センター	上之原 広 司	983-8520	宮城県	仙台市	宮城野区宮城野2-8-8	

か

さ

た

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
国立病院機構盛岡医療センター	木 村 啓 二	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
こずかた診療所	藤 島 行 輝	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵エ新田5-67-1
後藤泌尿器科皮膚科医院	後 藤 康 文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
子どもは未来もりおかこどもクリニック	米 沢 俊 一	020-0102	岩手県	盛岡市	上田字松屋敷11番地14
済生会岩泉病院	柴 野 良 博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
済生会横浜市東部病院	三 角 隆 彦	230-8765	神奈川県	横浜市鶴見区	下末吉3-6-1
埼玉医科大学国際医療センター	佐 伯 俊 昭	350-1298	埼玉県	日高市	山根1397-1
笹川医院	笹 川 哲 哉	025-0075	岩手県	花巻市	花城町3-27
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
さとう消化器科内科クリニック	佐 藤 慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5
佐藤内科クリニック	佐 藤 公 也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-1-24 第3菱和ビル4F
佐藤雅夫クリニック	佐 藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
澤田内科医院	澤 田 哲 伸	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-6-11
三愛病院	山 内 文 俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15
信楽園病院	中 島 恭 二	950-2087	新潟県	新潟市	西区新通南3丁目3-11
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
自治医科大学附属病院	佐 田 尚 宏	329-0498	栃木県	河内郡南河内町	薬師寺3311-1
篠村医院	篠 村 達 雅	020-0524	岩手県	岩手郡雫石町	寺の下105-12
循環器内科 金矢クリニック	金 矢 宣 紀	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央3-7-7
順天堂大学医学部附属順天堂医院	高 橋 和 久	113-8431	東京都	文京区	本郷3丁目1番3号
小豆嶋胃腸科内科クリニック(盛岡市)	小豆嶋 正 和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20
市立田沢湖病院	佐々木 英 人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
しんたろうクリニック	菊 池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
すがさわ外科・内科クリニック	菅 澤 治 彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1
聖路加国際病院	福 井 次 矢	104-8560	東京都	中央区	明石町9-1
せき内科胃腸クリニック	関 英 政	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田第5地割1番地4
せんだい総合健診クリニック	石 垣 洋 子	980-0811	宮城県	仙台市	青葉区一番町1-9-1
総合花巻病院	後 藤 勝 也	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4番56号
総合水沢病院	菊 池 淳	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
滝沢中央病院	山 内 広 平	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼笹森42番地2
たぐち脳神経外科クリニック	田 口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19
たけ循環器内科クリニック	武 者 毅 彦	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡1-2-70
立川相互ふれあいクリニック	草 島 健 二	190-0022	東京都	立川市	錦町1-23-4
ちとせ医院	菊 池 ちとせ	024-0061	岩手県	北上市	大通り2-1-22

た

な

は

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
中央林間病院	木 山 智	242-0007	神奈川県	大和市	中央林間4-14-18
塚谷医院	塚 谷 栄 紀	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	江刈内10-45-1
東京通信病院	安 原 洋	102-0071	東京都	千代田区	富士見2-14-23
東邦大学医療センター大森病院	瓜 田 純 久	143-8541	東京都	大田区	大森西 6-11-1
東北医科薬科大学病院	近 藤 丘	983-8512	宮城県	仙台市	宮城野区福室1-12-1
東北公済病院	岡 村 州 博	980-0803	宮城県	仙台市	青葉区国分町二丁目3番11号
遠山病院	千 葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
栃内内科医院	栃 内 秀 貴	020-0084	岩手県	盛岡市	神明町10-35
栃内病院	白 石 秀 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡	富 澤 勇 貴	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-1-16 岩手教育会館1F
虎ノ門病院	門 脇 孝	105-8470	東京都	港区	虎の門2-2-2
ながぬま内科	堀 江 泰 介	011-0946	秋田県	秋田市	土崎港中央6丁目2-24
長野赤十字病院	和 田 秀 一	380-8582	長野県	長野市	若里五丁目22番1号
成田内科胃腸科医院	成 田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
日本大学医学部附属板橋病院	森 山 光 彦	173-8610	東京都	板橋区	大谷口上町30の1
日本大学病院	天 野 康 雄	101-8309	東京都	千代田区	神田駿河台1-6
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
野崎内科・神経内科医院	野 崎 有 一	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字大坊183-1
能代厚生医療センター	太田原 康 成	016-0014	秋田県	能代市	落合字上前田地内
はちのへ99クリニック	内 海 謙	031-0004	青森県	八戸市	南類家5丁目1-8
八戸市立市民病院	今 明 秀	031-8555	青森県	八戸市	田向3-1-1
八戸赤十字病院	紺 野 広	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
八幡平市立病院	瀧 山 郁 雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更25-328-1
花巻市石鳥谷医療センター	似 内 郊 雄	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2
東八幡平病院	及 川 忠 人	028-7303	岩手県	八幡平市	柏台2-8-2
平鹿総合病院（厚生連）	斎 藤 研	013-0036	秋田県	横手市	前郷字ハツ口3-1
平塚共済病院	稲 瀬 直 彦	254-8502	神奈川県	平塚市	追分9-11
平野医院	平 野 繁	020-0132	岩手県	盛岡市	西青山2-18-60
ひろさか内科クリニック	廣 坂 朗	963-8041	福島県	郡山市	富田町字中ノ目41
弘前大学医学部附属病院	大 山 力	036-8563	青森県	弘前市	本町53
ひろし外科肛門科	吉 田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号
福島労災病院	武 藤 淳	973-8403	福島県	いわき市	内郷綴町沼尻3
ふるだて加藤肛門外科クリニック	加 藤 典 博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1
プレスト齊藤外科クリニック	齊 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6

は

ま

や

わ

医療機関名	院長	郵便番号	住所		
宝陽病院	後 藤 振一郎	028-3111	岩手県	花巻市	石鳥谷町新堀15-23
星総合病院	野 水 整	963-8501	福島県	郡山市	大町2-1-16
堀江医院	堀 江 圭	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	西徳田6-143
本田胃腸内科外科	本 田 健 一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号
松園第二病院	石 川 洋 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
水沼内科循環器クリニック	水 沼 吉 美	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通2-11-12
三田記念病院	磯 野 寿 育	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1
水戸協同病院	渡 辺 重 行	310-0015	茨城県	水戸市	宮町3-2-7
見前ファミリークリニック	岩 見 大 二	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳12-20-1
三本柳かんのクリニック	菅 野 公 徳	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳23-10-5
宮城県立がんセンター	荒 井 陽 一	981-1293	宮城県	名取市	愛島塩手字野田山47-1
未来の風せいわ病院	田 嶋 宣 行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1
むつ総合病院	橋 爪 正	035-0071	青森県	むつ市	小川町1-2-8
メディカルコート八戸西病院	高 橋 通 宏	039-1103	青森県	八戸市	長苗代字中坪77
もりおか胃腸科内科クリニック	佐 藤 邦 彦	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1
盛岡赤十字病院	久 保 直 彦	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1
盛岡友愛病院	佐々木 達 哉	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10
八角医院	高 橋 克 郎	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2
八角病院	八 角 有 紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190
やはば産婦人科	新 沼 武 成	028-3602	岩手県	紫波郡矢巾町	藤沢第1地割104-1
山崎内科医院	山 崎 一 郎	022-0003	岩手県	大船渡市	盛町字内ノ目7-20
やまだ胃腸内科クリニック	山 田 宏 之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
やもとクリニック	松 本 吉 郎	649-4114	和歌山県	東牟婁郡串本町	上野山191番地
ゆとりが丘クリニック	高 橋 邦 尚	020-0638	岩手県	滝沢市	土沢541
横須賀市立うわまち病院	沼 田 裕 一	238-8567	神奈川県	横須賀市	上町2-36
吉川中央総合病院	水 田 哲 明	342-0056	埼玉県	吉川市	平沼111番地
吉田消化器科内科	吉 田 俊 巳	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16
芳野内科医院	芳 野 竜太郎	024-0094	岩手県	北上市	本通り1-3-22
和田内科医院	和 田 英 樹	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1-3-6 農林会館ビル3F
わたなべおしりのクリニック	渡 邊 正 敏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3
わたなべ内科・神経内科クリニック	渡 邊 活 見	020-0114	岩手県	盛岡市	高松三丁目9-8
渡辺内科医院	渡 邊 立 夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰下丸森122-3

獲得研究費

科学研究費助成事業

1. 2018-2020 基盤研究 (C)
「脳転移指向性乳癌細胞株および乳癌原発組織を用いた脳転移予測バイオマーカーの探索」
研究代表者：石田 和茂 研究分担者：小松 英明，岩谷 岳，佐々木 章
2. 2018-2020 基盤研究 (C)
「高度肥満者の内臓脂肪組織における調節機構破綻のメカニズムの解明」
研究代表者：石垣 泰 研究分担者：佐々木 章
3. 2019-2021 基盤研究 (C)
「Circulating tumor DNA 検査の臨床導入における課題点の克服」
研究代表者：遠藤 史隆 研究分担者：岩谷 岳，西塚 哲，秋山 有史
4. 2019-2021 基盤研究 (C)
「高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム」
研究代表者：馬場 誠朗 研究分担者：佐々木 章
5. 2020-2022 基盤研究 (C)
「ctDNA を用いた新規大腸癌サーベイランス法の開発」
研究代表者：大塚 幸喜 研究分担者：岩谷 岳，西塚 哲
6. 2020-2022 基盤研究 (C)
「消化器癌における症例特異的変異を用いた ctDNA モニタリングの臨床的意義の検討」
研究代表者：岩谷 岳
7. 2020-2022 基盤研究 (C)
「高度肥満症に伴う非アルコール性脂肪性肝炎の病態解明と外科治療後の改善機序」
研究代表者：佐々木 章 研究分担者：岩谷 岳，梅田 晃
8. 2019-2021 基盤研究 (C)
「Helicobacter pylori 免疫応答が胃癌術後補助化学療法に及ぼす影響」
研究代表者：肥田 圭介 研究分担者：西塚 哲
9. 2020-2021 独立基盤形成支援
「消化器癌における症例特異的変異を用いた ctDNA モニタリングの臨床的意義の検討」
研究代表者：岩谷 岳

その他

1. EA ファーマ奨学寄附金
「大腸癌組織の生物学的多様性解析を用いた ctDNA 検出方法の確立」
代表者氏名：八重樫 瑞典 共同研究者：大塚 幸喜，木村 聡元
2. 武田薬品
「肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する外科治療後の肝線維化改善機序と代謝ネットワーク解析」
研究代表者：佐々木 章
3. 大鵬薬品
「メタボローム解析を用いた高度肥満症の病態解明」
研究代表者：佐々木 章
4. 帝人ファーマ
「マルチオミックス解析によるメタボリックサージェリーの効果に関する研究」
研究代表者：佐々木 章
5. 中外製薬
「Circulating tumor DNA の初期変動による食道癌化学療法効果予測に関する検討」
研究代表者：岩谷 岳
6. アボットジャパン
「腹腔鏡下胃切除術後の早期経腸栄養剤経口投与の安全性の検討」
研究代表者：秋山 有史
7. 科研製薬
「Muse 細胞を用いた大量肝切除後補助療法へ向けた基礎構築」
研究代表者：片桐 弘勝
8. エーザイ
「転移再発乳癌の化学療法における高密度 ctDNA モニタリングによる逐次的評価」
研究代表者：小松 英明
9. 日本化薬
「脳転移指向性乳癌細胞株および乳癌原発組織を用いた脳転移予測バイオマーカーの探索」
研究代表者：石田 和茂

英文論文

1. Sato A, Fujita Y, Otsuka K, Sasaki A, Suzuki H, Matsumoto T, Sugai T. Differential expression of microRNAs in colorectal cancer: Different patterns between isolated cancer gland and stromal cells. *Pathology International* 2020 ; 70(1) : 21-30.
2. Takahara T, Wakabayashi G, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Sasaki A. Preoperative work-up for donor main consideration for laparoscopic surgery. *Laparosc Surg* 2020 ; 4(7).
3. Hasegawa H, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Sasaki A. Glissonian approach for pure laparoscopic donor hepatectomy. *Laparosc Surg* 2020 ; 4(11).
4. Hayashi H, Jang JY, Kim KS, Choi JS, Takahara T, Choi SH, Uemura S, Unno M. Comparison of pancreaticoduodenectomy and bile duct resection for middle bile duct cancer: A multi-center collaborating study of Japan and Korea. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2020 ; 27(6) : 289-298
5. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Ando T, Kobayashi M, Sasaki A. Identifying Cystic Vein Perfusion Area Employing Indocyanine Green Fluorescence Imaging during Laparoscopic Extended Cholecystectomy for Clinical T2 Gallbladder Cancer. *Case Rep Gastroenterol* 2020 ; 14(1) : 110-115.
6. Ito M, Yamamoto S, Okuda J, Fujii S, Yamaguchi S, Otsuka K, Yoshimura K, Watanabe M. Long-term survival outcomes following laparoscopic surgery for clinical stage 0/1 rectal carcinoma. *Ann Gastroenterol Surg* 2020 ; 4(3) : 294-300.
7. Yaegashi M, Tono C, Minagawa Y, Ishioka H, Nakamura Y, Yoshida T. Effective Treatment for Incarcerated Obturator Hernia With Bowel Dilatation by Combined Laparoscopy and Preperitoneal Approach. *International surgery* 2020 ; 104(3-4) : 155-158.
8. Umemura A, Sasaki A, Nitta H, Nikai H, Baba S, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Ishigaki Y. Prognostic factors and a new preliminary scoring system for remission of type 2 diabetes mellitus after laparoscopic sleeve gastrectomy. *Surg Today* 2020 ; 50(9) : 1056-1064.
9. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Sasaki A. Time to take another look at perceived disadvantages of robotic hepatectomy. *Hepatobiliary Surg Nutr* 2020 ; 9(2) : 208-210.
10. Hasegawa H, akahashi A, Kakeji Y, Ueno H, Eguchi S, Endo I, Sasaki A, Takiguchi S, Takeuchi H, Hashimoto M, Horiguchi A, Masaki T, Marubashi S, Yoshida K, Konno H, Gotoh M, Miyata H, Seto Y. Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2017. *Ann Gastroenterol Surg* 2020 ; 3(4) : 426-450.
11. Umemura A, Akiyama Y, Iwaya T, Koeda K, Sugimoto R, Sugai T, Endo F, Baba S, Nikai H, Nitta H, Takahara T, Otsuka K, Kimura T, Saito H, Deguchi H, Tomoyasu M, Sasaki A. Super-late pulmonary recurrence after radical esophagectomy for esophageal squamous cell carcinoma. *Int J Surg Case Rep* 2020 ; 6(72) : 166-171.
12. Ohta M, Kasama K, Sasaki A, JCOMS. Current status of laparoscopic bariatric/metabolic surgery in Japan: The sixth nationwide survey by the Japan Consortium of Obesity and Metabolic Surgery. *Asian J Endosc Surg* 2020 ; doi: 10.1111/ases.12836. Online ahead of print.
13. Akiyama Y, Sasaki A, Fujii Y, Fujisawa R, Sasaki N, Nikai H, Endo F, Baba S, Hasegawa Y, Kimura T, Takahara T, Nitta H, Otsuka K, Koeda K, Nishimura Y, Iwaya T. Efficacy of enhanced prehabilitation for patients with esophageal cancer undergoing esophagectomy. *Esophagus* 2021 ; 18(1) : 56-64.
14. Akiyama Y, Sasaki A, Iwaya T, Fujisawa R, Sasaki N, Nikai H, Endo F, Baba S, Hasegawa Y, Kimura T, Takahara T, Nitta H, Otsuka K, Koeda K. Feasibility of totally laparoscopic pylorus-preserving gastrectomy with intracorporeal gastro-gastrostomy for early gastric cancer: a retrospective cohort study. *World J Surg Oncol* 2020 ; 18(1) : 170.
15. Sasaki N, Iwaya T, Akiyama Y, Baba S, Endo F, Nikai H, Fujisawa R, Kimura T, Takahara T, Otsuka K, Nitta H, Kimura Y, Koeda K, Sugimoto R, Uesugi N, Sugai T, Sasaki A. Esophageal carcinosarcoma in which the sarcomatous element has sloughed off: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2020 ; 74 : 27-31.
16. Ishida K, Ohnuki K, Usami S, Komatsu H, Sasaki A. A survey on the current status of clinical resources for diagnosis and treatment of breast cancer in rural hospitals of the Tohoku region in Japan. *Breast Cancer* 2020.
17. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Sasaki A. Anterior approach for pure laparoscopic donor right hepatectomy. *Surg Endosc* 2020 ; 34(10) : 4677-4678.
18. Fujiwara H, Suto T, Umemura A, Tanahashi Y, Amano S, Ikeda K, Harada K, Sasaki A. Share Needlescopic surgery for large umbilical hernia in a patient with morbid obesity using intraperitoneal onlay mesh with fascial defect closure: a case report. *Surg Case Rep* 2020 ; 6(1) : 246.
19. Ariyoshi Y, Suto T, Umemura A, Fujiwara H, Yanari S, Uesugi N, Sugai T, Sasaki A. Two-stage laparoscopic surgery for incarcerated umbilical Littre's hernia in severely obese patient: a case report. *Surg Case Rep* 2020 ; 6(1) : 245.
20. Sasaki N, Iwaya T, Chiba T, Fujita M, Zhenlin Ju, Endo F, Yaegashi M, Hachiya T, Sugimoto R, Sugai T, Doris R Siwak, Lance A Liotta, Yiling Lu, Gordon B Mills, Nakagawa H, Nishizuka S. Analysis of mutational and proteomic heterogeneity of gastric cancer suggests an effective pipeline to monitor post-treatment tumor burden using circulating tumor DNA. *PLoS One* 2020 ; 15(10) : e0239966.

21. Fujiwara H, Suto T, Umemura A, Tanahashi Y, Amano S, Ikeda K, Harada K, Sasaki A. Rare presentation of De Garengeot hernia treated by transabdominal preperitoneal hernia repair: A case report. *Asian J Endosc Surg* 2020 ; doi: 10.1111/ases.12891. Online ahead of print.
22. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Akiyama Y, Iwaya T, Otsuka K, Sasaki A. Surgical outcomes of 118 complex laparoscopic liver resections: a single-center experience. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2020 ; 27(12) : 942-949.
23. Nikai H, Umemura A, Baba S, Nitta H, Sugai T, Sasaki A. Effects of Laparoscopic Sleeve Gastrectomy on Non-Alcoholic Steatohepatitis and Liver Fibrosis in Japanese Patients with Severe Obesity. *Obesity Surgery* 2020 ; 30(7) : 2579-2587.
24. Yanari S, Suto T, Fujiwara H, Ariyoshi Y, Umemura A, Sasak A. Intraperitoneal onlay mesh repair (IPOM) plus technique using a hybrid procedure of open laparotomy and laparoscopic approach (hybrid IPOM plus) for incarceration of umbilical hernia in a severely obese patient: a case report. *Surg Case Rep* 2020 ; 6(1) : 83.
25. Endo F, Akiyama Y, Onishi M, Fujisawa R, Sasaki N, Nikai H, Baba S, Sugimoto R, Kimura T, Takahara T, Iwaya T, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Sugai T, Sasaki A. Primary esophageal malignant melanoma successfully treated with anti-PD-1 antibody for retroperitoneal recurrence after esophagectomy: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2020 ; 75 : 152-156.
26. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Katagiri H, Kanno S, Kobayashi M, Ando T, Kimura T, Sasaki A. Portal bifurcation reconstruction using own hepatic vein grafts due to portal vein anomaly of the living donor for the patient with portal vein thrombosis. *Ann Hepatobiliary Pancreat Surg* 2020 ; 24(4) : 533-538.
27. Eizuka M, Osakabe M, Sato A, Fujita Y, Tanaka Y, Otsuka K, Sasaki A, Matsumoto T, Suzuki H, Sugai T. Dysregulation of microRNA expression during the progression of colorectal tumors. *Pathol Int* 2020 ; 70(9) : 633-643.
28. Sugai T, Osakabe M, Sugimoto R, Eizuka M, Tanaka Y, Yanagawa N, Otsuka K, Sasaki A, Matsumoto T, Suzuki H. A genome-wide study of the relationship between chromosomal abnormalities and gene expression in colorectal tumors. *Genes Chromosomes Cancer* 2020 ; 60(4) : 250-262.
29. Kakeji Y, Takahashi A, Hasegawa H, Ueno H, Eguchi S, Endo I, Sasaki A, Takiguchi S, Takeuchi H, Hashimoto M, Horiguchi A, Masaki T, Marubashi S, Yoshida K, Gotoh M, Konno H, Yamamoto H, Miyata H, Seto Y, Kitagawa Y; National Clinical Database. Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of the National Clinical Database 2011-2018. *Ann Gastroenterol Surg* 2020 ; 4(3) : 250-274.

和文論文

1. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸癌手術における超音波凝固切開装置使用の習熟度に関する検討. *臨床外科* 2020 ; 75(1) : 107-111.
2. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 石垣 泰, 滝川 康裕. メタボリックサージェリー (代謝改善手術). *内科* 2020 ; 125(5) : 1227-1231.
3. 須藤 隆之, 藤原 久貴, 梅邑 晃, 天野 怜, 佐々木 章. 腹腔鏡下胆嚢摘出術における 3 孔式と 4 孔式の短期治療成績の前向き比較研究. *日本外科学系連合学会誌* 2020 ; 45(4) : 301-306.
4. 佐々木 章. 肥満症・非アルコール性脂肪性肝疾患に対する外科治療の効果. 2020 年度日本肝臓学会 後期教育講演会テキスト 2020 ; 87-96.
5. 佐々木 章, 新田 浩幸. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の現状と展望. *糖尿病プラクティス* 2020 ; 37(6) : 669-675.
6. 佐々木 章. 減量・代謝改善手術の実践 一手法, 適応と効果一. *BIO Clinica* 2020 ; 35(13) : 6-11.
7. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 浜野 孝, 佐々木 章. 横行結腸癌に対する腹腔鏡手術の最適アプローチ 内側アプローチの立場から. *手術 臨時増刊号* 2020 ; 74(4) : 522-527.
8. 木村 聡元, 大塚 幸喜. 【術前・術後管理必携 2020】術式別術前・術後管理 小腸・大腸 結腸切除術. *消化器外科* 2020 ; 43(5) : 634-637.
9. 二階 春香, 秋山 有史, 藤澤 良介, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 肥田 圭介, 佐々木 章. 道胃接合部癌術後再発に対し Ramucirumab + nab-Paclitaxel 療法施行中に胸部大動脈解離を発症した一例. *癌と化学療法* 2020 ; 27(6) : 981-983.
10. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 中村 侑哉, 平田 勇一郎, 佐々木 章. II 腹腔鏡手術 エネルギーデバイスの使用方法 - 超音波凝固切開装置による消化器癌手術 -. *消化器外科* 2020 ; 43(11) : 1580-1588.
11. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 眞壁 健二, 安藤 太郎, 佐々木 章. 【肝癌治療の最前線】肝癌に対する低侵襲手術 (解説 / 特集). *臨床外科* 2020 ; 82(12) : 1248-1252.
12. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 安藤 太郎, 佐々木 章. 【消化器外科手術 助手の極意 - 開腹からロボット手術まで】肝胆膵領域 腹腔鏡下肝切除術における助手の極意 (解説 / 特集). *臨床外科* 2020 ; 75(12) : 1337-1341.
13. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 八重樫 瑞典, 畑中 智貴, 中村 侑哉, 佐々木 章. 【一般・消化器外科医のためのできる! 漢方】周術期を漢方でサポートする下部消化管手術. *臨床外科* 2020 ; 75(3) : 299-304.

著 書

1. 佐々木 章. 腹壁ヘルニア・骨盤底ヘルニア・内ヘルニア. 消化器外科 専門医の心得 2020 ; 1(1) : 877-882.
2. 長谷川 康, 新田 浩幸, 佐々木 章. 止血法・癒着予防法 07 縫合止血 (肝臓). 内視鏡外科手術 役立つテクニック 100 2020 ; 15-16.
3. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 佐々木 章. カメラポートの固定法 02 臍での固定法 その②. 内視鏡外科手術 役立つテクニック 100 2020 ; 190-191.
4. 高原 武志, 新田 浩幸, 佐々木 章. 患者固定法 05 肝右葉切除. 内視鏡外科手術 役立つテクニック 100 2020 ; 99-100.
5. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 止血法・癒着予防法 04 器機を用いた止血法②. 超音波凝固切開装置. 内視鏡外科手術 役立つテクニック 100 2020 ; 9-10.
6. 片桐 弘勝. 止血法・癒着予防法 01 出血予防① Pringle 法. 内視鏡外科手術 役立つテクニック 100 2020 ; 1-4.
7. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 佐々木 泰史, 西塚 哲. 食道癌遺伝子変異解析と Circulating tumor DNA 解析. 分子細胞治療フロンティア 2020 編集: 外科分子細胞治療研究会 2020 ; 142-148.
8. 佐々木 章. 安全なメタボリックサージェリーの普及を目指した取り組み. メタボリックサージェリー Clinical Update 2020 ; 163-166.

国際学会発表

The 30th Biennial Congress of ISUCRS 2020, Kanagawa, 2020/11/11 ~ 11/14

1. Yaegashi M, Otsuka K, Kimura T, Matsuo T, Takashimizu K, Hirata Y, Nakamura Y, Sasaki A. Early renal dysfunction after temporary ileostomy. Symposium
 2. Kimura T, Otsuka K, Matsuo T, Takashimizu K, Hirata Y, Yaegashi M, Sasaki A. Therapeutic effects of oxaliplatin-based neoadjuvant chemotherapy in patients with locally advanced rectal cancer. Poster
- * Otsuka K. Oral 07 Malignant Disease 1. Chairs

国内学会発表

第 37 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 静岡, 2020/02/07 ~ 02/08

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 八重樫 瑞典, 千葉 励子, 高橋 咲子, 佐藤 雅恵, 小笠原 久美子. 人工肛門造設予定患者に対する腹腔鏡手術の実践. シンポジウム

第 12 回日本ロボット外科学会学術集会, 東京, 2020/2/22

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 八重樫 瑞典, 畑中 智貴, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科における直腸癌に対するロボット支援下手術の導入期の短期成績. 一般口演

第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020/02/27 ~ 02/28

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 長谷川 康, 木村 聡元, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当院における食道癌に対する ERAS に基づく周術期管理の現状と課題. 一般口演
2. 瀬川 詩織, 朝賀 純一, 庄司 健人, 俵 万里子, 佐藤 早苗, 秋山 有史, 高原 武志, 佐々木 章, 遠藤 龍人, 工藤 賢三. 肝・腎同時移植を実施し、NST が中長期的に介入した一例. 一般演題

第 92 回日本胃癌学会総会, 横浜, 2020/03/04 ~ 03/06

1. 秋山 有史, 肥田 圭介, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 岩谷 岳, 佐々木 章. 腹腔鏡下胃全摘における Overlap 法再建の手技と治療成績. 一般示説

第 36 回日本医工学治療学会 学術大会, 盛岡, 2020/04/03 ~ 04/05

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 中村 侑哉, 八重樫 瑞典, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科における直腸癌に対するロボット支援下手術の短期成績. シンポジウム

第 120 回日本外科学会定期学術集会, Web 開催, 2020/08/13 ~ 08/15

1. 石田 和茂, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 小松 英明, 長谷川 康, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 当科における Palbocibrib の使用状況. 一般口演
2. 井上 俊樹, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. 脾内副脾に生じた上皮性嚢胞の 2 例. 研修医・医学生の発表セッション

3. 遠藤 史隆, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 藤澤 良介, 伊藤 浩平, 佐々木 教之, 岩谷 岳, 長谷川 康, 木村 聡元, 高原 武志, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 友安 信, 出口 博之, 齊藤 元, 佐々木 章. 食道癌治療後の肺転移に対して外科的切除術を施行した症例の治療成績. 一般口演
4. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 藤澤 良介, 二階 春香, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 佐々木 章, 西塚 哲. がんゲノム情報を用いた食道癌治療の最適化. サージカルフォーラム
5. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 多発肝腎嚢胞症例に対して, 大量小腸切除と生体肝移植で救命できた 1 例. 一般口演
6. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 当院での生体肝移植における短期成績に与える因子解析. デジタルポスター
7. 高原 武志. シンポジウム (16) 肝門部領域胆管癌切除限界の再考. ディスカッション
8. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 八重樫 瑞典, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 肥満大腸癌患者に対する術前減量プログラムの検討. サージカルフォーラム
9. 佐々木 教之, 岩谷 岳, 秋山 有史, 千葉丈広, 遠藤 史隆, 八重樫 瑞典, 佐々木 章, 西塚 哲. 胃癌ゲノム医療に向けた原発巣 heterogeneity および Circulating tumor DNA 解析. 一般口演
10. 佐藤 哲弥, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. 肝外胆管を原発とする G1/G2 神経内分泌腫瘍の 2 症例. 一般口演
11. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 木村 聡元, 長谷川 康, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 進行食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術の治療成績. 一般示説
12. 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 天野 総, 橋元 麻生, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. トリプルネガティブ乳癌に対する術前薬物療法の治療効果に関する検討. 一般口演
13. 松尾 鉄平, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 藤井 仁志, 高清水 清治, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科における局所進行直腸癌に対する術前治療の後ろ向き研究. サージカルフォーラム
14. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 真壁 健二, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下肝葉切除の段階的進化. シンポジウム
15. 菅野 将史, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. 高齢者における膵癌の集学的治療の適応と限界. 一般口演
16. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 八重樫 瑞典, 畑中 智貴, 中村 侑哉, 高橋 智子, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当教室の腹腔鏡下大腸癌手術教育の現状—技術認定医取得を目的とした教育システム—. Selected Surgical Forum
17. 大塚 幸喜. ランチョンセミナー (16) 大腸癌手術 “major complication” を防止せよ!. ランチョンセミナー
18. 中野 大輔, 西澤 祐史, 塚田 祐一郎, 佐々木 剛志, 錦織 英知, 塚本 俊輔, 金光 幸秀, 大塚 幸喜, 中村 隆俊, 塩見 明生, 山口 達郎, 伊藤 雅昭. 直腸癌術後縫合不全予防における経肛門ドレーン (WING DRAIN) の安全性・有用性に関する第 II 相試験. シンポジウム
19. 藤井 仁志, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 高清水 清治, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸全摘術の定型化手技. デジタルポスター
20. 二階 春香, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 木村 聡元, 秋山 有史, 高原 武志, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 石田 和之, 菅井 有, 佐々木 章. 高度肥満症患者における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の非アルコール性脂肪性肝疾患に対する効果. サージカルフォーラム
21. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 馬場 誠朗, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 安藤 太郎, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜. 乳房アプローチによる内視鏡下甲状腺切除術の適応とピットフォール. パネルディスカッション
22. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 中村 侑哉, 屋成 真吾, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 抗体関連拒絶を背景とした胆道合併症に対するエベロリムスによる治療成績. サージカルフォーラム
23. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 八重樫 瑞典, 畑中 智貴, 中村 侑哉, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下結腸癌手術における術前処置法の比較検討. デジタルポスター
24. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐弘勝, 菅野将史, 梅邑晃, 安藤太郎, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. Laparoscopic liver resection more than segmentectomy: A comparative study between pure laparoscopy and laparoscopy-assisted procedure. パネルディスカッション
25. 吉田 瑛司, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 武田 大樹, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 高金 明典. DIC 治療薬の効果に及ぼす血中アンチトロンビン活性値の影響. デジタルポスター
26. 武田 大樹, 船渡 治, 吉田 瑛司, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 小林 慎, 高金 明典. 高齢患者に対する腹腔鏡下肝切除は安全か?. デジタルポスター
27. 二階 春香, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 木村 聡元, 秋山 有史, 高原 武志, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 石田 和之, 佐々木 章. 日本人高度肥満症患者における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の非アルコール性脂肪性肝疾患に対する効果. サージカルフォーラム
28. 奥津 美里, 八重樫 瑞典, 小泉 優香, 畑中 智貴, 伊藤 千絵, 皆川 幸洋, 遠野 千尋, 吉田 徹. 在宅死を叶えるために 我々ができること. 一般口演
29. 八重樫 瑞典, 小泉 優香, 畑中 智貴, 皆川 幸洋, 遠野 千尋, 吉田 徹. 在宅看取りに関する病院及び地域の新しい取り組み. 一般口演
30. 小林 慎, 吉田 瑛司, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 武田 大樹, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 高金 明典. DIC 治療薬の効果に及ぼす血中アンチトロンビン活性値の影響. デジタルポスター

- * 佐々木 章 . サージカルフォーラム 34 食道 集学的治療 . 座長
- * 新田 浩幸 . サージカルフォーラム (85) 肝臓 鏡視下手術 . 司会

第 56 回日本肝臓学会総会, Web 開催, 2020/08/28 ~ 08/29

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章 . 当科での急性肝不全に対する肝移植 . ワークショップ

第 57 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2020/09/19 ~ 09/21

1. 早野 恵, 小林 めぐみ, 平井 みさ子, 矢内 俊裕 . ファロー四徴症および肺動脈閉鎖を合併した極低出生体重児の食道閉鎖症の治療経験 . ポスター
 2. 小林 めぐみ, 平井みさ子, 早野 恵, 矢内 俊裕, 佐々木 章 . 地方の大学病院における小児外科医不足の問題 . ポスター
- * 小林 めぐみ . 専門医不在地域の小児外科 . 座長

第 20 回日本抗加齢医学会総会, Web 開催, 2020/09/25 ~ 10/10

1. 佐々木 章, 梅邑 晃, 新田 浩幸 . 肥満症外科治療普及の問題点 - 外科医の立場から -. シンポジウム

第 56 回日本腹部救急医学会総会, 名古屋, 2020/10/08 ~ 11/02

1. 安藤太郎, 長谷川 康, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 高原 武志, 新田 浩幸, 佐々木 章 . 臍頭十二指腸切除後 17 年経過後の挙上空腸に生じた NOMI (非閉性腸管虚血) に対して外科的加療にて救命を得た 1 例 . 一般口演

第 28 回日本乳癌学会総会, Web 開催, 2020/10/09 ~ 10/31

1. 橋元 麻生, 橋元 麻生, 小松 英明, 上杉 憲幸, 菅井 有, 佐々木 章 . 乳腺紡錘細胞癌の上皮間葉分化転換における病理学的検討 . ポスター
2. 小松 英明, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 川岸 涼子, 佐々木 章 . 当院における HBOC 診療体制の構築 Construction of HBOC medical treatment system in this hospital. 一般口演
3. 松井 雄介, 川村 英伸, 石橋 正久, 瀬川 武紀, 橋元 麻生, 石田 和茂, 小松 英明, 佐々木 章 . 当院における 80 歳以上の高齢者乳癌の検討 . 一般口演
4. 石田 和茂, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 小松 英明, 佐々木 章 . 当科における乳癌術前 CT スクリーニングの検討 . ポスター
5. 川岸 涼子, 早川 善郎, 米澤 仁志, 高金 明典 . 全脳照射と ventriculoperitoneal (VP) シャントが有効であった髄膜癌腫症の 1 例 . 一般口演
6. 米澤 仁志, 川岸 涼子, 高金 明典, 早川 善郎 . Nivolumab 単独療法が著効した転移性腎癌合併トリプルネガティブ乳癌の 1 例 A case of triple-negative breast cancer with metastatic renal cell carcinoma treated with nivolumab. 一般口演

第 42 回日本臨床栄養学会総会・第 41 回日本臨床栄養協会総会 第 18 回大連合大会, Web 開催, 2020/10/19 ~ 11/02

1. 佐々木 章 . 肥満 2 型糖尿病に対する減量・代謝改善手術の進歩とそれを支える栄養療法 . シンポジウム

第 58 回日本癌治療学会学術集会, 京都 (ハイブリッド形式), 2020/10/22 ~ 10/24

1. 小松 英明, 石田 和茂, 松井 雄介, 天野 総, 橋元 麻生, 佐々木 章 . 転移・再発を来した悪性葉状腫瘍に対し、Eribulin が奏効した 1 例 . 一般口演
 2. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 中村 侑哉, 平田 勇一郎, 有吉 佑, 高橋 智子, 佐々木 章 . 自律神経をランドマークとした局所進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術 . シンポジウム
- * 新田 浩幸 . 一般口演 87 脾・胆 . 座長

第 82 回日本臨床外科学会総会, Web 開催, 2020/10/29 ~ 10/31

1. 口田 脩太, 佐藤 慧, 大塚 観喜, 吉田 瑛司, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典 . 保存的治療し得た α -グルコシダーゼ阻害薬による腸管囊腫様気腫症の 1 例 . 一般口演
 2. 佐藤 慧, 大塚 観喜, 口田 脩太, 吉田 瑛司, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典 . 閉塞性大腸癌に対する大腸ステント治療後の腹腔鏡下手術の有用性 . 要望演題
 3. 瀬川 武紀, 御供 真吾, 石橋 正久, 松井 雄介 . 当院における急性胆嚢炎手術の安全性に関する検討 . 一般口演
 4. 大塚 観喜, 吉田 瑛司, 口田 脩太, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典 . 腹腔鏡を併用し切除しえた子宮内膜症を併存した Nuck 管水腫の 2 例 . 一般口演
 5. 梅邑 晃, 二階 春香, 木村 聡元, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章 . 安全な腹腔鏡下スリーブ状胃切除術実施を目指した術前栄養管理と手技の工夫 . ビデオシンポジウム
 6. 吉田 瑛司, 大塚 観喜, 口田 脩太, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典 . 手術時間を意識した腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP), 手技の導入から始める定型化と工夫 . 一般口演
- * 佐々木 章 . ビデオシンポジウム 肥満減量手術 - コツとピットフォール -. 座長
 - * 秋山 有史 . 一般演題 (口演) 胃: 悪性 12. 座長
 - * 新田 浩幸 . ビデオシンポジウム 01 高難度腹腔鏡下肝切除の定型化と工夫 . 司会
 - * 大塚 幸喜 . パネルディスカッション 13 Henle trunk 郭清を必要とする進行大腸癌への治療戦略 . 司会
 - * 大塚 幸喜 . 学術セミナー 7 若手医師へのメッセージ 手術手技の鍛錬とその先の術後補助化学療法 . 座長
 - * 肥田 圭介 . 要望演題 (口演) 食道 / 胃疾患 . 座長
 - * 秋山 有史 . 一般演題 (口演) 胃: 悪性 12. 座長

第 56 回日本移植学会オンライン総会, Web 開催, 2020/11/01 ~ 11/30

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 菅野 将史, 小林 めぐみ, 武田 大樹, 眞壁 健二, 佐々木 章. 肥満の生体肝移植における短期成績に与える影響. 一般口演
 2. 高原 武志. 岩手医科大学での肝移植～レシピエント手術と周術期管理～. スポンサーディンポジウム
 3. 新田 浩幸. 我々のドナー肝切除における段階的進化. スポンサーディンポジウム
 4. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 眞壁 健二, 木村 拓, 佐々木 章. 生体肝移植における術後胆道狭窄症予防への取り組み. 臓器横断セッション
- * 高原 武志. 臓器横断セッション 5 移植手術・周術期の新たな技術・管理. 座長

第 28 回日本消化器関連学会週間 (JDDW), 神戸 (ハイブリッド形式), 2020/11/05 ~ 11/08

1. 吉田 瑛司, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 武田 大樹, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 船渡 治, 小林 慎, 高金 明典, 計良 淑子. IP(CPT-11+CDDP) 療法が奏功した S 状結腸 mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasms (MiNENs) の 1 例. Poster Presentation
- * 佐々木 章. デジタルポスターセッション 2 食道: 内視鏡下手術 (良性). 座長
- * 大塚 幸喜. デジタルポスターセッション 64 大腸: 術後合併症. 座長

第 75 回日本大腸肛門病学会学術集会, WEB 開催, 2020/11/13 ~ 11/14

- * 大塚 幸喜. 一般口演 6 手術手技 1. 座長

第 43 回日本肝臓学会東部会, Web 開催, 2020/12/03 ~ 12/05

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 菅野 将史, 小林 めぐみ, 武田 大樹, 眞壁 健二, 佐々木 章. 肥満レシピエントの生体肝移植・脳死肝移植における短期成績に与える影響. パネルディスカッション
- * 高原 武志. 一般演題 13 手術・手技. 座長

2020 年度日本肝臓学会 後期教育講演会, オンライン開催, 2020/12/4

1. 佐々木 章. 肥満症・非アルコール性脂肪性肝疾患に対する外科治療の効果. 特別講演

第 74 回日本食道学会学術集会, 徳島, 2020/12/10 ~ 12/11

1. 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 二階 春香, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 佐々木 章. 原発巣変異および ctDNA 治療後早期変動による食道癌化学療法効果予測. 一般口演
2. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤澤 良介, 佐々木 教之, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当院での食道癌に対する多職種チーム介入による周術期管理の取り組み. 一般示説
3. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 二階 春香, 杉本 亮, 岩谷 岳, 上杉憲幸, 菅井 有, 肥田 圭介, 佐々木 章. 神経内分泌細胞癌と扁平上皮癌が合併した多発食道癌の 1 例. 一般示説
4. 小林 慎. 手術時間と出血量と生命予後. ポスター

第 75 回日本消化器外科学会総会, Web 開催, 2020/12/15 ~ 12/17

1. 屋成 信吾, 二階 春香, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 安藤 太郎, 佐々木 章. 当院における腹腔鏡下スリープ状胃切除術の治療成績. 一般演題
2. 高橋 真人, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 二階 春香, 馬場 誠朗, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 長谷川 康, 高原 武志, 佐々木 章. 日本人病的肥満症患者に対する腹腔鏡下スリープ状胃切除術後体重増加の予測因子. 一般演題
3. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. マージナルドナーでの脳死肝移植とその成績. 一般口演
4. 高清水 清治, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 木村 聡元, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 大腸癌患者に対する腹腔鏡下大腸切除術において脂肪分布が周術期成績に及ぼす影響の検討. 一般演題
5. 秋山 有史, 岩谷 岳, 藤井祐輔, 藤澤 良介, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場誠郎, 肥田 圭介, 西村行秀, 佐々木 章. 食道切除術における術前強化リハビリテーションの安全性と有用性. 要望演題
6. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 前方アプローチによる腹腔鏡下ドナー右肝切除術. 一般演題
7. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐弘勝, 菅野将史, 梅邑晃, 安藤太郎, 秋山 有史, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 一ハイボリュームセンターにおける腹腔鏡下肝切除術の流儀. 一般口演
8. 二階 春香, 秋山 有史, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 佐々木 章. 長期生存を得ている切除不能進行・再発胃神経内分泌細胞癌の 3 症例. 一般演題
9. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸, 二階 春香, 高橋 真人, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 大塚 幸喜. 現在の腹腔鏡下スリープ状胃切除とガイドライン発刊後の肥満代謝外科の展望. ワークショップ
10. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 木村 拓, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 胆道再建後肝切除症例における切離面合併症リスク因子の検討. 一般演題
11. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 高清水 清治, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科における直腸癌に対するロボット支援下手術の導入期の短期成績. 一般演題
12. 高橋 智子, 木村 聡元, 大塚 幸喜. 膝原発滑膜肉腫横行結腸転移に対して腹腔鏡手術を施行した 1 例. 専攻医セッション

13. 小林 慎, 吉田 瑛司, 河野 剛, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 武田 大樹, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 舩渡 治, 高金 明典. 食道癌根治術の手術時間に関する検討. 一般演題
14. 木村 拓, 片桐 弘勝, 眞壁 健二, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 木村 聡元, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. A case of liver transplantation for Paracetamol-Induced Acute Liver Failure. Poster Presentation
15. 中村 侑哉, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 高橋 真人, 二階 春香, 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 佐々木 章. 手術により乳癌の胃転移を診断した一例. 一般口演
- * 佐々木 章. ワークショップ 17 【総論】肥満外科の妥当性の検証と展望. 司会
- * 新田 浩幸. 一般演題 234 肝: 腹腔鏡手術 1. 座長
- * 大塚 幸喜. 一般演題 192 大腸: ロボット手術 5. 座長

第 45 回日本外科系連合学会学術集会, Web 開催, 2020/12/22 ~ 12/24

1. 藤澤 良介, 岩谷 岳, 佐々木 教之, 二階 春香, 遠藤 史隆, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 杉本 亮, 上杉 憲幸, 菅井 有, 佐々木 章. 食道多発扁平上皮癌に合併した原発性食道 Adenoid cystic carcinoma の 1 例. 一般口演
2. 高橋 智子, 藤井 仁志, 高清水 清治, 松尾 鉄平, 木村 聡元, 大塚 幸喜, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 新田 浩幸, 佐々木 章. 間質性肺炎合併潰瘍性大腸炎に対し硬膜外併用脊椎麻酔で大腸全摘術を執行した 1 例. 一般口演
3. 遠藤 史隆, 秋山 有史, 馬場 誠朗, 二階 春香, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 進行胃癌の腫瘍出血に対する緩和的照射療法の有用性の検討. 要望演題
4. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 二階 春香, 馬場 誠朗, 高橋 真人, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の定型化と臨床成績. ビデオセッション
- * 佐々木 章. 教育講演 3 3D 画像 XR 技術に支えられた手術支援の革命. 座長
- * 大塚 幸喜. 教育ビデオセミナー 11 内視鏡外科の安全な手技「直腸 (AR/S 状結腸切除術)」。座長

第 38 回日本肝移植学会, 愛媛 (紙面開催), 2020/12/25 ~ 12/26

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 佐々木 章. 生体肝移植ドナー手術における術後胆道合併症に「やせ」が及ぼす影響. 一般口演
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 木村 聡元, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 佐々木 章. 生体肝移植におけるレシピエントの肝静脈再建 ~ グraft採取時の肝静脈切離方法別での比較 ~. ワークショップ
- * 高原 武志. 一般演題 7. 座長

講演会・研究会・セミナー

ちば消化器外科 KANPO セミナー, 千葉, 2020/01/17

1. 大塚 幸喜. 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術 - 周術期管理から実際の手技まで -. 一般口演

第 4 回宮古消化器癌研究会, 宮古, 2020/01/29

1. 大塚 幸喜. 進行大腸癌の完治を目指して - 実際の手技から集学的治療まで -. 講演

Iwate Gastric Cancer Conference, 盛岡, 2020/1/31

1. 二階 春香. 当院における Nivolumab の使用経験. 講演

第 472 回八戸外科集談会, 八戸, 2020/02/13

1. 小松 英明. 乳がん薬物療法の最新の話. 講演

第 11 回肥満症総合治療セミナー, 博多, 2020/02/28 ~ 02/29

1. 佐々木 章. 肥満症外科手術認定施設制度の意義と現状. 講演
- * 佐々木 章. ランチョンセミナー スリーブ状胃切除術とスリーブバイパス術. 司会

第 17 回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2020/03/07

1. 橋元 麻生, 中村 聖華, 有末 篤弘, 高橋 正統, 大山 健一, 杉村 好彦, 門間 信博, 佐々木 章. 消化管転移・卵巣転移および腹膜播種を認めた浸潤性小葉癌の 2 症例. 一般口演
2. 石田 和茂, 藤澤 良介, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 川岸 涼子, 小松 英明, 岩谷 岳, 佐々木 章. 乳癌術後脳転移において ctDNA の上昇を認めた 1 例. 一般演題
3. 小松 英明, 石田 和茂, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 佐々木 章. 当科における局所進行乳癌の治療戦略. シンポジウム
4. 松井 雄介, 川村 英伸, 石橋 正久, 瀬川 武紀, 小松 英明, 石田 和茂. 初期治療として手術療法ではなく内分泌療法を選択した 80 歳以上の高齢者乳癌症例の検討. 一般演題

* 小松 英明 . シンポジウム「局所進行乳癌の治療戦略」. 座長

* 石田 和茂 . 一般演題Ⅲ「薬物」. 座長

第 3 回インタラクティブ ビデオクリニック, WEB 開催, 2020/05/20

1. 大塚 幸喜 . 技術認定医合格に求められる手技 - 苦手克服編 -. 講演

第 22 回外科分子細胞治療研究会, 紙上開催, 2020/08/14

1. 岩谷 岳 . 食道癌日常診療における血漿中循環腫瘍 DNA モニタリングシステムの開発 . 一般口演

9th E-LAP Remote Seminar, WEB 開催, 2020/08/22

1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下 S 状結腸 / 直腸癌手術の不得意分野を克服 . 講演

第 4 回札幌外科漢方 Web セミナー, WEB 開催, 2020/08/28

1. 大塚 幸喜 . 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術 - 周期管理から実際の手技まで -. 講演

第 47 回日本脾切研究会, 福岡, 2020/08/28 ~ 08/29

1. 吉田 瑛司, 船渡 治, 及能 拓朗, 川岸 涼子, 佐藤 慧, 武田 大樹, 河野 剛, 千葉 丈広, 米澤 仁志, 小林 慎, 高金 明典 . 肝動脈走行の破格を伴う脾癌症例に対する脾頭十二指腸切除術 . ミニシンポジウム

第 18 回日本乳癌学会 北海道地方会, 誌上開催, 2020/09/05

1. 清川真緒, 早川善郎, 川岸涼子, 米澤仁志, 高金 明典 . 術後 2 年で遠隔転移をきたした悪性葉状腫瘍の 1 例 . 一般口演
2. 川岸涼子, 早川善郎, 清川真緒, 米澤仁志, 高金明典 . 診断に苦慮した乳腺節外性 NK/T 細胞リンパ腫の 1 例 . 一般口演

第 12 回いわて肥満症治療セミナー, Web 開催, 2020/9/15

- * 佐々木 章 . 特別講演 肥満症のトピックス - 病態の理解から治療の選択まで -. 座長

第 82 回久慈市民公開講座, 久慈, 2020/10/03

1. 大塚 幸喜 . みんなで学ぼう 消化器の病気～最近の治療方法 専門医が教えます～ 大腸がんになっても元気で長生きするためには . 講演

第 95 回中国四国外科学会総会 第 25 回中国四国内視鏡外科研究会, Web 開催, 2020/10/08 ~ 10/21

1. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 松尾 鉄平, 八重樫 瑞典, 高清水 清治, 中村 侑哉, 平田 勇一郎, 佐々木 章 . 当院での ERAS 導入の実際 ～合併症ゼロへの挑戦～ . シンポジウム

第 51 回腹腔鏡下大腸切除講習会, WEB 開催, 2020/10/11

1. 大塚 幸喜 . 技術腹腔鏡下 S 状結腸切除術 - 技術認定医合格の秘訣 -. 講演

第 17 回腹腔鏡下手術の理論と基礎 E-Learning, WEB 開催, 2020/10/12

1. 大塚 幸喜 . 技術認定医合格に求められる手技 - 苦手克服編 -. 講演

第 25 回都城ラバロの会, WEB 開催, 2020/10/17

1. 大塚 幸喜 . 技術認定医合格に求められる手技 - 内側アプローチと直腸授動を極め -. 講演

第 4 回 ZOOM さつま鏡塾, WEB 開催, 2020/10/19

1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下直腸癌手術の実際 - 局所再発させないための基本手技 -. 講演

第 14 回肝臓内視鏡外科研究会, WEB 開催, 2020/10/28

- * 新田 浩幸 . シンポジウム「この症例、こんな場面であなたならどうする？ 私はこうした」. 座長

Professional training for Lap LAR ～リモートハンズオン～, WEB 開催, 2020/11/09

1. 大塚 幸喜 . 計画的 2 回切離の実際 . 講演・実演

Lilly GC Interactive Web seminar, 盛岡 + Zoom, 2020/11/13

1. 馬場 誠朗, 秋山 有史, 二階 春香, 遠藤 史隆, 肥田 圭介 . 当院における進行再発胃癌に対する治療戦略 . 講演

岩手医科大学 外科学講座 スタッフ

役 職	名 前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
教 授	佐々木 章	1988	内分泌代謝	JSES 技術認定（食道）、消化器外科専門医、内分泌外科専門医
	新田 浩幸	1993	肝胆膵	JSES 技術認定（肝臓）、JHBPS 高度技能指導医、消化器外科専門医
准 教 授	大塚 幸喜	1993	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医、大腸肛門病専門医
	岩谷 岳	1995	上部消化管・リサーチ	消化器外科専門医
	秋山 有史	1999	上部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医、食道外科専門医
	鈴木 信	2000	小児外科	小児外科専門医
講 師	木村 聡元	2002	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医、大腸肛門病専門医
	片桐 弘勝	2004	肝胆膵	JHBPS 高度技能専門医、消化器外科専門医
助 教	菅野 将史	2004	肝胆膵	消化器外科専門医
	小松 英明	2004	乳腺	乳腺専門医
	馬場 誠朗	2004	上部消化管	消化器外科専門医
	梅邑 晃	2005	肝胆膵・内分泌代謝	JSES 技術認定（胆道）、消化器外科専門医
	石田 和茂	2005	乳腺	
	遠藤 史隆	2006	上部消化管	消化器外科専門医
	小林めぐみ	2007	小児外科	小児外科専門医
	武田 大樹	2008	肝胆膵	
	八重樫瑞典	2009	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医
助教(任期付)	眞壁 健二	2009	肝胆膵	
	二階 春香	2011	上部消化管	消化器外科専門医
専 門 研 修 医	平田勇一郎	2015	下部消化管	
大 学 院 生	高清水清治	2010	下部消化管	消化器外科専門医
	有吉 佑	2012	下部消化管	消化器外科専門医
	佐々木教之	2012	リサーチ	消化器外科専門医
	石岡 秀基	2015	内分泌代謝	
	橋元 麻生	2016	乳腺	
	田金 恵	2016	上部消化管	
	中村 侑哉	2016	下部消化管	
	屋成 信吾	2017	内分泌代謝	
	伊藤 浩平	2017	上部消化管・リサーチ	
	高橋 真人	2017	内分泌代謝	
	菊地 晃司	2017	肝胆膵	
	藤澤 良介	2017	リサーチ	
	木村 拓	2017	肝胆膵	
	小泉 優香	2018	リサーチ	
	高橋 智子	2018	リサーチ	
	岩崎 崇文	2018		

役 職	名 前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
大 学 院 生	岩佐 友寛	2020		
	大塚 観喜	2020		
	口田 脩太	2020		
専 攻 医	棚橋 洋太	2015		
	川上亜紀子	2017		

非常勤医師

客 員 教 授	寺島 雅典	静岡県静岡がんセンター 副院長
客 員 准 教 授	平井みさ子	東京都立小児総合医療センター 消化器科 医長、茨城県立こども病院 小児外科 非常勤医師
非 常 勤 講 師	阿部 正	岩手県予防医学協会
	杉立 彰夫	高松病院
	大森 浩明	雫石大森クリニック 院長
	川村 英伸	岩手県立久慈病院 院長
	池田健一郎	池田外科・消化器内科医院 院長
	笠原 群生	国立成育医療研究センター 臓器移植センター長
	富澤 勇貴	とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡 院長
	藤村 匠	独立行政法人国立病院機構埼玉病院 小児外科部長
非 常 勤 医 師	矢内 俊裕	茨城県立こども病院 小児外科第二医療局次長
	島袋 誠守	東京ミッドタウンクリニック 外来診療部長
	島津 元秀	医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 院長
	長谷川 康	慶應義塾大学医学部外科学（一般・消化器） 助教
	高原 武志	藤田医科大学総合消化器外科 准教授

治療用電気手術器 / 治療用能動器具



justright
SURGICAL

Just Right 3mm シーリングデバイス



20cmシャフトと10mmジョウ

340° ローテーション

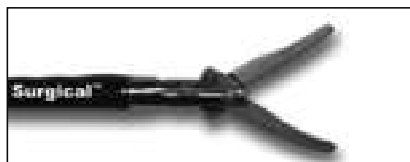
出力ボタン

特徴

- シーリング、把持、剥離が1本で可能
- 3mm径のポートからアクセスが可能
- 5mm径までの血管シーリングが可能
- ジョウ部外側のシーリング熱を抑制(47℃)
- ジョウ部の熱拡散の抑制(1mm以下)
- メリーランドカーブジョウは10mm長で、
繊細な組織及び微細構造の正確な把持、剥離が可能
- シャフト長は20cmで、腹腔鏡下及び開腹手術の両方で
快適に使用可能

Just Right
3mmシーリングデバイスの
利点

一本で
シーリング、把持、剥離
が可能



両開きジョウにより、
微細組織の正確な剥離が可能。



メリーランドカーブジョウにより器具先端部の
視野を確保し、微細組織の正確な把持が可能。



Just Right ジェネレータ

- 25ワット以下にコントロールされた低出力なエネルギーは、繊細な組織及び微細構造
への使用に適しています。
- コントロールされたエネルギーは、シーリング時間を短縮し、熱拡散と組織の焦げ付きを低減
- 直感的で使いやすいデザインで機器のセットアップを簡易化
- シーリングには必要最小限の電流と電圧を出力

承認番号: 23000BZX00211000

治療用電気手術器

erbe エルベVIO3/APC3 高周波手術装置



プラグ & オペレート

VIO3は「プラグ&オペレートで」使いやすいデザインを重視。
各モードは25,000,000回/秒のメス先抵抗計測によりさらに進
化しました。メス先の情報をいち早く反映させることにより、ソフト
コアグ、ドライカットモードはより素早い反応が可能になりました。
又、新たなモードとしてプレサイズセクトが搭載されたVIO3
は様々な分野において優れたパフォーマンスを実現します。

特徴

- 毎秒25,000,000回のメス先抵抗フィードバックを実現
- 多様な手術に対応するマルチコネクション(最大6回路*APC3搭載時)
- インスツルメント主導のインターフェイス
- エルベサポートアプリによる保守管理のサポート

承認番号: 23000BZX00353000

アムコ ライブラリー

検索

会員登録頂くと、製品に関するケースレポート、講演会やセミナー動画、学会・セミナー記録集
などの情報をご覧頂けます。
医療関係者の方を対象としております。



株式
会社

アムコ

www.amco.co.jp

本 社 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-7 TEL. 03 (3265) 4263 FAX. 03 (3265) 2796

Creating for Tomorrow

昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、

より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、次の時代へ大胆に伝えていくために一。

私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

AsahiKASEI

旭化成ファーマ株式会社

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。



astellas

アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/



hvc
human health care

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病氣とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていきたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病氣を見つめるだけではなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

経腸栄養剤(経口・経管両用)

薬価基準収載

イノラス[®] 配合経腸用液 ENORAS[®] Liquid for Enteral Use



ヨーグルトフレーバー



りんごフレーバー



コーヒーフレーバー



いちごフレーバー

187.5mLパウチ

◇効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。



製造販売元
イーエヌ大塚製薬株式会社
岩手県花巻市二枚橋第4地割3-5

販売提携
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

販売提携
株式会社大塚製薬工場
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

資料請求先及び問い合わせ先
株式会社大塚製薬工場 輸液DIセンター
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2

<'20.08作成>

OLYMPUS®

立体視
Stereopsis

汎用性
Versatility

高画質
High image quality

VISERA ELITE II

VISERA 4K UHD

製造販売元	オリンパスメディカルシステムズ株式会社	医療機器番号
販売名	VISERA ELITE II ビデオシステムセンター OLYMPUS OTV-S300	13B1X00277000593
	VISERA 4K UHD カメラコントロールユニット OLYMPUS OTV-S400	13B1X00277000577
	VISERA 4K UHD 高解像度光源装置 OLYMPUS CLV-S400	13B1X00277000578

さまざまな内視鏡下手術に最適な内視鏡システムを。

オリンパスの誇る、高画質、立体視、小型化・汎用化の技術は、多様化する内視鏡下外科手術のニーズに最適なソリューションを提供します。3D観察が可能で汎用性に優れたVISERA ELITE II、さらなる高画質を実現したVISERA 4K UHDと、異なる特徴を有したシステムで内視鏡下外科手術の未来を切り拓きます。

**VISERA
ELITE II**

オリンパス メディカル サイエンス販売株式会社

R780U



承認番号20900BZY00790000

高度管理医療機器 保険適用

癒着防止吸収性バリア

セプラフィルム®

ヒアルロン酸ナトリウム/カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性バリア

- 禁忌・禁止を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) **バクスター株式会社**
東京都中央区晴海一丁目8番10号

発売元
文献請求先
及び問い合わせ先



科研製薬株式会社

〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8
医薬品情報サービス室

JP-AS30-200100 V1.0
SPF04CP (2021年3月作成)

クオリティーの向上



ISO 9001:登録企業



誠実・医療に奉仕

共立医科器械株式会社

●本社 〒020-0013 岩手県盛岡市愛宕町15-9 TEL (019) 623-1205 (代) FAX (019) 653-5301

水沢支店 TEL (0197) 25-6221 (代) FAX (0197) 25-6223

青森営業所 TEL (017) 718-3205 FAX (017) 718-3206

さんりく営業所 TEL (0193) 23-0491 (代) FAX (0193) 23-0976

六ヶ所営業所 TEL (0175) 71-1170 FAX (0175) 71-1171

八戸支店 TEL (0178) 43-2923 (代) FAX (0178) 44-1957

秋田営業所 TEL (018) 884-7464 FAX (018) 884-7465

弘前営業所 TEL (0172) 55-5081 FAX (0172) 55-5082

共立サポートセンター TEL (019) 652-8988

FAX (019) 623-4161

矢巾営業所 TEL (019) 613-6771 FAX (019) 613-6772

■医療機器 ■医療情報システム ■病・医院諸設備 ■理化学機器

<http://www.kmic.co.jp/>



INNOVATING
WITH
PATIENTS
AND
PROVIDERS
IN MIND

より良い医療の実現を目指して

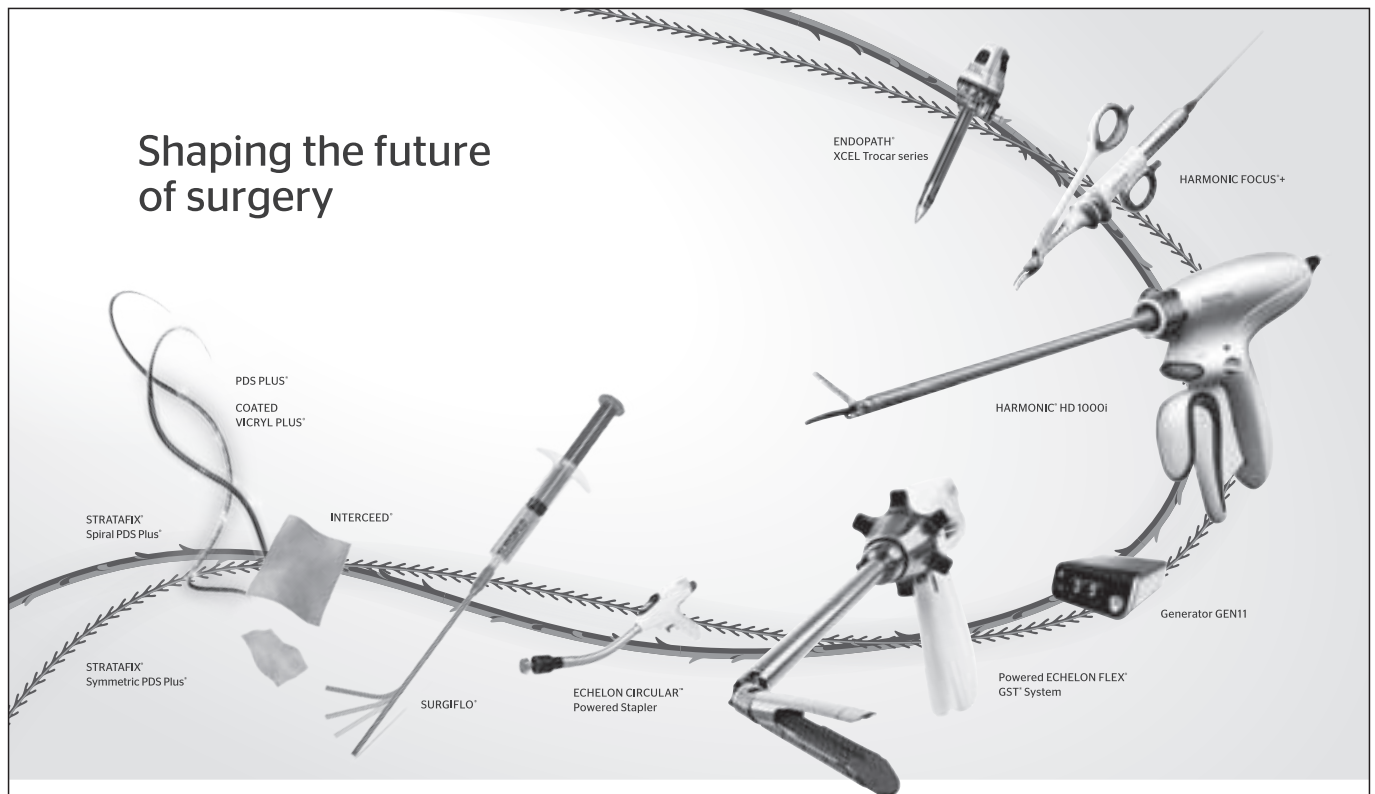
Further, Together
共に医療を次のレベルへ

medtronic.co.jp

コヴィディエンジャパン株式会社

Medtronic

Shaping the future of surgery



ETHICON
PART OF THE JOHNSON & JOHNSON FAMILY OF COMPANIES

販売名:ハーモニック HD 1000i
販売名:ハーモニック FOCUS プラス
販売名:PDS プラス
販売名:エンドパス トロカールシステム
販売名:STRATAFIX Symmetric PDS プラス
販売名:エシェロン サークュラー パワードステイプラー
販売名:エンドスコピック パワード リニヤー カッター
製造販売元:ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号

承認番号:229008ZX00116000
承認番号:227008ZX00411000
承認番号:223008ZX00333000
承認番号:219008ZX00882000
承認番号:228008ZX00272000
承認番号:301008ZX00156000
承認番号:225008ZX00396000

販売名:インターシャード®
販売名:ハーモニック ブルーハンドピース
販売名:バイクリル プラス
販売名:EESジェネレーター
販売名:STRATAFIX Spiral PDS プラス
販売名:サージフロ®
販売名:GSTカートリッジ

承認番号:203008ZY01058000
承認番号:221008ZX00931000
承認番号:220008ZX01652000
承認番号:225008ZX00119000
承認番号:229008ZX00123000
承認番号:231008ZX00112000
承認番号:227008ZX00155000

133480-200226 ©J&JKK 2020



抗悪性腫瘍剤-抗HER2※抗体
トポイソメラーゼⅠ阻害剤複合体

薬価基準収載



エンハーツ® 点滴静注用100mg



一般名/トラスツズマブ デルクステカン(遺伝子組換え)
(Trastuzumab Deruxtecan(Genetical Recombination))
生物由来製品、劇薬、処方薬医薬品:注意-医師等の処方箋により使用すること
※HER2: Human Epidermal Growth Factor Receptor Type 2
(ヒト上皮増殖因子受容体2型、別称: c-erbB-2)

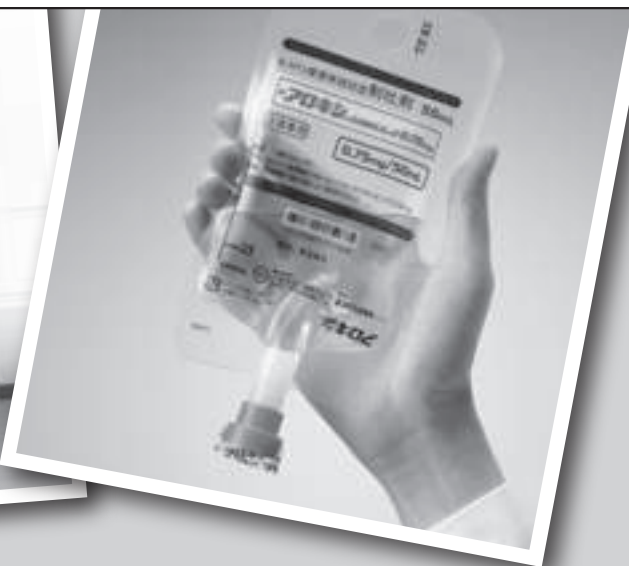
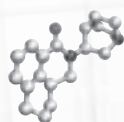
●「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先を含む)



第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1

2020年5月作成



5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤

薬価基準収載

パロノセトロン塩酸塩注射剤

劇薬、処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

「効能又は効果」、「効能又は効果に関連する注意」、「用法及び用量」、「用法及び用量に関連する注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

アロキシ® 静注 0.75mg アロキシ® 点滴静注バッグ 0.75mg
Aloxi® I.V. injection · I.V. infusion bag

製造販売元



文献請求先及び問い合わせ先
大鵬薬品工業株式会社
 〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
 TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>

提携先 **HELSINN** スイス

2020年11月作成

漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
 生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした
 漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。
 そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】0120-329-970 【患者様・一般のお客様】0120-329-930

受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日は除く）

（2019年5月制作）RSCAb01-D

TEIJIN
Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの Quality of Lifeの向上が テイジンの理念です。

帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD003-TB-2002

TERUMO



解熱鎮痛剤
アセトアミノフェン 静注液

薬価基準収載

アセリオ® 静注液 1000mg バッグ

acelio® Bag for Intravenous Injection 1000mg

劇薬、処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元:テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1 www.terumo.co.jp

資料請求先:テルモ株式会社 コールセンター ☎0120-12-8195 (平日9:00-17:45受付)

TERUMO はテルモ株式会社の商標です。 acelio、アセリオはテルモ株式会社の登録商標です。 ©テルモ株式会社 2017年3月 2017年3月作成



CYRAMZA[®]

(ramucirumab)

抗悪性腫瘍剤 ヒト型抗VEGFR-2^注モノクローナル抗体
生物由来製品、創薬、処方箋医薬品*

サイラムザ[®]

点滴静注液 100mg
点滴静注液 500mg

CYRAMZA[®] Intravenous Injection ラムシルマブ(遺伝子組換え)注射液

注) VEGFR-2: Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 (血管内皮増殖因子受容体2)

*注意—医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告、禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

PP-RB-JP-3827
2020年12月作成

製造販売元〈資料請求先〉
日本イーライリリー株式会社

Lilly Answers リリーアンサーズ
日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口
0120-360-605 (医療関係者向け)
受付時間: 月～金 8:45～17:30

Lilly

消化器科領域の製品

抗悪性腫瘍剤 創薬、処方箋医薬品*

動注用アイエーコール[®] 50mg・100mg

シスプラチン製剤

抗悪性腫瘍剤 創薬、処方箋医薬品*
Randa Inj. **ランタ[®]注**
シスプラチン製剤
10mg/20mL
25mg/50mL
50mg/100mL

抗悪性腫瘍剤 創薬、処方箋医薬品*

オキサリプラチン点滴静注液 50mg・100mg・200mg「NK」

オキサリプラチン点滴静注液

代謝拮抗剤 創薬、処方箋医薬品*

エヌケ-エスワン[®] 配合カプセル T20・T25

テガフル・ギメラシル・オデラルシルカリウム配合カプセル剤

エヌケ-エスワン[®] 配合顆粒 T20・T25

テガフル・ギメラシル・オデラルシルカリウム配合顆粒剤

エヌケ-エスワン[®] 配合 OD錠 T20・T25

テガフル・ギメラシル・オデラルシルカリウム配合口腔内崩壊錠

抗悪性腫瘍剤 創薬、処方箋医薬品*

カベシタピン錠 300mg「NK」

カベシタピン錠

抗悪性腫瘍剤 創薬、処方箋医薬品*

バクリタキセル[®] 注 30mg/5mL

バクリタキセル製剤 注 100mg/16.7mL「NK」

タキソイド系抗悪性腫瘍剤 創薬、処方箋医薬品*

ドセタキセル点滴静注 20mg/1mL「ニプロ」

ドセタキセル点滴静注 80mg/4mL「ニプロ」

抗悪性腫瘍剤 創薬、処方箋医薬品*

イリノテカン塩酸塩点注液 40mg「NK」

イリノテカン塩酸塩点注液 100mg「NK」

代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤 創薬、処方箋医薬品*

ゲムシタピン点滴静注 200mg・1g「NK」

点滴静注用ゲムシタピン塩酸塩

ゲムシタピン点滴静注液 200mg/5mL「NK」

ゲムシタピン塩酸塩注射液 1g/25mL

抗HER2ヒトモノクローナル抗体 抗悪性腫瘍剤 生物由来製品、処方箋医薬品*

トラスツズマブ[®] BS点滴静注 60mg・150mg「NK」

トラスツズマブ(遺伝子組換え)〔トラスツズマブ後続1〕製剤

*注意—医師等の処方箋により使用すること

文献請求先及び
問い合わせ先



日本化薬株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

日本化薬 医薬品情報センター
0120-505-282 (フリーダイヤル)

日本化薬 医療関係者向け情報サイト
<https://minknipponkayaku.co.jp/>

NK
Specialty, Biosimilar & Generic

※効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

薬価基準収載

'19.12作成



Novartis Pharma K.K.

新しい発想で医療に貢献します

ノバルティスのミッションは、より充実した、すこやかな毎日のために、
新しい発想で医療に貢献することです。

イノベーションを推進することで、治療法が確立されていない疾患にも
積極的に取り組み、新薬をより多くの患者さんにお届けします。

 NOVARTIS

ノバルティス ファーマ株式会社

<http://www.novartis.co.jp/>



抗悪性腫瘍剤 / キナーゼ阻害剤

スチバーガ錠[®]40mg

Stivarga[®] tablets 40mg

劇薬、処方箋医薬品^{注)}

レゴラフェニブ錠

薬価基準収載

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては製品
添付文書をご参照ください。

弊社製品情報サイト
(<http://pharma-navi.bayer.jp/stivarga/>) をご参照ください



Bayer

資料請求先

バイエル薬品株式会社
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
<http://byl.bayer.co.jp/>

(2018年2月作成) L.JP.MKT.OH.02.2018.2860

Pfizer Oncology

抗悪性腫瘍剤 (CDK4/6阻害剤)

イブランス[®] 錠
25mg
125mg

IBRANCE[®] 25mg・125mg Tablets パルボシクリブ錠

薬価基準収載

劇薬 処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等は、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 (輸入)

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

文献請求先及び問い合わせ先: 製品情報センター

2020年5月作成
IBN72K005A

MARUKIは、
最新の情報と質の高いサービスの提供を通して
地域医療の発展に貢献して参ります



丸木医科器械株式会社
Maruki Medical Systems Inc.

■ 仙台支店
〒981-1105 宮城県仙台市太白区西中田3-20-7
TEL 022-242-6001 (代)

■ 鶴岡営業所
〒997-0046 山形県鶴岡市みどり町12-10 コアビル202
TEL 0235-29-1377 (代)

■ 秋田営業所
〒010-1417 秋田県秋田市四ツ小屋字中野64-1-B-13
TEL 018-889-6400 (代)

■ 気仙沼出張所
〒988-0053 宮城県気仙沼市田中前3丁目6-8 メイプルハイツB号
FAX 0226-22-0880

■ 山形支店
〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘2-2-22
TEL 023-695-3000 (代)

■ 岩手支店
〒028-3621 岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢第五地割313番
TEL 019-698-1567 (代)

■ 秋田南営業所
〒013-0043 秋田県横手市安田字越廻37
TEL 0182-33-4751 (代)

■ 庄内営業所
〒998-0875 山形県酒田市東町1-26-8
TEL 0234-23-7566 (代)

■ 水沢営業所
〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字龍神2-3
TEL 0197-25-7703 (代)

■ 八戸営業所
〒039-1165 青森県八戸市石堂2-29-6-102
TEL 0178-21-8009 (代)

教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

発行年月日／令和 3 年 3 月 23 日

発行責任者／佐々木 章

発 行／岩手医科大学医学部外科学講座同門会

〒028-3695 紫波郡矢巾町医大通 2 丁目1-1

TEL 019-613-7111 (6220)

FAX 019-907-7344

編 集 者／秋山 有史

制 作／有限会社ヤマダプランニング

■表写真説明

為内(いない)の一本桜は、八幡平市の岩手山を望む小高い丘に咲く一本桜です。かつて神社があった丘で、例年4月下旬～5月上旬には残雪が残る雄大な岩手山をバックに満開のソメイヨシノが見事な花を咲かせ、県内外から訪れる花見客を魅了します。なお、付近は私有地となっていますので、立ち入りにはご注意ください。

■裏写真説明

千年の老杉(周囲14m/高さ45m)は稲荷神社を表徴し、信仰者には延命長寿をこの老杉に祈り、白狐の神毛を根本から探し求める風習があります。
志和稲荷神社～しわ乃おいなりさん(shiwa-oinarisan.jp)

巖刀会 (がんとうかい:岩手山別称(巖鷲山)から1字とり、岩手の外科医の象徴の意)

醫藥



●稲荷山大杉（志和稲荷神社）